TASCAM

D01155401B

SS-CDR200

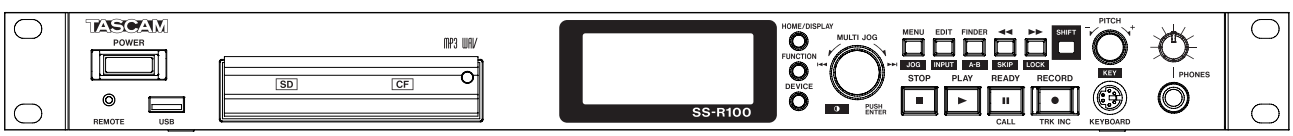
Solid State / CD Stereo Audio Recorder

SS-R200

SS-R100

Solid State Stereo Audio Recorder

取扱説明書



安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

⚠ **警告**	**以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、火災や感電などによって、死亡や大怪我などの人身事故の原因となります。**
 電源プラグをコンセントから抜く	**万一、異常が起きたら** **煙が出たり、変なにおいや音がするときは** **機器の内部に異物や水などが入ったときは** **この機器を落としたり、カバーを破損したときは** すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。 販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）に修理をご依頼ください。
 禁止	**電源コードを傷つけない** **電源コードの上に重いものをのせたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きにしない** **電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱したりしない** コードが傷んだまま使用すると火災・感電の原因となります。 万一、電源コードが破損したら(芯線の露出、断線など)、販売店またはティアック修理センター(裏表紙に記載)に交換をご依頼ください。
	付属の電源コードを他の機器に使用しない 故障、火災、感電の原因となります。
	この機器を設置する場合は、放熱をよくするために、壁や他の機器との間は少し(20cm以上)離して置く **ラックなどに入れるときは、機器の天面から15cm以上、背面から10cm以上の隙間をあける** 隙間をあけないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
	この機器の通風孔などから内部に金属類や燃えやすい物などを差し込んだり、落としたりしない 火災・感電の原因となります。
	この機器の通風孔をふさがない 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
 指示	**電源プラグにほこりをためない** 電源プラグとコンセントの周りにゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。 定期的（年１回くらい）に電源プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。
 禁止	**機器の上に花びんや水などが入った容器を置かない** 内部に水が入ると火災・感電の原因となります。
 分解禁止	**この機器のカバーは絶対に外さない** カバーを外す、または改造すると、火災・感電の原因となります。 内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）にご依頼ください。
	この機器を改造しない 火災・感電の原因となります。

⚠ **注意**	**以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によって、怪我をしたり、周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。**
電源プラグをコンセントから抜く	**移動させる場合は、電源のスイッチを切るか、またはスタンバイにし、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す** コードが傷つき、火災・感電の原因や、引っ掛けてケガの原因になることがあります。
	旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く 通電状態の放置やお手入れは、漏電や感電の原因となることがあります。
指示	**オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する** **また、接続は指定のコードを使用する**
	電源を入れる前には、音量を最小にする 突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。
	この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグは簡単に手が届くようにする 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにしてください。
	この機器には、付属の電源コードを使用する それ以外の物を使用すると、故障、火災、感電の原因となります。
禁止	**ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない** **湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない** **調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所に置かない** 火災・感電やケガの原因となることがあります。
	電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。 必ずプラグを持って抜いてください。
禁止	**濡れた手で電源プラグを抜き差ししない** 感電の原因となることがあります。
注意	5年に一度は、機器内部の掃除を販売店またはティアック修理センターにご相談ください。 内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。 特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については、ご相談ください。

目次

安全にお使いいただくために 2

第1章　はじめに 6
- SS-CDR200 ／ SS-R200 ／ SS-R100の違い 6
- 本機の概要 6
- 本機の構成 6
- 本書の表記 6
- 商標および著作権に関して 7
- 設置上の注意 7
- 電源について 7
- 結露について 7
- 製品のお手入れ 7
- USBメモリー／ SDカード／ CFカードについて 8
  - 取り扱い上の注意 8
  - 動作確認メディアについて 8
  - SDカードのライトプロテクトについて 8
  - FORMATについて 8
- CD（コンパクトディスク）について 8
  - 取り扱い上の注意 8
  - CD-RディスクとCD-RWディスク 9
- スロットインタイプのディスクの挿入 9
- アフターサービス 9

第2章　各部の名称と働き 10
- フロントパネル 10
- リアパネル 12
- ワイヤードリモコン（TASCAM RC-SS2） 13
- ホーム画面 14
  - ホーム画面のFUNCTION表示 15
- 録音画面 16
  - 録音画面のFUNCTION表示 17
- メニューの構成 17
- メニュー操作の基本 18
  - メニュー操作の手順 18

第3章　準備 20
- 接続する 20
- 電源のオン／オフ 21
- 日時を設定する 21
- ディスプレーを調節する 22
  - ディスプレーのコントラスト調節 22
  - ディスプレーとインジケーターの輝度調節 22
- SDカードおよびCFカードを挿入する／取り出す 22
  - SDカードおよびCFカードを挿入する 22
  - SDカードおよびCFカードを取り出す 23
  - セキュリティービスについて 23
  - SDカードのプロテクトスイッチについて 23
- ディスクを挿入する／取り出す（SS-CDR200のみ） 23
  - ディスクを挿入する 23
  - ディスクを取り出す 23
- デバイスを選択する 24
- USBメモリー／ SDカード／ CFカードを使えるようにする 24
- パネルロック機能 25

第4章　再生 26
- 再生可能なファイル 26
  - トラックとファイル 26
- 再生範囲 26
  - 再生範囲を設定する 26
  - カレントフォルダー、カレントプレイリストを選ぶ 27
- 再生モード 27
  - 再生モードを設定する 27
- 再生の基本操作 28
  - 再生する 28
- トラックを選ぶ 28
  - 前後のトラックにスキップする 28
  - トラック番号を指定する 28
- 早戻し／早送りサーチ 28
- タイムサーチ 28
  - 途中まで指定してタイムサーチを行う 29
- ジョグ再生 29
- スキップバック／フォワード 29
  - スキップタイムを設定する 29
- コール機能 30
- プログラム再生 30
  - プログラムを設定する 30
- ピッチコントロール再生 31
  - ピッチステップを設定する 31
- キーコントロール再生 31
- リピート再生 32
  - 通常のリピート再生 32
  - A-Bリピート再生 32
- オートキュー機能 33
- オートレディ機能 33
- インクリメンタルプレー機能 34
- モノラルで再生する 34
- EOM機能（SS-CDR200 ／ SS-R200のみ） 35
  - EOMタリー出力のトリガーを設定する 35
  - 実際の使用方法 35
- レジューム再生する 36
- パワーオンプレーをする 36
- リンク再生機能 37
  - リンク再生の接続 37
  - リンク再生を設定する 37
- フラッシュスタート機能 38

第5章　録音 39
- 不慮の電源遮断について 39
- 入力ソースを選択する 39
  - 本体から操作で選択する 39
  - リモコンの専用ボタンで選択する 39
  - 入力ソースの表示 39
- 録音ファイル形式を設定する 40
- サンプリングレートコンバーターを使う 41
- 入力信号をモニターする 41
- 入力信号のレベルとバランスを調節する 41
- 録音の基本操作 42
- CD-R ／ CD-RWディスクのファイナライズ（SS-CDR200のみ） 42
  - ファイナライズする 42
- シンク録音する 43
  - 設定する 43
  - シンク録音の動作 44
- オートトラック機能 44
- トラック番号を手動で更新する 46
- ポーズモードを設定する 46
- コンプレッサーを掛けて録音する 46

録音ファイル名の形式を設定する
（MP3ファイル／ WAVファイルのみ）.....47
文字の設定方法.....47
ディザーを掛けて録音する.....48
録音時間について.....48

第6章　ファイルやフォルダーの操作（FINDER画面）.....49
FINDER画面を開く.....49
FINDER画面内のナビゲーション.....49
FINDER画面内のアイコン表示.....49
ファイルの操作.....50
フォルダーの操作.....50
フォルダー名を編集する
（USBメモリー／ SDカード／ CFカードのみ）.....51
ファイル名を編集する
（USBメモリー／ SDカード／ CFカードのみ）.....51
フォルダーやファイルを削除する
（USBメモリー／ SDカード／ CFカードのみ）.....52
フォルダー全体をプレイリストに追加する
（USBメモリー／ SDカード／ CFカードのみ）.....52
ファイルをプレイリストに追加する
（USBメモリー／ SDカード／ CFカードのみ）.....53
新しいフォルダーを作成する
（USBメモリー／ SDカード／ CFカードのみ）.....53
ファイルの移動とコピー
（USBメモリー／ SDカード／ CFカードのみ）.....54
同一フォルダー内のファイル移動.....54
フォルダー間のファイル移動／コピー.....54

第7章　オーディオCDのFINDER画面を使う（SS-CDR200のみ）.....55
オーディオCDのFINDER画面を開く.....55
再生するトラックを選ぶ.....55
CD-TEXTを編集する
（CD-R ／ CD-RWディスクのみ）.....55

第8章　エディットメニューを使う（USBメモリー／ SDカード／ CFカードのみ）.....56
エディットメニューの操作.....56
ファイルを削除する（DELETE）.....56
ファイルを分割する（DIVIDE）.....57
ファイルを結合する（COMBINE）.....58
エディットメニューの操作を取り消す（UNDO）.....59

第9章　プレイリストの編集（USBメモリー／ SDカード／ CFカードのみ）.....60
概要.....60
USER PLAYLIST画面を開く.....60
プレイリスト画面内のナビゲーション.....60
プレイリストのFINDER MENUの操作.....61
プレイリストにファイルを追加する.....61
プレイリストのファイルを削除する.....62
ファイルを移動する.....62

第10章 CDとUSBメモリー／ SDカード／ CFカード間のファイルコピー（SS-CDR200のみ）....63
USBメモリー／ SDカード／ CFカードの
ファイルをブランクCDにコピー／変換コピーする.....63
オーディオCDを作成する.....63
データCDを作成する.....65
CDのファイルをUSBメモリー／ SDカード／ CFカードにコピー／変換コピーする.....67
オーディオCDのトラックを変換コピーする.....67
データCDのファイルをコピーする.....68

第11章　CD-RWの管理（SS-CDR200のみ）.....70
CD-RWディスクをアンファイナライズする.....70
CD-RWディスクを消去する.....70
トラックを消去する.....71
ディスクをリフレッシュ（全面消去）する.....71

第12章　各種設定および情報表示.....72
フットスイッチによるコントロール.....72
フットスイッチを設定する.....72
フットスイッチを使う.....72
各モードの詳細.....72
デジタル出力設定.....72
メディアの情報を見る.....73
出荷時の設定に戻す.....73

第13章　コンピューターキーボードを使った操作.....74
キーボードタイプの設定.....74
キーボードを使って名前を入力する.....74
キーボード操作一覧.....74

第14章　コントロールI/Oを使う（SS-CDR200 ／ SS-R200のみ）.....76
RS-232C端子を使う.....76
パラレル端子を使う.....76

第15章　メッセージ一覧.....78
エラーメッセージ.....78
警告メッセージ.....78
動作メッセージ.....79

第16章　トラブルシューティング.....80

第17章　仕様.....81
定格.....81
入出力定格.....81
アナログオーディオ入出力定格.....81
デジタルオーディオ入出力定格.....81
コントロール入出力定格.....81
オーディオ性能.....82
バックアップメモリー.....82
一般.....82
寸法図.....83

第1章　はじめに

このたびは、TASCAM Solid State / CD Stereo Audio Recorder SS-CDR200、およびSolid State Stereo Audio Recorder SS-R200 ／ SS-R100をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しい取り扱い方法をご理解いただいたうえで、末永くご愛用くださいますようお願い申しあげます。お読みになったあとは、いつでも見られるところに保管してください。
また取扱説明書は、TASCAMのウェブサイト（**http://tascam.jp/**）からダウンロードすることができます。

SS-CDR200 ／ SS-R200 ／ SS-R100の違い

SS-CDR200は、SS-R100にCDドライブ、XLRバランス入出力、シリアルコントロール端子、パラレルコントロール端子、EOM機能を追加したモデルです。
SS-R200は、SS-R100にXLRバランス入出力、シリアルコントロール端子、パラレルコントロール端子、EOM機能を追加したモデルです。
SS-CDR200 ／ SS-R200のリアパネルには、XLRバランス入出力端子およびRCAアンバランス入出力端子を装備しています。入力信号はXLRバランス入力またはRCAアンバランス入力を選択可能です。

本機の概要

- CDメディア、USBメモリー／ SDカード／ CFカードをメディアに使った2チャンネルオーディオレコーダー（CDメディアは、SS-CDR200のみ）
- 1Uのラックマウントサイズ
- USBメモリー／ SDカード／ CFカードを使って、サンプリング周波数44.1k ／ 48kHz、16 ／ 24ビット（24ビットは再生のみ）のMP3ファイルまたはリニアPCM（WAVファイル）の再生／録音が可能。（24ビットは再生のみ）
- CDメディアを使って、オーディオCD（CD-DA）またはMP3ファイルの再生／録音、およびWAVファイルの再生が可能（SS-CDR200のみ）
- パラレルおよびシリアルのコントロールポートを装備し、外部からのコントロールが可能（SS-CDR200 ／ SS-R200のみ）
- 瞬時に再生が始まるフラッシュスタート（ポン出し）機能を装備
- ピッチコントロール、キーコントロールなどの再生コントロールが可能
- プレイリストやフォルダーを使って、再生範囲を自由に設定可能
- トラック編集が可能（WAVファイルのみ）
- タイムスタンプ用の時計を内蔵
- バランス（SS-CDR200 ／ SS-R200のみ）およびアンバランスのアナログオーディオ入出力とコアキシャルタイプのデジタルオーディオ入出力を装備
- 確実な操作が可能なワイヤードリモコンを付属
- PS/2 ／ USBキーボードからのコントロールや文字入力が可能
- フットスイッチ（TASCAM RC-3F：別売）によるトランスポートやピッチのコントロールに対応
- ダイレクトプレーリモコン（TASCAM RC-20：別売）によるフラッシュスタート機能に対応

本機の構成

本製品の構成は、以下の通りです。
なお、開梱は本体に損傷を与えないよう慎重に行ってください。梱包箱と梱包材は、後日輸送するときのために保管しておいてください。
付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合は、当社までご連絡ください。

- 本体　x1
- 電源コード　x1
- リモコン（RC-SS2、ワイヤー長：5m）　x1
- ラックマウントビスキット　x1
- セキュリティービス　x1
- 保証書　x1
- 取扱説明書（本書）　x1

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- SS-CDR200またはSS-R200にのみ対応している内容を、「(SS-CDR200 ／ SS-R200のみ)」または「(SS-CDR200のみ)」と表記します。
- 取扱説明書内のフロントパネルのイラストは、SS-CDR200のものです。SS-R200 ／ SS-R100の本体と異なる場合があります。
- 本機および外部機器のボタン／端子などを「**HOME/DISPLAY**ボタン」のように太字で表記します。
- ディスプレーに表示される画面は、SS-CDR200のものです。SS-R200 ／ SS-R100のディスプレーに表示される画面と異なる場合があります。
- ディスプレーに表示される文字を**“MENU”**のように**“_”**で使って表記します。
- 「USBフラッシュドライブ」のことを「USBメモリー」と表記します。
- 「SDメモリーカード」のことを「SDカード」と表記します。
- 「コンパクトフラッシュカード」のことを「CFカード」と表記します。
- 「CD-DA」形式のことを「オーディオCD」形式と表記する場合があります。また、オーディオCD形式のトラックを記録したCDを「オーディオCD」と表記する場合があります。
- MP3ファイルやWAVファイルを記録したCDを「データCD」と表記します。
- 未使用のCD-R ／ CD-RWディスクのことを「ブランクCD」と表記する場合があります。
- 現在選択中のデバイスのことを「カレントデバイス」と表記します。
- 現在選択中のフォルダーのことを「カレントフォルダー」と表記します。
- 現在選択中のプレイリストのことを「カレントプレイリスト」と表記します。
- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」として記載します。

ヒント

本機をこのように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などをします。

注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

商標および著作権に関して

- TASCAMおよびタスカムは、ティアック株式会社の登録商標です。
- SDHCロゴは、SD-3C, LLCの商標です。

- CompactFlash（コンパクトフラッシュ）は、米国およびその他の国におけるサンディスク社の商標または登録商標です。
- Supply of this product does not convey a license nor imply any right to distribute MPEG Layer-3 compliant content created with this product in revenue-generating broadcast systems (terrestrial, satellite, cable and/or other distribution channels), streaming applications (via Internet, intranets and/or other networks), other content distribution systems (pay-audio or audio-on-demand applications and the like) or on physical media (compact discs, digital versatile discs, semiconductor chips, hard drives, memory cards and the like). An independent license for such use is required. For details, please visit http://mp3licensing. com.
- MPEG Layer-3 audio coding technology licensed from Fraunhofer IIS and Thomson.
- 当製品には、イーソル株式会社のFATファイルシステム、PrFILE®2およびPrFILE2 Unicode Interfaceが搭載されています。
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

ここに記載されております製品に関する情報、諸データは、あくまで一例を示すものであり、これらに関します第三者の知的財産権、およびその他の権利に対して、権利侵害がないことの保証を示すものではございません。従いまして、上記第三者の知的財産権の侵害の責任、またはこれらの製品の使用により発生する責任につきましては、弊社はその責を負いかねますのでご了承ください。

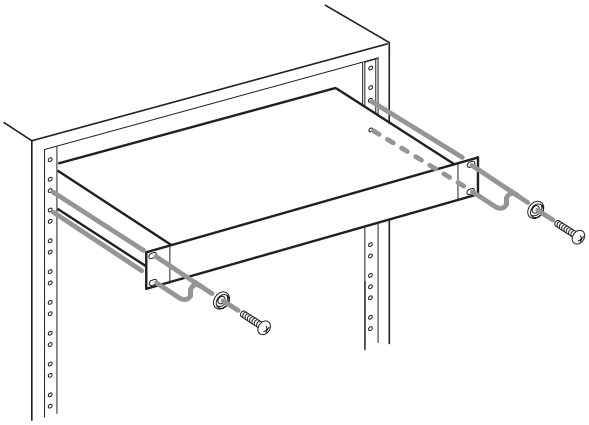
第三者の著作物は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。装置の適正使用をお願いします。
弊社では、お客様による権利侵害行為につき一切の責任を負担致しません。

設置上の注意

- 本機の動作保証温度は、摂氏5度～35度です。
- 次のような場所に設置しないでください。音質悪化の原因、または故障の原因となります。

  振動の多い場所
  窓際などの直射日光が当たる場所
  暖房器具のそばなど極端に温度が高い場所
  極端に温度が低い場所
  湿気の多い場所や風通しが悪い場所
  ほこりの多い場所

- 本機は、水平に設置してください。
- 放熱をよくするために、本機の上には物を置かないでください。
- パワーアンプなど熱を発生する機器の上に本機を置かないでください。
- 本機をラックにマウントする場合は、付属のラックマウントビスを使って、下図のように取り付けてください。
  なお、ラック内部では、本機の上に1U以上（5cm以上）のスペースを空けてください。



電源について

- 付属の電源コードを**AC IN**端子に奥までしっかりと差し込んでください。
- AC100V (50-60Hz) 以外の電源には､接続しないでください。
- 電源コードの抜き差しは、プラグを持って行ってください。

結露について

本機を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など､気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは、約1～2時間放置した後、電源を入れてお使いください。

製品のお手入れ

製品の汚れは、柔らかい布で乾拭きしてください。化学ぞうきん、ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。表面を傷める、または色落ちさせる原因となります。

USBメモリー／ SDカード／ CFカードについて

本機では、USBメモリー／ SDカード／ CFカードを使って再生／録音を行います。
TASCAMのウェブサイト（**http://tascam.jp/**）には、当社で動作確認済みのUSBメモリー／ SDカード／ CFカードのリストが掲載されています。

取り扱い上の注意

USBメモリー／ SDカード／ CFカードは、精密にできています。メモリーおよびカードの破損を防ぐため、取り扱いにあたって以下の点をご注意ください。

- 極端に温度の高いあるいは低い場所に放置しないこと。
- 極端に湿度の高い場所に放置しないこと。
- 濡らさないこと。
- 上に物を乗せたり、ねじ曲げたりしないこと。
- 衝撃を与えないこと。
- 録音、再生状態やデータ転送などアクセス中に、抜き差しはしないこと。
- 持ち運ぶ際、端子むき出しのままにせず、カバーを被せて運ぶこと。

動作確認メディアについて

本機は、USBメモリー／ SDカード／ CFカードを使って再生／録音を行います。
マイクロドライブは、使うことができません。
なお、古いUSBメモリー／ SDカード／ CFカードや一部のUSBメモリー／ SDカード／ CFカードの中には、動作スピードの遅いメモリー部品を使っている、または内部バッファー容量の小さいものがあります。こうしたUSBメモリー／ SDカード／ CFカードを使うと、本機の録音性能に影響を及ぼす可能性があります。
TASCAMのウェブサイトには、当社で動作確認済みのUSBメモリー／ SDカード／ CFカードのリストが掲載されていますのでご参照ください。または、タスカムカスタマーサポートまでお問い合わせください。（**http://tascam.jp/**）

SDカードのライトプロテクトについて

本機は動作上のパフォーマンスを向上のために、トラック情報をメディアに書き込みます。ライトプロテクトをされたSDカードにはトラック情報の書き込みができないため、メディアの読み込み時間が長くなるなどの影響が出ます。

FORMATについて

本機でフォーマットされたフラッシュメディアは録音時の性能向上のために最適化されています。パソコンなどでフォーマットされたフラッシュメディアは本機での録音時にエラーになる可能性があります。
できる限り本機でフォーマットしたフラッシュメディアを使用することをお勧めします。

CD（コンパクトディスク）について

本機は、市販の音楽CDのほかに、オーディオCD形式で記録したCD-RやCD-RWディスク、MP3ファイルやWAVファイルを記録したCD-R ／ CD-RWディスクを再生することができます。また、8cmCDの再生も可能です。

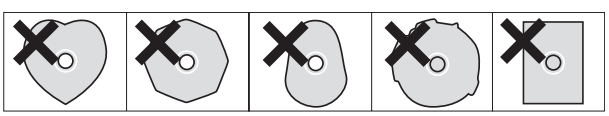
取り扱い上の注意

- 録音には以下のマークがあるコンパクトディスクをお使いください。

CD-R

CD-RW

- ディスクは、必ずレーベル面を上にして挿入してください。
- ディスクをケースから取り出すときは、ケースの中心を押しながら、ディスクの外周部分を手で挟むように持ってください。
- 信号録音面（レーベルがない面）には、触れないでください。指紋や脂などが付着していると、再生するときにエラーの原因になることがあります。
- 信号録音面に指紋やほこりがついたら、柔らかい布を使って中心から外側に向かって軽く拭いてください。
  ディスクの汚れは音質低下の原因となりますので、いつもきれいに清掃して保管してください。
- ディスクの清掃に、レコードクリーナー、帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどの化学薬品を使用することは絶対お止めください。表面が変質して再生不能になる恐れがあります。
- ディスクにラベルなどを貼ることはおやめください。盤面にセロハンテープやレンタルCDのシールなどをはがしたあとがあるもの、またシールなどから糊がはみ出ているものは使用しないでください。そのまま本機にかけると、ディスクが取り出せなくなる、または故障の原因となることがあります。
- 市販のCD用スタビライザーは、絶対に使用しないでください。再生できない、または故障の原因になります。
- ヒビが入ったディスクは使用しないでください。
- ハート形や名刺形、八角形など特殊形状のCDは、機器の故障の原因になりますので使用しないでください。

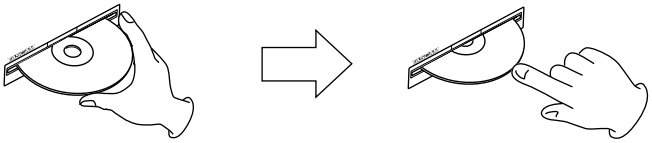


- いくつかのレコード会社より「コピーコントロールCD」と銘打った著作権保護を目的としたディスクが販売されています。これらはCD規格に則っていないディスクも存在するため、本機で再生できない場合があります。
- CD-RやCD-RWディスクの取り扱いについてご不明な点がある場合は、ディスクメーカーに直接お問い合わせください。

CD-RディスクとCD-RWディスク

CD-Rディスクには、一度だけしか記録できません。記録したトラック（曲）を消去することもできません。ただし、ファイナライズ処理を施していないディスクで、ディスクの記録可能時間が残っている場合は、追加記録が行えます。記録が終了したCD-Rは、ファイナライズ処理を施すことで、一般のCDプレーヤーでも再生できるようになります（一部のCDプレーヤーでは再生できないことがあります）。
CD-RWディスクは、記録可能容量を使いきった場合でも、記録した曲を消去すれば繰り返し使用することができます。ただし、消去できるのは指定した曲から最後に記録した曲までに限られます。途中の曲だけを消去することはできません。CD-RWは、ファイナライズ処理を施しても、CD-RWに対応したCDプレーヤーでしか再生できません。

スロットインタイプのディスクの挿入



1. 図のようにレーベル面を上にしてディスクの側面を持って、途中までディスクを挿入してください。
2. さらにディスクを押していくと、ディスクが挿入口に隠れる直前で自動的に引き込まれます。

8cmCDを挿入するには

8cmCDを挿入するときは、スロットの中央で奥まで押し込んでください。中央からずれているとうまく挿入できないことがあります。

ディスクがうまく入らないとき

ディスクが引っ掛かるなど、押しにくいときは、無理に押し込まずに一度ディスクを抜いて**EJECT**ボタンを押してから、入れ直してください（無理に押し込むと、製品を破損する場合があります）。

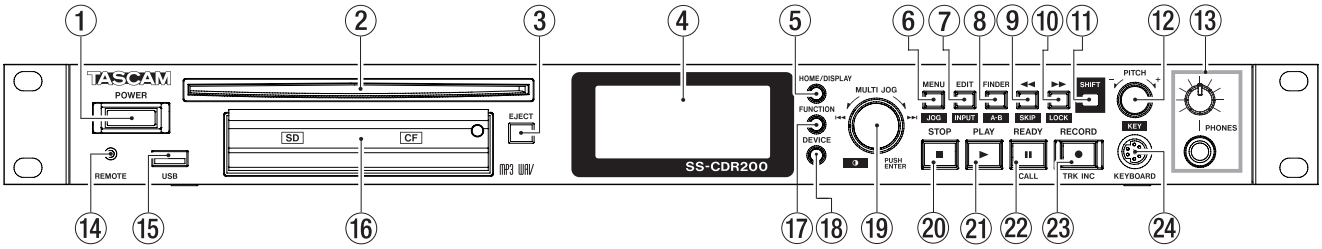
アフターサービス

- この製品には、保証書を別途添付しております。保証書は、所定事項を記入してお渡ししています、大切に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年です。保証期間中は、記載内容によりティアック修理センターが修理いたします。ただし、保証期間内であっても使用1,000時間を超えた場合の故障および損傷は有償になります。その他の詳細については、保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについては、お買い上げの販売店またはティアック修理センターにご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。
- 万一、故障が発生した場合は使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店またはティアック修理センターまでご連絡ください。修理を依頼される場合は、次の内容をお知らせください。
  なお、本機の故障、もしくは不具合により発生した付随的損害（録音内容などの補償）の責については、ご容赦ください。
  - 型名、型番（SS-CDR200、SS-R200、SS-R100）
  - 製造番号（Serial No.）
  - 故障の症状（できるだけ詳しく）
  - お買い上げ年月日
  - お買い上げ販売店名
- お問い合わせ先については、巻末をご参照ください。
- 本機を廃棄する場合に必要となる収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

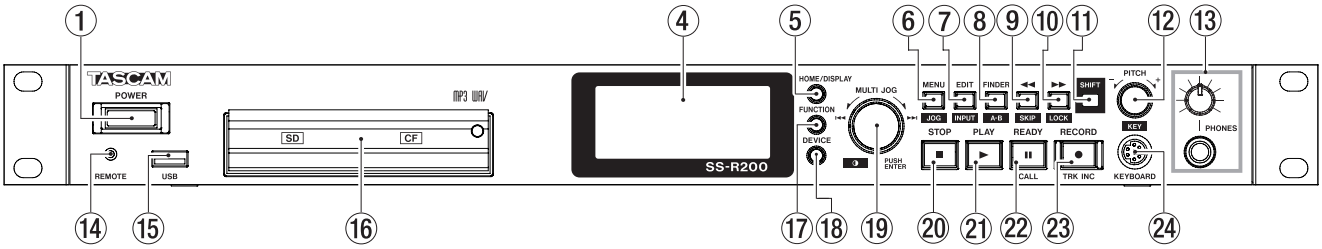
第2章　各部の名称と働き

フロントパネル

SS-CDR200 フロントパネル



SS-R200 ／ SS-R100 フロントパネル



① POWERスイッチ

電源のオン／オフを行います。

注意

電源を入れる前には、接続機器の音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

② ディスク挿入口（SS-CDR200のみ）

ディスクを挿入します。

ディスクの一部を挿入すると自動的に引き込まれます。

③ EJECTボタン（SS-CDR200のみ）

ディスクを取り出すときに押します。

④ ディスプレー

各種情報を表示します。

⑤ HOME/DISPLAYボタン

“MENU”画面や**“FINDER”**画面表示中に押すと、ホーム画面に戻ります。

ホーム画面表示中にこの押すと、ホーム画面の表示モードが切り換わります。(→ 14ページ「ホーム画面」)、(→ 16ページ「録音画面」)

→TRACKモード→TOTALモード →TITLEモード→ FOLDERモード

⑥ MENU [JOG] ボタン

ホーム画面表示中にこのボタンを押すと、**“MENU”**画面を表示します。

“MENU”画面を表示中にこのボタンを押すと、右側にあるカーソルを左側に移動します。さらにこのボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。

SHIFTボタンを押しながらこのボタンを押すと、ジョグ再生モードになります。(→ 29ページ「ジョグ再生」)

メニューモード時、メニュー階層を一つ戻します。

⑦ EDIT [INPUT] ボタン

このボタンを押すと、その位置で再生待機状態になりエディットメニューをポップアップ表示します。(→ 56ページ「エディットメニューを使う（USBメモリー／ SDカード／ CFカードのみ)」)

SHIFTボタンを押しながらこのボタンを押すと、現在の入力ソースが表示されます。入力ソースが表示中に押すと、入力ソースが切り換わります。(→ 39ページ「入力ソースを選択する」)

⑧ FINDER [A-B] ボタン

ホーム画面表示中にこのボタンを押すと、**“FINDER”**画面を表示します。(→ 49ページ「ファイルやフォルダーの操作(FINDER画面)」)

SHIFTボタンを押しながらこのボタンを押すと、A-Bリピート再生モードに入ります。(→ 32ページ「A-Bリピート再生」)

⑨ ◄◄ [SKIP] ボタン

再生中／再生待機中にこのボタンを押し続けると、音声を出力しながら早戻し（レビュー）を行います。

再生中／再生待機中に押すと、設定した時間のスキップバックを行います。(→ 29ページ「スキップバック／フォワード」)

メニューモード時、メニュー階層を一つ戻します。

再生範囲が**“PLAYLIST”**のとき、停止中に押すことによってカレントプレイリストを選択することができます。

再生範囲が**“FOLDER”**のとき、停止中、録音待機中に押すと、カレントフォルダーを選択することができます。

“FINDER”画面表示中、フォルダーを選択（反転表示）したあとにこのボタンを押すと、上位の階層に戻ります。(→ 49ページ「FINDER画面内のナビゲーション」)

SHIFTボタンを押しながらこのボタンを押すと、スキップタイムを設定するポップアップウィンドウを表示します。(→ 29ページ「スキップバック／フォワード」)

名前の編集時、カーソルを手前に移動します。

名前編集時、**SHIFT**ボタンを押しながらこのボタンを押すと、カーソル位置の文字を削除します。

⑩ ►► [LOCK] ボタン

再生中／再生待機中にこのボタンを押し続けると、音声を出力しながら早送り（キュー）を行います。

再生中／再生待機中に押すと、設定した時間のスキップフォワードを行います。（ → 29ページ「スキップバック／フォワード」）

メニューモード時、次の階層に進みます。

再生範囲が **“PLAYLIST”** のとき、停止中に押すことによってカレントプレイリストを選択することができます。

再生範囲が **“FOLDER”** のとき、停止中、録音待機中に押すと、カレントフォルダーを選択することができます。

“FINDER” 画面表示中、フォルダーを選択（反転表示）したあとにこのボタンを押すと、フォルダーの内容が表示されます。（ → 49ページ「FINDER画面内のナビゲーション」）

SHIFTボタンを押しながらこのボタンを押すと、フロントパネルからのボタン操作を受け付けなくするパネルロック機能のオン／オフを設定することができます。（ → 25ページ「パネルロック機能」）

名前の編集時、カーソルを次に移動します。

名前の編集時、SHIFTボタンを押しながらこのボタンを押すと、空白（スペース）を挿入できます。（ → 47ページ「文字の設定方法」）

⑪ SHIFTボタン

このボタンを押しながら青文字表記のあるボタンを押すと、各ボタンに割り当てられた動作を行います。

このボタンを押すとタイトル表示（ホーム画面のトラックタイトルや、**“FINDER”** 画面のファイル・フォルダー名）がスクロール表示されます。

⑫ PITCH [KEY] つまみ

このつまみを回して、ピッチ（再生スピード）の設定を行います。

このつまみを押すと、ピッチコントロールのオン／オフを行います。

このつまみを長押しすると、**“--PITCH STEP--”** と **“X.X%”** がポップアップ表示されます。（ → 31ページ「ピッチコントロール再生」）

SHIFTボタンを押しながらこのつまみを回すと、キーレベルの設定を行います。

SHIFTボタンを押しながら押すと、キーコントロールのオン／オフを行います。（ → 31ページ「キーコントロール再生」）

⑬ PHONES端子／つまみ

ステレオヘッドホンを接続するためのステレオ標準ジャックです。

PHONESつまみでヘッドホン出力レベルを調節します。

注意

ヘッドホンを接続する前には、PHONESつまみで音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

⑭ REMOTE端子（φ2.5mm TRSジャック）

別売の専用フットスイッチ（TASCAM RC-3F）、および専用ダイレクトプレーリモコン（TASCAM RC-20）を接続します。リモートコントロールによる再生、停止などの操作が可能になります。

専用フットスイッチ（TASCAM RC-3F）を接続時は、三つのペダルの役割を変えることができます。（ → 72ページ「フットスイッチによるコントロール」）

⑮ USB端子

USBメモリーを接続し、メモリーへ録音する、またはメモリー内のファイルを再生します。

USBキーボードを接続し、ファイル名などの入力に使用します。初期設定は、英語用キーボードに設定されています。日本語用キーボードは、英語用キーボードと配列が異なるため、日本語用キーボードを使用する場合には、**“UTILITY”** メニュー画面で設定を変更してしてください。（ → 74ページ「キーボードタイプの設定」）

⑯ SDカード／ CFカードスロット

SDカードおよびCFカードを挿入／取り出します。（ → 22ページ「SDカード／ CFカードを挿入する」）

⑰ FUNCTIONボタン

ホーム画面表示中にこのボタンを押すと、**“FUNCTION”** 画面を表示します。

CDとUSBメモリー／ SDカード／ CFカード間でのコピー／変換コピーを行う場合、ファイルの選択／解除を行います。（ → 63ページ「CDとUSBメモリー／ SDカード／ CFカード間のファイルコピー」）

⑱ DEVICEボタン

ホーム画面表示中にこのボタンを押すと、**“DEVICE SELECT”** 画面（デバイス切り換え画面）が表示されます。（ → 24ページ「デバイスを選択する」）

⑲ MULTI JOGダイヤル

このダイヤルは、回して使うホイール機能と押して使うボタン機能を兼ね備えています。

[ホイール機能]

ホーム画面表示中、トラックの選択を行います。

プログラム入力時、登録トラックの選択を行います。

メニューモード時、メニュー項目の選択や設定値の選択を行います。

名前の編集時、文字の選択を行います。

ジョグ再生中、フレームの移動を行います。（ → 29ページ「ジョグ再生」）

SHIFTボタンを押しながらMULTI JOGダイヤルを回すと、ディスプレーのコントラストを調節できます。

［ボタン機能］

選択や設定を確定します（ENTERボタン機能）。

“FINDER” 画面表示中に押すと、反転中のフォルダーやファイルの **“FINDER MENU”** をポップアップ表示します。（ → 50ページ「ファイルの操作」、（ → 50ページ「フォルダーの操作」

⑳ STOPボタン

再生や録音を停止します。

“PROGRAM”（プログラム再生モード）で停止中に押すと、すべてのプログラムがクリアされます。

㉑ PLAYボタン／インジケーター

停止中または再生待機中に押すと、再生を開始します。

録音待機中に押すと、録音を開始します。

再生中や録音中、ボタンが点灯します。

ジョグ再生中、ボタンが点滅します。

㉒ READY [CALL] ボタン／インジケーター

停止中または再生中に押すと、再生待機状態になります。
録音中に押すと、録音待機状態になります。
再生待機中や録音待機中、ボタンが点灯します。
ジョグ再生中、ボタンが点滅します。
再生待機中にこのボタンを押すと、コールポイント（再生待機状態から最後に再生を開始したポイント）をサーチして再生待機になります。（→ 30ページ「コール機能」）

㉓ RECORD [TRK INC] ボタン／インジケーター

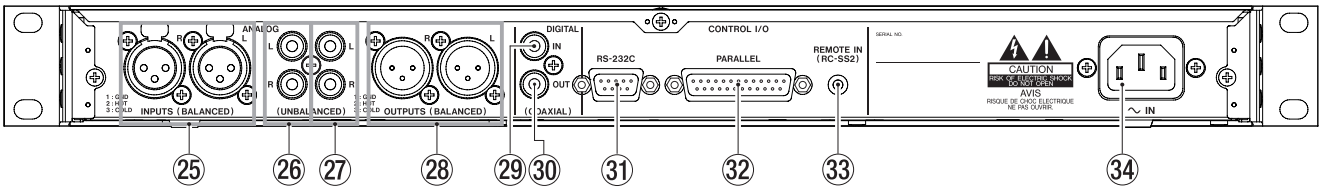
停止中に押すと、録音待機状態になります。
録音中に押すと、トラック番号がインクリメントされます。
録音中や録音待機中、ボタンが点灯します。
カレントデバイスのメディアが挿入されていないときに押すとインプットモニターになり、選択中の入力信号が出力されます。
インプットモニター中、ボタンが点滅します。

㉔ KEYBOARD端子

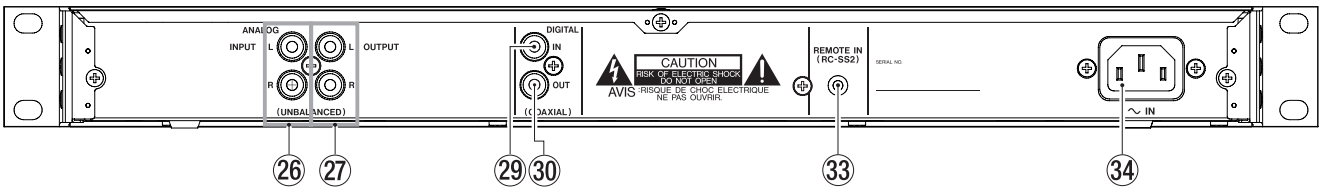
IBM PC互換機用、PS/2インターフェースのキーボードを接続します。
初期設定は、英語用キーボードに設定されています。英語用キーボードは、日本語用キーボードと配列が異なるため、日本語用キーボードを使う場合には、**“UTILITY”**メニュー画面で設定を変更してしてください。（→ 74ページ「キーボードタイプの設定」）

リアパネル

SS-CDR200 ／ SS-R200 リアパネル



SS-R100 リアパネル



㉕ ANALOG INPUTS L ／ R（BALANCED）端子（SS-CDR200 ／ SS-R200のみ）

アナログ入力端子（XLRバランス）です。
規定入力レベルは、+4dBuです。
（1：GND、2：HOT、3：COLD）

㉖ ANALOG INPUTS L ／ R（UNBALANCED）端子

アナログ入力端子（RCAピンジャック）です。
規定入力レベルは、−10dBVです。

㉗ ANALOG OUTPUTS L ／ R（UNBALANCED）端子

アナログ出力端子（RCAピンジャック）です。
規定出力レベルは、−10dBVです。

㉘ ANALOG OUTPUTS L ／ R（BALANCED）端子（SS-CDR200 ／ SS-R200のみ）

アナログ出力端子（XLR バランス）です。
規定出力レベルは、+4dBuです。
（1：GND、2：HOT、3：COLD）

㉙ DIGITAL IN（COAXIAL）端子

デジタル入力端子です。
IEC60958-3（S/PDIF）、またはAES3-2003/IEC60958-4（AES/EBU）フォーマットを入力することができます（自動判別）。
本機を2台リンク接続する場合は、もう一台のSS-CDR200 ／ SS-R200 ／ SS-R100の**DIGITAL OUT**端子とこの端子を接続します。（→ 37ページ「リンク再生の接続」）

㉚ DIGITAL OUT（COAXIAL）端子

デジタル出力端子です。
内部設定により、IEC60958-3（S/PDIF）、またはAES3-2003/IEC60958-4（AES/EBU）フォーマットで出力することができます。
本機を2台リンク接続する場合は、もう一台のSS-CDR200 ／ SS-R200 ／ SS-R100の**DIGITAL IN**端子とこの端子を接続します。（→ 37ページ「接続リンク再生の接続」）

㉛ CONTROL I/O RS-232C端子（SS-CDR200 ／ SS-R200のみ）

D-Sub 9ピンのRS-232Cコントロール用I/O端子です。
外部のパソコンなどを接続します。（→ 76ページ「RS-232C端子を使う」）

㉜ CONTROL I/O PARALLEL端子（SS-CDR200 ／ SS-R200のみ）

D-Sub 25ピンのパラレルコントロール用I/O端子です。
RCSS20（別売）などの外部のコントローラーを接続します。
ピンアサインなどについては、「パラレル端子を使う」（76ページ）をご覧ください。

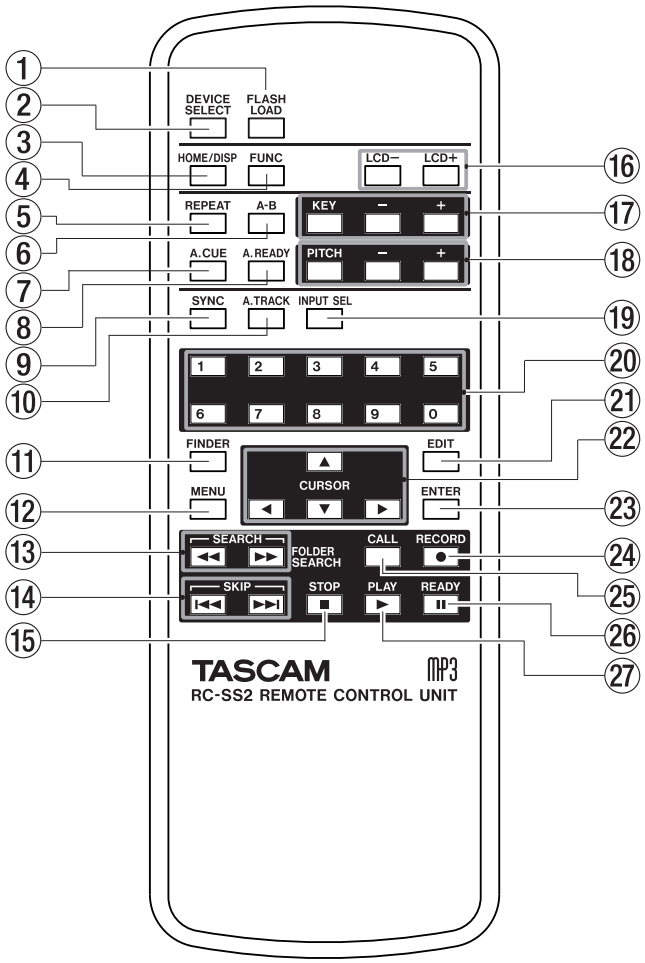
㉝ REMOTE IN端子

付属の専用ワイヤードリモコン（TASCAM RC-SS2）を接続します。

㉞ AC IN端子

付属の電源コードを接続します。

ワイヤードリモコン（TASCAM RC-SS2）



① FLASH LOADボタン
フラッシュスタートの準備として登録トラックの読み込みを行います。読み込み完了後は、ホーム画面に“F”アイコンを表示します。（ → 38ページ「フラッシュスタート機能」）

② DEVICE SELECTボタン
本体のDEVICEボタンと同じ働きをします。

③ HOME/DISPボタン
本体のHOME/DISPLAYボタンと同じ働きをします。
ホーム画面表示中にこの押すと、ホーム画面の表示モードが切り換わります。（ → 14ページ「ホーム画面」）、（ → 16ページ「録音画面」）

→TRACKモード→TOTALモード →TITLEモード → FOLDERモード

④ FUNCボタン
本体のFUNCTIONボタンと同じ働きをします。

⑤ REPEATボタン
リピート再生機能のオン／オフを切り換えます。（ → 32ページ「通常のリピート再生」）

⑥ A-Bボタン
A-Bリピート再生の操作に使います。（ → 32ページ「A-Bリピート再生」）

⑦ A.CUEボタン
オートキュー機能のオン／オフを切り換えます。（ → 33ページ「オートキュー機能」）

⑧ A.READYボタン
オートレディ機能のオン／オフを切り換えます。（ → 33ページ「オートレディ機能」）

⑨ SYNCボタン
シンク録音のオン／オフを切り換えます。（ → 43ページ「シンク録音」）

⑩ A.TRACKボタン
オートトラックモードを切り換えます。**“OFF”**、**“LEVEL”**、**“DD”**、**“TIME”**の中から選択できます。（ → 44ページ「オートトラック機能」）

⑪ FINDERボタン
再生範囲の設定に応じて、**“FINDER”**画面または**“USER PLAYLIST”**画面を呼び出します。（ → 49ページ「FINDER画面を開く」）、（ → 60ページ「プレイリストの編集（USBメモリー／ SDカード／ CFカードのみ）」）

⑫ MENUボタン
本体のMENU [JOG] ボタンと同じ働きをします。

⑬ SEARCH（◄◄ ／ ►►）ボタン
本体の◄◄ [SKIP] ／ ►► [LOCK] ボタンと同じ働きをします。ただし、メニューモードでは動作しません。

⑭ SKIP（I◄◄ ／ ►►I）ボタン
本体のMULTI JOGダイヤルを回したときと同じ動作を行います。

⑮ STOPボタン
本体のSTOPボタンと同じ働きをします。

⑯ LCD（ー／＋）ボタン
ディスプレーのコントラストを調節します。（ → 22ページ「ディスプレーのコントラストの調整」）

⑰ KEY（ー／＋）ボタン
KEYボタンは、本体のSHIFTボタンを押しながらPITCHつまみを押したときと同じ働きをします。
KEYボタン右側の ー／＋ボタンは、本体のSHIFTボタンを押しながらPITCHつまみを回したときと同じ働きをします。（ → 31ページ「キーコントロール再生」）

⑱ PITCH（ー／＋）ボタン
PITCHボタンは、本体のPITCHつまみを押したときと同じ働きをします。
PITCHボタン右側の ー／＋ボタンは、本体のPITCHつまみを回したときと同じ働きをします。（ → 31ページ「ピッチコントロール再生」）

⑲ INPUT SELボタン
録音入力ソースを切り換えます。**“Unbalance”**（RCA）、**“Balance”**（XLR、SS-CDR200 ／ SS-R200のみ）、**“Coaxial”**の中から選択できます。（ → 39ページ「入力ソースを選択する」）
SS-R100では、**“Balance”**（XLR）は、選択できません。

⑳ **数字ボタン**
トラックを選択するときに使います。（ → 28ページ「トラック番号を指定する」）

㉑ **EDITボタン**
このボタンを押すと、その位置で再生待機状態になりエディットメニューをポップアップ表示します。（ → 56ページ「エディットメニューを使う（USBメモリー／ SDカード／ CFカードのみ）」）
トラック番号入力操作中に押すと、トラック番号入力の初期状態に戻ります。
プログラム入力時、トラック番号登録中はトラック番号が取り消され、それ以外は最後に登録されたプログラムが削除されます。（ → 30ページ「プログラム再生」）

㉒ **▲ ／ ▼ ／ ◀ ／ ▶ボタン**
メニュー操作時に使います。
▲ ／ ▼ボタンは、上下の項目選択や値の選択を行います。
メニューモード時、◀ボタンはメニュー階層を戻るときに使い、▶ボタンはメニュー階層を進むときに使います。
“FINDER”画面表示中、◀ボタンはフォルダーの上位階層に戻るときに使い、▶ボタンはフォルダーの下位階層を進むときに使います。（ → 49ページ「FINDER画面内のナビゲーション」）

㉓ **ENTERボタン**
フロントパネルの**MULTI JOG**ダイヤルを押したときと同じ動作を行います。

㉔ **RECORDボタン**
本体の**RECORD**ボタンと同じ働きをします。

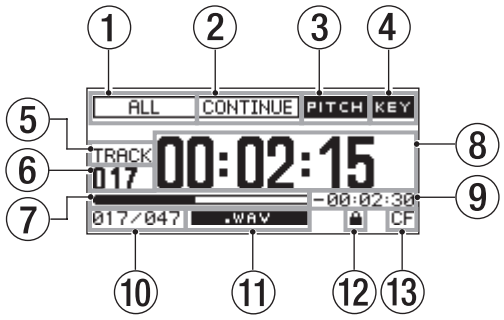
㉕ **CALLボタン**
コールポイント（再生待機状態から最後に再生を開始したポイント）をサーチして再生待機になります。（ → 30ページ「コール機能」）

㉖ **READYボタン**
本体の**READY**ボタンと同じ働きをします。

㉗ **PLAYボタン**
本体の**PLAY**ボタンと同じ働きをします。

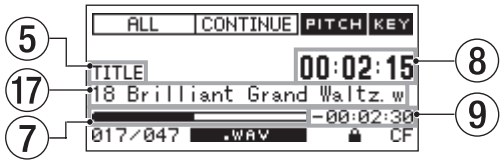
ホーム画面

本機のホーム画面には、TRACKモード表示、TOTALモード表示、TITLEモード表示、FOLDERモード表示があります。
HOME/DISPLAYボタン（リモコンの**HOME/DISP**ボタン）を押すたびに、中央部分の表示内容が切り換わります。

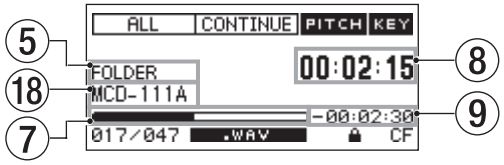


[ホーム画面TRACKモード表示]

[ホーム画面TOTALモード表示]



[ホーム画面TITLEモード表示]



[ホーム画面FOLDERモード表示]

① **再生範囲表示**
現在の再生ファイルの範囲を表示します。
ALL　：カレントデバイスのメディア内の全ファイル
FOLDER　：選択したフォルダー内の全ファイル
PLAYLIST ：プレイリストに登録されたファイル

② **再生モード表示**
現在の再生モードを表示します。
CONTINUE：連続再生モード
SINGLE　：シングル再生モード
PROGRAM：プログラム再生モード
RANDOM　：ランダム再生モード

③ **PITCHアイコン表示**
ピッチコントロール機能がオンのときに“PITCH”アイコンを表示します。

④ **KEYアイコン表示**
キーコントロール機能がオンのときに“KEY”アイコンを表示します。

⑤ **表示モード名表示**
ホーム画面に表示中の表示モード名を表示します。

⑥ **トラック番号表示**
再生中のトラック番号を表示します。

⑦ **トラック再生位置表示**
現在の再生位置をバー表示します。再生の経過とともに、左からバーが伸びていきます。

⑧ **トラック経過時間表示**
現在のトラックの経過時間（時：分：秒）を表示します。

⑨ **トラック残量時間表示**
現在のトラックの残量時間（時：分：秒）を表示します。

⑩ **トラック番号／総トラック数表示**
再生対象範囲の総トラック数と現在のトラック番号を表示します。

⑪ **ファイル形式表示**
現在の再生ファイル形式を表示します。

⑫ **SDカードのプロテクトアイコン表示**
プロテクトされているSDカードがセットされ、カレントデバイス表示が**“SD”**のときに**“🔒”**アイコンを表示します。

⑬ **カレントデバイス表示**
現在選択中のデバイス名を表示します。

⑭ **トータル再生位置表示**
現在の再生位置をバー表示します。再生の経過とともに、左からバーが伸びていきます。

⑮ **総トラック経過時間表示**
現在のプレイエリアの経過時間（時：分：秒）を表示します。

⑯ **総トラック残量時間表示**
現在のプレイエリアの残量時間（時：分：秒）を表示します。

⑰ **トラックタイトル表示**
現在のトラックのタイトルを表示します。
本体の**SHIFT**ボタンを押すと、スクロール表示されます。

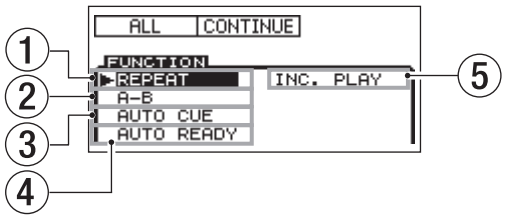
⑱ **カレントフォルダー名再生表示**
再生中のファイルが属するフォルダー名を表示します。

メモ

- 停止中は、ホーム画面の表示モードの設定にかかわらず、常に再生範囲のトータル再生時間を表示します。
- 本機以外の機器（パソコンなど）を使ってMP3ファイルやWAVファイルを記録したCD-R／CD-RWディスクの場合、停止中のトータル時間、再生中のトータル経過時間およびトータル残り時間が表示されません（トラック数あるいはトラック番号のみが表示され、時間表示部は**“--”**表示になります）。ただし、本機で全トラックの再生を行った後では時間が表示されます。
- **“PROGRAM”**（プログラム再生モード）では再生範囲全体ではなく、プログラム全体の経過時間と残り時間を表示します。

ホーム画面のFUNCTION表示

ホーム画面表示中に本体の**FUNCTION**ボタン（リモコンの**FUNC**ボタン）を押すと、**“FUNCTION”**画面を表示します。



[ホーム画面のFUNCTION表示]

“FUNCTION”画面では、PLAYメニュー内の項目のオン／オフの設定状態を、一つの画面で確認および設定することができます。
オンに設定した項目の表示が反転表示になります。

メモ

“FUNCTION”画面を表示中に本体の**FUNCTION**ボタン（リモコンの**FUNC**ボタン）を押すと、ホーム画面に戻ります。

“FUNCTION”画面に表示される項目は、以下の通りです。

	機能	参照ページ
①	リピート再生機能の設定	→ 32ページ
②	A-Bリピート再生の設定	→ 32ページ
③	オートキューの設定	→ 33ページ
④	オートレディの設定	→ 33ページ
⑤	インクリメンタルプレーの設定	→ 34ページ

メモ

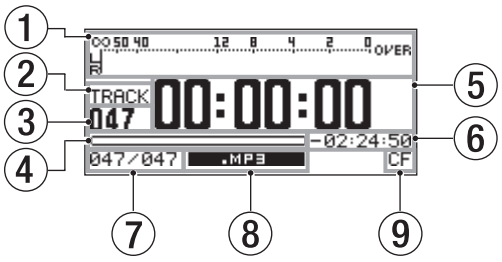
“A-B”項目は、A-Bリピート設定中のみ表示されます。

FUNCTION画面内での項目設定手順

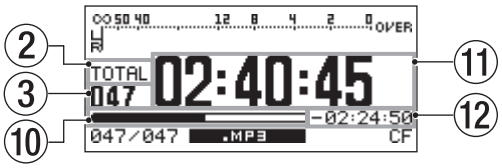
1. **“FUNCTION”**画面を表示中に、本体の**MULTI JOG**ダイヤルを回して（リモコンの▲／▼ボタンを押して）、設定する項目に**“►”**を移動させます。
2. 本体の**MULTI JOG**ダイヤル（リモコンの**ENTER**ボタン）を押して、選択した項目のオン／オフを設定します。設定がオンのとき、項目が反転表示になります。

録音画面

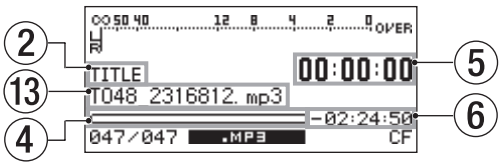
本機の録音画面には、TRACKモード表示、TOTALモード表示、TITLEモード表示、FOLDERモード表示があります。
HOME/DISPLAYボタン（リモコンのHOME/DISPボタン）を押すたびに、中央部分の表示内容が切り換わります。



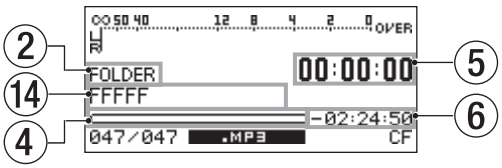
[録音ホーム画面TRACKモード表示]



[録音ホーム画面TOTALモード表示]



[録音ホーム画面TITLEモード表示]



[録音ホーム画面FOLDERモード表示]

① 入力レベル表示
入力音のレベルを表示します。

② 表示モード名表示
ホーム画面に表示中の表示モード名を表示します。

③ トラック番号表示
録音中のトラック番号を表示します。

④ トラック録音位置表示
現在の録音位置をバー表示します。録音の経過とともに、左からバーが伸びていきます。

⑤ トラック録音経過時間表示
録音ファイルの経過時間（時：分：秒）を表示します。

⑥ トラック録音残量時間表示
最大ファイルサイズ（2ギガバイト）に対する残量時間（時:分:秒）を表示します。

⑦ トラック番号／総トラック数表示
再生対象範囲の総トラック数と現在のトラック番号を表示します。

⑧ ファイルタイプ表示
現在の録音ファイル形式を表示します。

⑨ カレントデバイス表示
現在選択中のデバイス名を表示します。

⑩ トータル録音位置表示
現在の録音位置をバー表示します。録音の経過とともに、左からバーが伸びていきます。

⑪ 総トラック経過時間表示
メディア全体の録音時間（時：分：秒）を表示します。

⑫ 総トラック残量時間表示
メディア全体の残り録音可能時間（時：分：秒）を表示します。

⑬ トラックタイトル表示
録音中のトラックのタイトルを表示します。

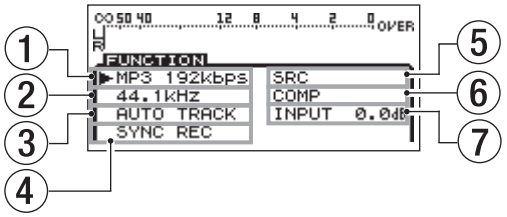
⑭ カレントフォルダー名再生表示
録音中のフォルダー名を表示します。

メモ

残り時間は、録音形式（**“REC”** メニューの **“REC FORMAT”** 項目）によって変わります。

録音画面のFUNCTION表示

録音待機中／録音中に本体のFUNCTIONボタン（リモコンのFUNCボタン）を押すと、録音画面の“FUNCTION”画面を表示します。



[録音画面のFUNCTION表示]

録音画面の“FUNCTION”画面では、RECメニュー内の項目の設定状態を、一つの画面で確認および設定することができます。
オン／オフ設定の項目については、オンに設定した項目の表示が反転表示になります。

メモ

録音画面の“FUNCTION”画面を表示中に本体のFUNCTIONボタン（リモコンのFUNCボタン）を押すと、録音画面に戻ります。

録音画面の“FUNCTION”画面に表示される項目は、以下の通りです。

	機能	参照ページ
①	録音ファイル形式の設定	→ 40ページ
②	サンプリング周波数の設定	→ 40ページ
③	オートトラックの設定	→ 44ページ
④	シンク録音の設定	→ 43ページ
⑤	サンプリングレートコンバーターの設定	→ 41ページ
⑥	コンプレッサーの設定	→ 46ページ
⑦	入力レベルの設定	→ 41ページ

録音のFUNCTION画面内での項目設定手順

1. “FUNCTION”画面を表示中に、本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲／▼ボタンを押して）、設定する項目に“►”を移動させます。
2. “MP3 192kbps”項目、“44.1kHz”項目、“AUTO TRACK”項目、“COMP”項目の場合は、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押すたびに設定値が変わります。
   “SYNC REC”項目、“SRC”項目の場合は、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、オン／オフを設定します。設定がオンのとき、項目が反転表示になります。
   “INPUT 0.0dB”項目の場合は、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押し、入力レベル値設定状態にした後、本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲／▼ボタン押して）値を設定します。設定後、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、設定状態を解除します。

メニューの構成

本体のMENU [JOG] ボタン、または付属の専用リモコン（TASCAM RC-SS2）のMENUボタンを押すと、“MENU”画面が表示されます。

[USBメモリー／ SDカード／ CFカード選択時の“MENU”画面]

[CD選択時の“MENU”画面（SS-CDR200のみ）]

以下の四つのメインメニューがあります。

PLAYメニュー　：再生に関するメニューです
RECメニュー　：録音に関するメニューです
UTILITYメニュー：本機の環境設定などを行うメニューです
CDメニュー　：CD特有の操作に関するメニューです
（SS-CDR200のみ）

各メニューの項目は、以下の通りです。

メニュー項目	サブメニュー項目	機能	参照ページ
PLAY	PLAY AREA	再生範囲の設定	→ 26ページ
	PLAY MODE	再生モードの設定	→ 27ページ
	P.L.EDIT	プレイリストを編集	→ 60ページ
	REPEAT	リピート再生機能を設定	→ 32ページ
	AUTO CUE	オートキューの設定	→ 33ページ
	AUTO READY	オートレディの設定	→ 33ページ
	INC.PLAY	インクリメンタルプレーの設定	→ 34ページ
	OTHERS	その他の再生設定	-----
REC	INPUT SELECT	入力ソースの選択	→ 39ページ
	INPUT VOLUME	入力ボリュームの設定	→ 41ページ
	REC FORMAT	録音ファイル形式の設定	→ 40ページ
	SYNC	シンク録音の設定	→ 43ページ
	AUTO TRACK	オートトラックインクリメントの設定	→ 44ページ
	OTHERS	その他の録音設定	-----

メニュー項目	サブメニュー項目	機能	参照ページ
UTILITY	MEMORY FORMAT	USBメモリー／ SDカード／ CFカードのフォーマット	→ 24ページ
	BRIGHTNESS	ディスプレーとインジケーターの輝度設定	→ 22ページ
	KEYBOARD	キーボードタイプの設定	→ 74ページ
	CLOCK ADJUST	日時を設定	→ 21ページ
	RS-232C	RS-232Cの設定	→ 76ページ
	RC-3F MODE	フットスイッチのモード設定	→ 72ページ
	DIGITAL OUT	デジタル出力の設定	→ 72ページ
	INFORMATION	本機の動作時間やメディア情報を表示	→ 73ページ
	FACTORY PRESET	工場出荷時の設定に戻す	→ 73ページ
CD	FINALIZE	未ファイナライズのCD-R ／ CD-RWディスクをファイナライズ	→ 42ページ
	ERASE	書き込み済みのCD-RWディスクの消去	→ 70ページ
	BURN TO CD	選択したメディアからCD-R ／ CD-RWディスクへの書き込み	→ 63ページ
	RIP TO MEMORY	CDから選択したメディアへの書き込み	→ 67ページ

再生プリファレンスメニューの項目は、以下の通りです。

PLAY OTHERS メニュー項目	機能	参照ページ
MONO MIX	モノラル再生の設定	→ 34ページ
EOM TRACK	EOM機能の設定	→ 35ページ
EOM MEDIA	EOM機能の設定	→ 35ページ
RESUME	レジューム再生の設定	→ 36ページ
POWER ON PLAY	パワーオンプレーの設定	→ 36ページ
LINK	リンク再生の設定	→ 37ページ

録音プリファレンスメニューの項目は、以下の通りです。

REC OTHERS メニュー項目	機能	参照ページ
PAUSE MODE	ポーズモードの設定	→ 46ページ
SRC	サンプリングレートコンバーターの設定	→ 46ページ
WORD CLIP	録音ファイル名を設定	→ 47ページ
COMP	コンプレッサーの設定	→ 46ページ
DITHER	ディザーの設定	→ 48ページ

メニュー操作の基本

各“**MENU**”画面の操作は、以下の操作で行います。

項目を選択する（画面の縦方向の選択）には：

本体では、**MULTI JOG**ダイヤルを回します。
リモコンでは、▲ ／ ▼ボタンを使います。

反転表示した項目を確定するには：

本体では、**MULTI JOG**ダイヤルを押します。
リモコンでは、**ENTER**ボタンを押します。

カーソルを左右に移動するには：

本体では、◄◄ [SKIP] ／ ►► [LOCK] ボタンを使います。
リモコンでは、◄ ／ ►ボタンを使います。

画面に表示されていないサブ画面（右側に“►►”が表示されます）に進むには：

本体では、**MULTI JOG**ダイヤルまたは►► [LOCK] ボタンを押します。
リモコンでは、**ENTER**ボタンまたは►ボタンを押します。

メニュー階層を一つ戻るには：

本体では、**MENU** [JOG] ボタンまたは◄◄ [SKIP] ボタンを押します。
リモコンでは、**MENU**ボタンまたは◄ボタンを押します。

メニューモード中、直接ホーム画面に戻るには：

本体では、**HOME/DISPLAY**ボタンを押します。
リモコンでは、**HOME/DISP**ボタンを押します。

メモ

現在表示されているリストの上または下にも項目がある場合、画面の上部に"▲" または下部に"▼" が表示されます。

メニュー操作の手順

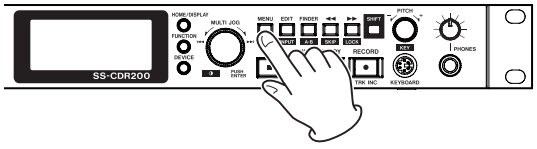
シンク録音の設定を例に説明します。

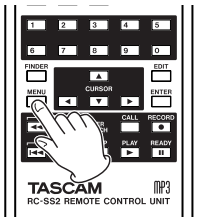
メモ

- 以下に出てくるフロントパネルのイラストは、SS-CDR200のものです。SS-R200 ／ SS-R100の本体と異なる場合があります。
- 以下に出てくるディスプレーに表示される画面は、SS-CDR200のものです。SS-R200 ／ SS-R100のディスプレーに表示される画面と異なる場合があります。

1. 本体または付属の専用リモコン（TASCAM RC-SS2）を使って、“**MENU**”画面を表示します。

本体操作の場合：
MENU [JOG] ボタンを押します。
リモコン操作の場合：
MENUボタンを押します。





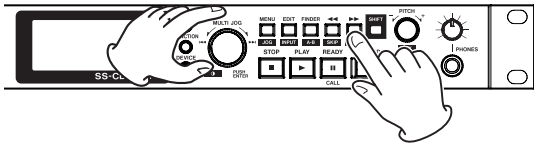
2. **“REC”** メニュー画面を表示します。

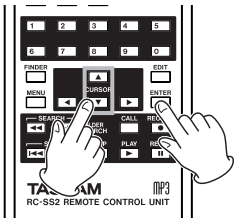
本体操作の場合：

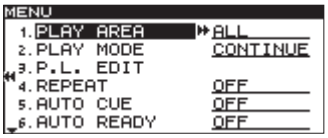
MULTI JOGダイヤルを回して **“REC”** 項目を選択（反転表示）し、MULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタンを押します。

リモコン操作の場合：

▲ ／ ▼ボタンを使って **“REC”** 項目を選択（反転表示）し、ENTERボタンまたは▶ボタンを押します。







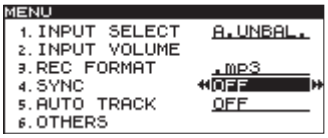
3. **“SYNC”** 項目を設定状態にします。

本体操作の場合：

MULTI JOGダイヤルを回して **“SYNC”** 項目を選択（反転表示）し、MULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタンを押します。

リモコン操作の場合：

▲ ／ ▼ボタンを使って **“SYNC”** 項目を選択（反転表示）し、ENTERボタンまたは▶ボタンを押します。



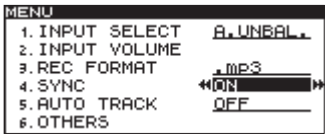
4. **“SYNC”** 項目を **“ON”** または **“OFF”** に設定します。

本体操作の場合：

MULTI JOGダイヤルを回して **“ON”** を選択（反転表示）します。

リモコン操作の場合：

▲ ／ ▼ボタンを使って **“ON”** を選択（反転表示）します。



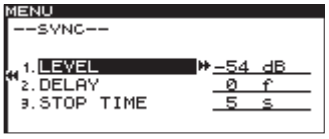
5. **“SYNC”** 項目の詳細設定画面（**“SYNC”** 画面）に進みます。

本体操作の場合：

MULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタンを押します。

リモコン操作の場合：

ENTERボタンまたは▶ボタンを押します。



6. **“SYNC”** 画面の設定する項目を選択（反転表示）します。

本体操作の場合：

MULTI JOGダイヤルを回して項目を選択します。

リモコン操作の場合：

▲ ／ ▼ボタンを使って項目を選択します。

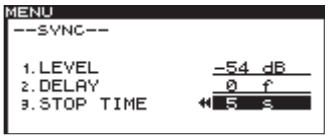
7. 設定内容にカーソルを移動させます。

本体操作の場合：

MULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタンを押します。

リモコン操作の場合：

ENTERボタンまたは▶ボタンを押します。



8. 設定値を変更します。

本体操作の場合：

MULTI JOGダイヤルを回して値を選択します。

リモコン操作の場合：

▲ ／ ▼ボタンを使って値を選択します。

9. 同じ画面内で別の項目を設定する場合は、本体の◄◄ [SKIP] ボタン（リモコンの◀ボタン）を押します。
設定項目選択状態に戻りますので、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンの▲ ／ ▼ボタン）を使って設定したい項目を選択（反転表示）します。

10. 必要に応じて、7.～9.を繰り返して、各項目を設定します。

11. ホーム画面に戻ります。

本体操作の場合：

HOME/DISPLAYボタンを押します。

リモコン操作の場合：

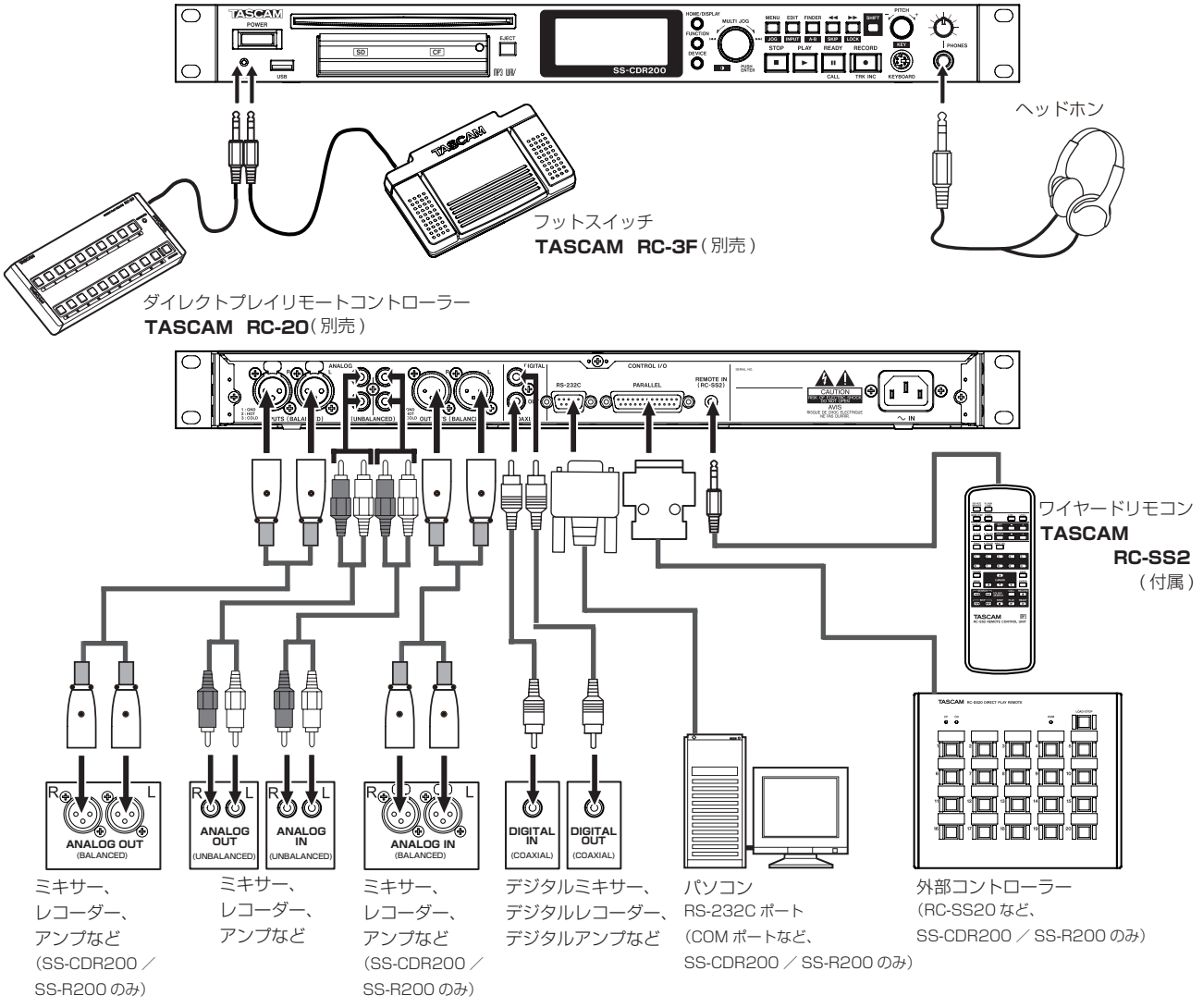
HOME/DISPボタンを押します。

接続する

以下に、SS-CDR200の接続例を示します。

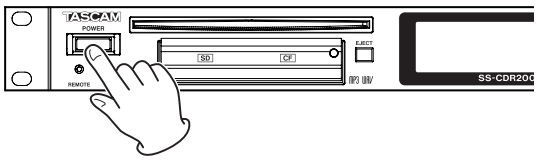
接続前の注意

- 接続を行う前に、外部機器の取扱説明書をよくお読みになり、正しく接続してください。
- 本機および接続する機器の電源をすべてオフまたはスタンバイ状態にします。
- 各機器の電源は、同一のラインから供給するように設置します。テーブルタップなどを使う場合は、電源電圧の変動が少なくなるように、電流容量が大きい太いケーブルをご使用ください。

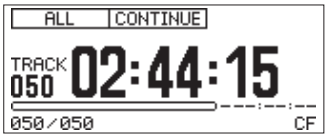


電源のオン／オフ

フロントパネルのPOWERスイッチを押します。



[起動画面]



[ホーム画面]

本機が起動し、起動画面が表示されます（上図はSS-CDR200の例です）。
カレントデバイスのメディアが挿入されていないとき、動作メッセージ“NO MEDIA”と表示されます。
カレントデバイスのメディアが挿入されているときは、動作メッセージ“MEDIA READING”と表示され、メディアの読み込みが行われます。読み込みが終了するとホーム画面に変わります。

電源をオフにするには：

特別な終了動作は不要です。
POWERスイッチを押して、電源をオフにします。

注意

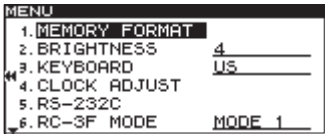
本機が動作中（録音中、再生中、USBメモリー／ SDカード／ CFカードにデータを書き込み中など）は、電源をオフにしないでください。録音が正しく行われなかったり、録音したデータが破損したり、モニター機器から突然大きな音が出て、機器の破損や聴力障害の原因になるなどの可能性があります。

日時を設定する

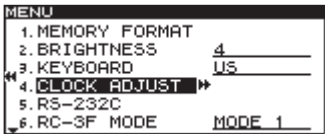
本機は、本体内の時計をもとに、録音したファイルに日時を記録します。

1. 本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）を押して、“MENU”画面を表示します。

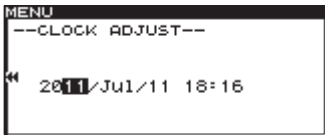
2. “UTILITY”メニュー画面を表示します。



3. “CLOCK ADJUST”項目を選択（反転表示）します。



4. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンの場合は、ENTERボタンまたは▶ボタン）を押して、“CLOCK ADJUST”画面を表示します。



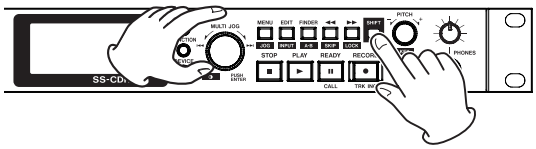
5. 以下の操作で日時を設定します。
   - 本体の◄◄ [SKIP] ／ ►► [LOCK] ボタン（リモコンの◀ ／ ▶ボタン）を押して、設定したい項目を選択（反転表示）します。
   - 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、選択（反転表示）された項目を変更します。
6. 設定を終了したら、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、日時を確定します。
   “UTILITY”メニュー画面に戻ります。
7. 本体のHOME/DISPLAYボタン（リモコンのHOME/DISPボタン）を押して、ホーム画面に戻ります。

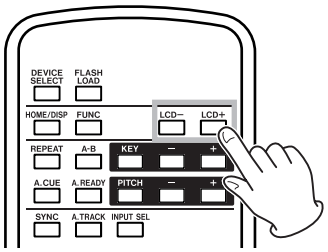
ディスプレーを調節する

必要に応じて、ディスプレーのコントラストと明るさを調節することができます。

ディスプレーのコントラスト調節

本体のSHIFTボタンを押しながらMULTI JOGダイヤルを回すことにより（リモコンの場合は、LCD ー／＋ボタンを押して）、本機のディスプレーのコントラストを調節することができます。

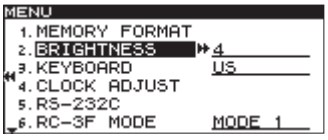




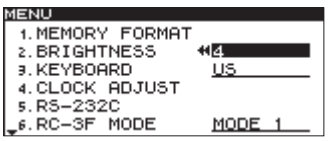
ディスプレーとインジケーターの輝度調節

“UTILITY”メニューの**“BRIGHTNESS”**項目を使って、ディスプレーのバックライトの明るさと、PLAYボタン、READYボタン、RECORDボタンの輝度を調整することができます。

1. 本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）を押して、**“MENU”**画面を表示します。
2. **“UTILITY”**メニュー画面を表示します。
3. **“BRIGHTNESS”**項目を選択（反転表示）します。



4. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンの場合は、ENTERボタンまたは▶ボタン）を押してカーソルが右側に移動し、値を選択（反転表示）状態にします。



5. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、明るさを調節します。
6. 本体のHOME/DISPLAYボタン（リモコンのHOME/DISPボタン）を押して、ホーム画面に戻ります。

メモ

ディスプレーとインジケーターの輝度調節は、電源をオフにしても保持されます。

SDカードおよびCFカードを挿入する／取り出す

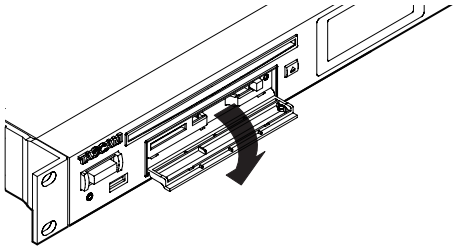
SDカードおよびCFカードを挿入する

本機で再生／録音を行うには、フロントパネルのSDカードおよびCFカードスロットにSDカードおよびCFカードを挿入します。

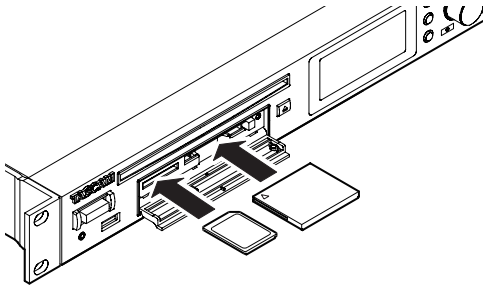
メモ

電源がオン／オフどちらのときもSDカードおよびCFカードを挿入することができます。

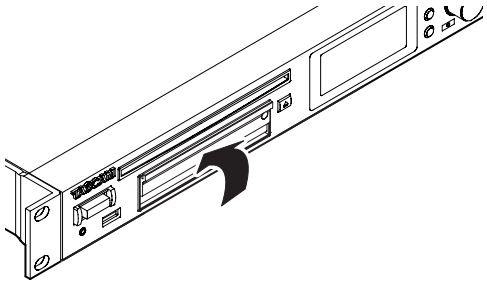
1. カードスロットのカバーを手前に引き開けます。



2. SDカードおよびCFカードを正しい向きに挿入します。
ラベル面を上、端子部を奥にして挿入します。



3. カードスロットのカバーを閉じます。



メモ

SDカード／ CFカードスロットのカバーが閉まらないとき、SDカードの場合はSDカードを抜き、再度SDカードを入れてください。
CFカードの場合はCFカードを抜き、CFカード挿入口の右にある四角ボタンを押し込んでから、再度CFカードを入れてください。

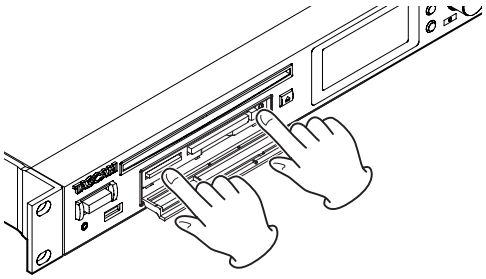
SDカードおよびCFカードを取り出す

電源をオフにするか、動作を停止してから、SDカードおよびCFカードを取り出します。

注意

本機が動作中（録音中、再生中、SDカードおよびCFカードにデータを書き込み中など）は、絶対にSDカードおよびCFカードを取り出さないでください。録音が正しく行われなかったり、録音したデータが破損したり、モニター機器から突然大きな音が出て、機器の破損や聴力障害の原因になるなどの可能性があります。

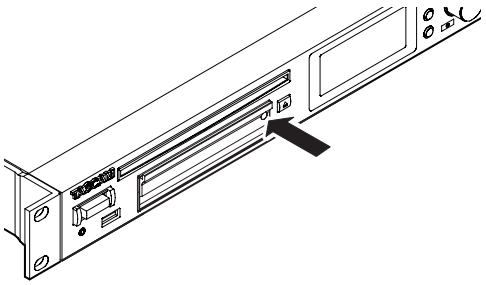
1. カードスロットのカバーを手前に引き開けます。
2. SDカードの場合は、SDカードを軽く押し込むと手前に出てきます。
   CFカードの場合は、CFカードスロットの右にある四角ボタンを押すと、ボタンが出てきます。出てきた四角ボタンを押し込むと、CFカードが一部排出されます。



3. 手でつまんでSDカードおよびCFカードを引き出します。

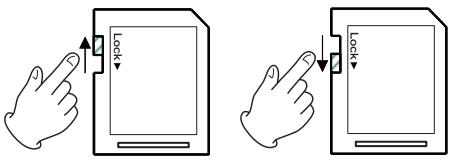
セキュリティービスについて

付属のセキュリティービスを使ってカードスロットのカバーをロックすることができます。
セキュリティービスの取り付け／取り外しは、プラスドライバーを使って行ってください。



SDカードのプロテクトスイッチについて

SDカードには、プロテクト（書き込み防止）スイッチがついています。



[書き込み可]　[書き込み不可]

プロテクトスイッチを「LOCK」の方向へスライドするとファイルの記録や編集ができなくなります。録音や削除などを行う場合は書き込み禁止を解除してください。

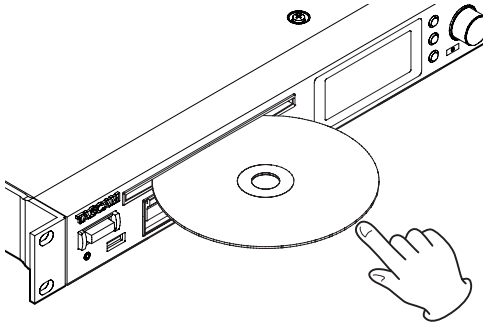
注意

プロテクトされたSDカードは、デバイス切り換え時に毎回カード内のオーディオファイルの前チェックを行います。そのため、デバイスの切り換えに時間がかかります。また、プレイリストの編集などもできません。

ディスクを挿入する／取り出す（SS-CDR200のみ）

ディスクを挿入する

ディスクのレーベル面を上にし、ディスク挿入口に途中まで挿入してください。
さらにディスクを押していくと、ディスクが挿入口に隠れる直前で自動的に引き込まれます。
ディスクを挿入すると本機がディスクの情報を読み取り、オーディオCDの場合は総トラック数と総再生時間、データCDの場合はカレントフォルダーの総トラック数を、ディスプレーに表示します。



注意

- 電源の入っていない状態では、ディスクは入りません。
- ディスクが引っ掛かるなど、押しにくいときは、無理に押し込まずに一度ディスクを抜いて**EJECT**ボタンを押してから、入れ直してください（無理に押し込むと、ディスクを傷つける、または本機を破損する場合があります）。
- オーディオCD以外のディスクを挿入する、またはディスクを裏返して挿入した場合は、**“MEDIA ERROR”**と表示されます。**EJECT**ボタンを押して、ディスクを排出してください。
- 8cmCDを挿入するときは、スロットの真ん中に最後までしっかり押し込んでください。

ディスクを取り出す

本体の**EJECT**ボタンを押します。
ディスクが途中まで排出されるので、ディスクの側面を持って引き抜きます。

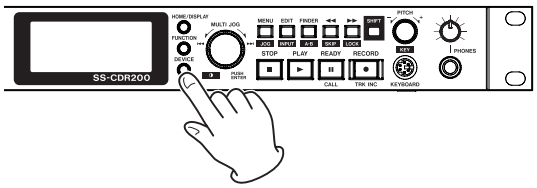
注意

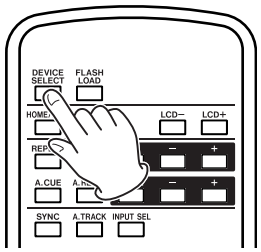
電源の入っていない状態では、本体の**EJECT**ボタンは動作しません。

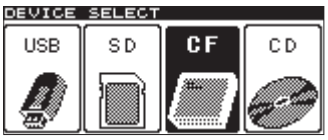
デバイスを選択する

本機を使って作業を行う前に、使用するメディア（USBメモリー／SDカード／CFカード、またはCD）に応じてデバイス（**“USB”** ／ **“SD”** ／ **“CF”** ／ **“CD”**）を選択します。
デバイスを選択するには、以下の手順で行います。

1. 本体の**DEVICE**ボタン（リモコンの**DEVICE SELECT**ボタン）を押して、**“DEVICE SELECT”** 画面（デバイス切り換え画面）を表示します。





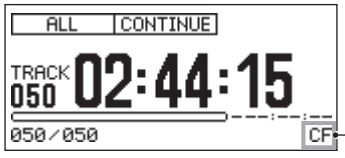


2. 本体の**DEVICE**ボタン（リモコンの**DEVICE SELECT**ボタン）を押して使用するデバイスを選択（反転表示）し、本体の**MULTI JOG**ダイヤル（リモコンの**ENTER**ボタン）を押して、確定します。

メモ

本体の**MULTI JOG**ダイヤルを回して使用するデバイスを選択（反転表示）することもできます。

3. ホーム画面の右下部に選択したデバイス名が表示されます。



←**デバイス名表示**

“USB”　：USBメモリーを選択
“SD”　：SDカードを選択
“CF”　：CFカードを選択
“CD”　：CDを選択（市販のCD、SS-CDR200のみ）
“CDR”　：CDを選択（CD-R、SS-CDR200のみ）
“CDRW”　：CDを選択（CD-RW、SS-CDR200のみ）

USBメモリー／SDカード／CFカードを使えるようにする

本機でUSBメモリー／SDカード／CFカードを使えるようにするために、本機でフォーマットする必要があります。

注意

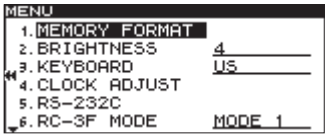
- フォーマットを行うと、USBメモリー／SDカード／CFカード上のデータはすべて消去されます。
- 必ず本機にてフォーマットを行ってください。他の機器、パソコンなどでフォーマットしたUSBメモリー／SDカード／CFカードを使用した場合は、動作に影響が出る場合があります。

1. 本体の**DEVICE**ボタン（リモコンの**DEVICE SELECT**ボタン）を押して **“DEVICE SELECT”** 画面（デバイス切り換え画面）を表示し、フォーマットするデバイスを選択します。（→ 24「デバイスを選択する」）

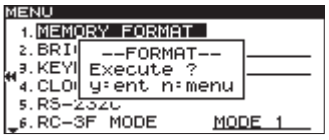
2. 本体の**MENU [JOG]** ボタン（リモコンの**MENU**ボタン）を押して、**“MENU”** 画面を表示します。

3. **“UTILITY”** メニュー画面を表示します。

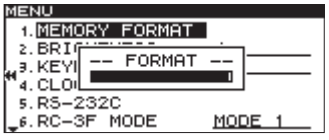
4. **“MEMORY FORMAT”** 項目を選択（反転表示）します。



5. 本体の**MULTI JOG**ダイヤル（リモコンの**ENTER**ボタン）を押します。
確認のポップアップメッセージが表示されます。



6. 再度、本体の**MULTI JOG**ダイヤル（リモコンの**ENTER**ボタン）を押すと、フォーマットが開始します。



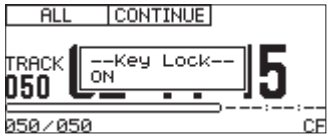
フォーマット実行中は、**“--FORMAT--”** およびプログレスバーがポップアップ表示されます。

7. フォーマットが終了すると、ポップアップ表示が消えて **“UTILITY”** メニュー画面に戻ります。

8. 本体の**HOME/DISPLAY**ボタン（リモコンの場合は、**HOME/DISP**ボタン）を押して、ホーム画面に戻ります。

パネルロック機能

本体のSHIFTボタンを押しながら►► [LOCK] ボタンを押すと、フロントパネルからのボタン操作を受け付けなくするパネルロック機能のオン／オフを設定することができます。
パネルロック中にフロントパネルの各ボタン（SHIFTボタンと►► [LOCK] ボタンを除く）またはリモコンの各ボタンを操作すると、**“--Key Lock-”** と **“ON”** をポップアップ表示します。



メモ

フロントパネルのREMOTE端子からのフットスイッチ（TASCAM RC-3F）操作、リアパネルのRS-232C端子、CONTROL I/O PARALLEL端子、およびREMOTE IN端子（RC-SS2）からの外部コントロールについては、パネルロック中でも操作を受け付けます。

第4章　再生

CD、USBメモリー／ SDカード／ CFカードに収録されているオーディオファイルの再生機能を説明します。
以下の説明では、オーディオファイルが記録されたCD、USBメモリー／ SDカード／ CFカードが本機にセットされ、本機の電源がオンになっていて、カレントデバイスが適切に選択されていることを前提にしています。（→ 24ページ「デバイスを選択する」）

再生可能なファイル

本機では、以下の形式のファイルを再生することができます。

USBメモリー／ SDカード／ CFカード使用時

- **MP3形式のファイル**
  ステレオおよびモノラル、サンプリング周波数44.1kHzおよび48kHz、ビットレート64kbps ～ 320kbpsのMP3ファイルを再生できます。
- **WAV形式のファイル**
  ステレオおよびモノラル、サンプリング周波数44.1kHzおよび48kHzのWAVファイルを再生できます。

CD使用時（SS-CDR200のみ）

- **オーディオCD形式のファイル**
  市販の音楽CDや、オーディオCD形式で作成したCD-R、CD-RWディスクを再生できます。
- **MP3形式のファイル**
  ステレオおよびモノラル、サンプリング周波数44.1kHzおよび48kHz、ビットレート64kbps ～ 320kbpsのMP3ファイルを再生できます。
- **WAV形式のファイル**
  ステレオおよびモノラル、サンプリング周波数44.1kHzおよび48kHzのWAVファイルを再生できます。

注意

MP3ファイルの圧縮方式がVBRのファイルについて
VBRのファイルは、ファイル形式上の制約により正確な位置検出ができません。そのため、スキップバック／フォワード、コール、A-Bリピートの A点設定など、トラック途中でのポイント設定が必要になる機能を本機で行う場合、設定時のポイントと再生を開始するポイントで若干のズレが生じることがあります。

ヒント

上記のファイル形式であれば、本機で録音したファイルでなくても再生することができます。たとえば、パソコンあるいは他のオーディオ機器を使用し、上記の要件を満たすファイルをCD、USBメモリー／ SDカード／ CFカードに書き込み、そのメディアを本機にセットして再生することができます。したがって、本機の再生素材を作成する際に効率的に作業を行うことができます。

トラックとファイル

メディア上は、オーディオデータが「オーディオファイル」として保存されています。これらのファイルは、本機では「トラック」として扱われます。したがって、本書における再生や録音の説明では、オーディオファイルのことを「トラック」と呼び（場合によって「曲」と呼ぶ場合もあります）、メディア管理などの説明では主にファイルと呼びますが、実体としては同じものを指すとご理解ください。

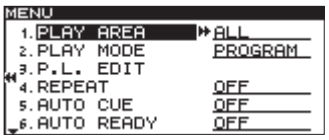
再生範囲

ホーム画面上で選択できる再生トラックの範囲を「再生範囲」と呼びます。
オーディオCDの場合は、常にディスク全体が再生範囲になります。
MP3ファイルやWAVファイルを記録したCD-R ／ CD-RWディスク、およびUSBメモリー／ SDカード／ CFカードでは、再生範囲を設定することができます。
メディア上に多数のファイルが記録されている場合など、選択範囲を限定することによりトラック選択が容易になります。

再生範囲を設定する

“PLAY AREA”項目を使って、再生範囲を設定します。

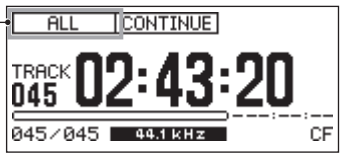
1. 本体の**MENU [JOG]** ボタン（リモコンの**MENU**ボタン）を押して、**“MENU”**画面を表示します。
2. **“PLAY”**メニュー画面を表示します。
3. **“PLAY AREA”**項目を選択（反転表示）します。



4. 本体の**MULTI JOG**ダイヤルまたは►► **[LOCK]** ボタン（リモコンの**ENTER**ボタンまたは►ボタン）を押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。
5. 本体の**MULTI JOG**ダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、希望の再生範囲を設定します。
   ALL（初期値）：メディア内の全ファイル
   FOLDER　：選択したフォルダー内の全ファイル
   PLAYLIST　：プレイリストに登録されたファイル
   USBメモリー／ SDカード／ CFカード使用時は、**“ALL”**、**“FOLDER”**、**“PLAYLIST”**の中から選択できます。
   データCD使用時は、**“ALL”**、**“FOLDER”**のいずれかを選択できます。
   オーディオCD使用時は、常に**“ALL”**です。
6. 設定を終えたら、本体の**HOME/DISPLAY**ボタン（リモコンの**HOME/DISP**ボタン）を押して、ホーム画面に戻ります。

メモ

- 再生範囲の現在の設定が、ホーム画面の左上部に表示されます。



- 再生範囲設定は、電源をオフにしても保持されます。

カレントフォルダー、カレントプレイリストを選ぶ

再生範囲をフォルダーやプレイリスト（USBメモリー／ SDカード／ CFカード使用時のみ）に設定した場合、ホーム画面表示中で本機が停止中に、本体の◄◄ [SKIP] ／ ►► [LOCK] ボタン（リモコンのSEARCH ◄◄ ／ ►► ボタン）を使って、再生対象とするフォルダーやプレイリストを選択することができます。これらのフォルダー、プレイリストをそれぞれ「カレントフォルダー」、「カレントプレイリスト」と呼びます。

メモ

- **“FINDER”** 画面から、「カレントフォルダー」や「カレントプレイリスト」を選択することもできます。（ → 49ページ「ファイルやフォルダーの操作（FINDER画面）」）
- MP3形式およびWAV形式のオーディオファイルの場合、本機で再生可能なトラック数は、最大999トラックです。
  999以上のトラックが記録されているメディアを本機にセットした場合、本機のシステム上のルールにもとづいて選択された999トラックが再生可能となります。それ以外のトラックは、再生や編集を行うことができません。
- オーディオCD形式のオーディオファイルの場合、本機で再生可能なトラック数は、最大99トラックです。（SS-CDR200のみ）

再生モード

本機は、以下の4種類の方法（再生モード）で、再生範囲内のトラックを再生することができます。

連続再生モード（初期設定）

ホーム画面上の再生モード表示部に **“CONTINUE”** アイコンが点灯します。
再生範囲内のトラック番号順に再生します。

シングル再生モード

ホーム画面上の再生モード表示部に **“SINGLE”** アイコンが点灯します。
選択したトラックを再生し、再生が終わると停止します。

プログラム再生モード

ホーム画面上の再生モード表示部に **“PROGRAM”** アイコンが点灯します。
あらかじめ設定したプログラムの順番に再生します。（ → 30ページ「プログラム再生」）

ランダム再生モード

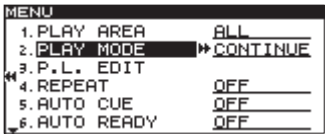
ホーム画面上の再生モード表示部に **“RANDOM”** アイコンが点灯します。
再生範囲内のすべてのトラックを、トラック番号に関係なく、ランダムに再生します。全トラックの再生が終わると停止します。

再生モードを設定する

本体または付属の専用リモコン（TASCAM RC-SS2）を使って、希望の再生モードを以下の手順で設定します。

メニュー操作の場合

1. 停止中に本体のMENU [JOG] ボタン、（リモコンのMENUボタン）を押して、**“MENU”** 画面を表示します。
2. **“PLAY”** メニュー画面を表示します。
3. **“PLAY MODE”** 項目を選択（反転表示）します。



4. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。
5. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、希望の再生モードを設定します。
6. 設定を終了したら、本体のHOME/DISPLAYボタン（リモコンのHOME/DISPボタン）を押して、ホーム画面に戻ります。

メモ

- 本取扱説明書では、特に断らないかぎり、再生モードが **“CONTINUE”**（連続再生モード）に設定されている前提で説明を行います。
- 再生モードの設定は、電源をオフにしても保持されます。

再生の基本操作

ここでは、再生、再生待機状態、停止などの基本操作について説明します。
以下の説明では、必要な接続を終え、本機の電源がオンになっていて、オーディオファイルが記録されたメディアをセットし、カレントデバイスが選択され、ディスプレーにホーム画面が表示されていることを前提にしています。

再生する

再生を始めるには、本体の**PLAY**ボタン（リモコンの**PLAY**ボタン）を押します。
本機で再生可能なオーディオファイルがメディア上に記録されていない場合、時間表示部がすべてゼロ表示になります。

再生を停止するには：
　STOPボタンを押します。

再生を再生待機状態にするには：
　READYボタンを押します。

なお、この取扱説明書では特に断らない限り、再生モードが**“CONTINUE”**（連続再生モード）に設定されているものとして説明しています。

トラックを選ぶ

再生範囲に複数のトラックが存在するときの選曲方法を説明します。選曲方法には、前後のトラック番号に移動する方法（スキップ）と、トラック番号を直接指定する方法があります。

前後のトラックにスキップする

本体の**MULTI JOG**ダイヤルを回すと（リモコンの**SKIP** ⏮ ／ ⏭ボタンを押すと）前後のトラックにスキップします。

- 本体の**MULTI JOG**ダイヤルの場合は、右に回すと次のトラック、左に回すと手前のトラックにスキップします。
- リモコンの**SKIP**ボタンの場合は、⏭ボタンを押すと次のトラック、⏮ボタンを押すと手前のトラックにスキップします。

トラックを選択した後、本体またはリモコンの**PLAY**ボタンを押すと、トラックの再生が始まります。
また、本体またはリモコンの**PLAY**ボタンの代わりに本体またはリモコンの**READY**ボタンを押すと、選択したトラックの先頭で再生待機状態になります。

トラック番号を指定する

リモコンの数字ボタンを使って、再生するトラック番号を直接指定することができます。
トラック番号は、オーディオCD形式の場合は最大2桁、MP3形式およびWAV形式の場合は最大3桁です。

1. リモコンの数字ボタンを使って、トラック番号を入力します。
　トラック番号は、高い桁の数字から順に入力します。
　例1：トラック1の場合は、**1** を入力
　例2：トラック12の場合は、**1 → 2** を入力
　例3：トラック103の場合は、**1 → 0 → 3** を入力
2. 本体の**PLAY**ボタン（リモコンの**PLAY**ボタン）を押します。
　選択したトラックの再生が始まります。
　また、この手順で本体の**PLAY**ボタン（リモコンの**PLAY**ボタン）の代わりに本体の**READY**ボタン（リモコンの**READY**ボタン）を押した場合は、選択したトラックの先頭で再生待機状態になります。

メモ

- 本体またはリモコンの**PLAY**ボタンを押す代わりに、本体の**MULTI JOG**ダイヤル（リモコンの**ENTER**ボタン）を押して、選択したファイルを再生することもできます。
- プログラム、ランダムモード時は、リモコンの数字ボタンによるトラック指定はできません。

早戻し／早送りサーチ

音声を聞きながらトラック内を早戻し／早送りサーチすることができます。

1. 希望のトラックを再生または再生待機状態にします。
2. 本体の◀◀ **[SKIP]** ／ ▶▶ **[LOCK]** ボタン（リモコンの **SEARCH** ◀◀ ／ ▶▶ ボタン）を押し続けます。
　早戻し／早送りが始まります。
3. サーチを止めるには、押し続けているボタンを放します。
　サーチを始める前の状態（再生待機または再生）に戻ります。

タイムサーチ

本機が停止中／再生待機中／再生中、指定したトラックの指定位置にロケートすることができます。

注意

　再生モードが**“PROGRAM”**（プログラム再生モード）または**“RANDOM”**（ランダム再生モード）のときは、タイムサーチを行うことができません。

リモコンの数字ボタンを使って、以下の順に数字を入力します。

- トラック番号：3桁
- トラックの先頭からの経過時間
　（XX時／ XX分／ XX秒）：それぞれ2桁

たとえば、トラック2の先頭から1分30秒の位置を指定する場合、以下の順にボタンを押します。

0 → 0 → 2 → 0 → 0 → 0 → 1 → 3 → 0

9桁の数字入力を終えた時点で、自動的に指定位置にロケートします。

ロケート前の本機の状態が停止中または再生中の場合、ロケート後に再生を始めます。ロケート前の本機の状態が再生待機中の場合、ロケート後に再生待機状態になります。

現在の再生範囲に存在しないトラック番号や、トラック内に存在しない時間を指定すると、その時点で設定操作が解除されます。

途中まで指定してタイムサーチを行う

指定する時間の値の入力が完了する前に、リモコンのENTERボタン、PLAYボタンまたはREADYボタンを押すと、その時点で入力した指定位置にロケートします。
たとえば、下記の順序で途中までボタンを押します。

0 → 0 → 2 → 0 → 0 → 1 → 2

この状態でリモコンのENTERボタン、PLAYボタンまたはREADYボタンを押すと、トラック2の先頭から12分の位置にロケートします。ロケート前に押したボタンによって、ロケート後の動作が異なります。

ENTERボタン押した場合：
　ロケート前の状態に応じて再生または再生待機状態になります。
PLAYボタン押した場合　：再生を開始します。
READYボタンを押した場合：再生待機状態になります。

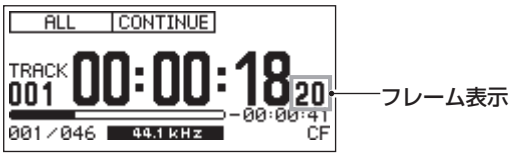
メモ

- トラック番号のみを入力してENTERボタン、PLAYボタンまたはREADYボタンを押す操作は、「トラック番号を指定する」（28ページ）と同じです。
- キーボードのテンキーからも操作が可能です。

ジョグ再生

ジョグ再生モードにし、本体のMULTI JOGダイヤルを使って、1フレーム単位のサーチができます。

1. 本体のSHIFTボタンを押しながらMENU [JOG] ボタンを押して、ジョグ再生モードにします。
   本体のPLAYボタンとREADYボタンが点滅し、ホーム画面TRACKモード表示のトラック経過時間表示にフレームの値が表示されます。



2. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して、サーチを行います。
3. ジョグ再生モードを終了したい場合は、STOPボタン、PLAYボタン、READY [CALL] ボタンのいずれかのボタンを押すと、押したボタンの動作（停止、サーチ位置からの再生、サーチ位置での再生待機状態）に移行します。

メモ

ホーム画面の表示がTRACKモード表示以外のときにジョグ再生モードにすると、トラック経過時間表示にフレームの値は表示されません。本体のHOME/DISPLAYボタン（リモコンのHOME/DISPボタン）を押して、TRACKモード表示に切り換えてから、ジョグ再生モードにしてください。

スキップバック／フォワード

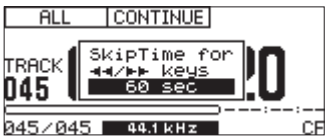
再生待機中または再生中、スキップタイム（指定した時間）で現在位置の前後にスキップすることができます。
再生待機中または再生中、本体の◀◀ [SKIP] ／ ▶▶ [LOCK] ボタン（リモコンのSEARCH ◀◀ ／ ▶▶ボタン）押すと、現在の位置からスキップタイム後ろ、またはスキップタイム手前の位置にロケートします。ロケート後の動作は、ロケート前の動作に従います。

メモ

- トラックの先頭からスキップタイム未満の位置で本体の◀◀ [SKIP] ボタン（リモコンのSEARCH ◀◀ボタン）を押した場合、現在のトラックの先頭にロケートします。
- トラックの先頭から1秒未満の位置で本体の◀◀ [SKIP] ボタン（リモコンのSEARCH ◀◀ボタン）を押した場合、前のトラックの終わりからスキップタイム前の位置にロケートします。ただし、カレントデバイスのメディアまたはプログラムの先頭トラックの場合、現在のトラックの先頭で再生待機状態になります。（ランダム再生時、トラックの先頭からスキップタイム未満の位置で本体の◀◀ [SKIP] ボタン（リモコンのSEARCH ◀◀ボタン）を押した場合も、トラックの先頭にロケートします。）
- トラックの残り時間がスキップタイム未満の位置で本体の▶▶ [LOCK] ボタン（リモコンのSEARCH ▶▶ボタン）を押した場合、次のトラックの先頭にロケートします。ただし、カレントデバイスのメディアまたはプログラムの最終トラックの場合、現在のトラックの最後で再生待機状態になります。

スキップタイムを設定する

1. 本体のSHIFTボタンを押しながら◀◀ [SKIP] ボタンを押して、スキップタイムを設定するポップアップウィンドウを表示します。



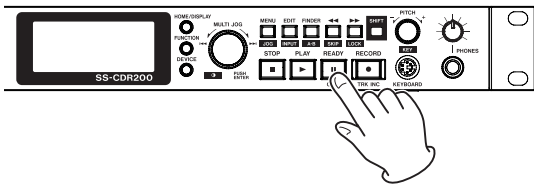
2. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、スキップタイムを設定します。

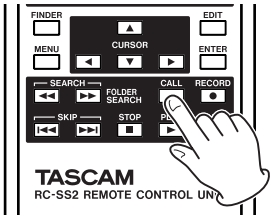
   設定値：“1 sec”～“60 sec”（初期値）

3. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、設定値を確定します。
   設定が終了すると、ホーム画面に戻ります。

コール機能

コール機能とは、コールポイント（再生待機状態から最後に再生を開始したポイント）に戻って、再生待機状態にする機能です。
再生待機中に、本体の**READY [CALL]** ボタン（リモコンの**CALL** ボタン）を押すと、最後に再生を開始したポイントに戻って再生待機状態になります。





コールポイントは、以下の操作を行うと消去されます。

- 電源を切る
- カレントデバイスのメディアを取り出す
- 再生範囲を切り換える
- 再生モードを切り換える
- カレントデバイスのメディアの内容を変更する
  （録音、編集、消去など）

メモ

- コールポイントが設定されていないときに、本体の**READY [CALL]** ボタン（リモコンの**CALL**ボタン）を押すと、警告メッセージ **“NoCallPoint”** がポップアップ表示されます。
- **“PROGRAM”**（プログラム再生モード）、**“RANDOM”**（ランダム再生モード）では、コール機能を使用できません。

プログラム再生

あらかじめプログラムを設定することにより、希望のトラックを希望の順に再生することができます。最大99トラックまでプログラムすることができます。

プログラムを設定する

本体または付属の専用リモコン（TASCAM RC-SS2）を使って、以下の手順でプログラムを設定することができます。

1. 停止中に、再生モードを **“PROGRAM”**（プログラム再生モード）に設定します。（ → 27ページ「再生モードを設定する」）
2. 本体の**MULTI JOG**ダイヤルを回して（リモコンの数字ボタンを押して）プログラムするトラック番号を入力し、本体の**MULTI JOG**ダイヤル（リモコンの**ENTER**ボタン）を押して確定します。
   トラックがプログラムに登録されます。
3. 手順**2.**を繰り返して、希望のトラックを順次、プログラムに登録します。
   画面には、プログラム番号とトータル時間が表示されます。

メモ

- 同じトラックを繰り返しプログラムすることも可能です。
- 本体の**EDIT [INPUT]** ボタン（リモコンの**EDIT**ボタン）を押すと、最後にプログラムしたトラックがプログラムから削除されます。
- 100曲以上をプログラムしようとすると、警告メッセージ **“PROGRAM FULL”** がポップアップ表示されます。プログラムできるのは99曲までです。
- プログラムしたトラックの総再生時間が99時間59分59秒を超えると、**“- - : - - : - -”** と表示されます。

4. 本体またはリモコンの**PLAY**ボタンを押して、プログラム再生を始めます。

メモ

- **“PROGRAM”**（プログラム再生モード）では、トラックが一つもプログラム登録されていないときは、再生が行われません。
- 停止中に本体またはリモコンの**STOP**ボタンを押すと、すべてのプログラム登録データがクリアされます。
- 再生モードを切り換えると、プログラム登録データがクリアされます。
- 本体の電源を切ると、プログラム登録データがクリアされます。

ピッチコントロール再生

本機では、ピッチ（音の高さと再生の速さ）を変化させて再生できます（ピッチコントロール再生）。
ピッチコントロール再生を行うには、以下の手順で行います。

1. 本体のPITCHつまみ（リモコンのPITCHボタン）を押して、ピッチコントロール機能をオンにします。
   オンにすると、ホーム画面に“PITCH”アイコンを表示します。

2. 本体のPITCHつまみを回して（リモコンのPITCH ー／ +ボタンを押して）、ピッチレベルを設定します。
   設定操作中は、ホーム画面にピッチコントロール値がポップアップ表示されます。

   ピッチレベルは、**“-16.0%”** ～ **“+16.0%”**の範囲で設定することができます。

ピッチコントロール機能をオフにするには

本体のPITCHつまみ（リモコンのPITCHボタン）を押します。
ホーム画面の“PITCH”アイコン**表示**が消えて、ピッチコントロール機能がオフになります。

メモ

- 再生中にピッチコントロール機能のオン／オフを切り換えると、再生音が瞬間的に途切れることがあります。
- ピッチコントロール機能をオフにしても、上記手順2.で設定したピッチレベルは残りますので、再度ピッチコントロール機能をオンにすると有効になります。

ヒント

キーコントロール機能とピッチコントロール機能を併用することにより、音の高さを変えずにスピードだけを変えることができます。（ → 31ページ「キーコントロール再生」）

ピッチステップを設定する

ピッチステップ（ピッチコントロール再生の変化量）を設定することができます。本体のPITCHつまみを一段階回したとき、またはリモコンのPITCH ー／+ボタンを一回押したときのピッチ変化量のことです。

1. 本体のPITCHつまみ（リモコンのPITCHボタン）を長押しすると、ホーム画面にピッチステップを設定する **“--PITCH STEP--”** と **“X.X%”** がポップアップ表示されます。

2. **“PITCHT SETP”** ホップアップウィンドウを表示中、本体のMULTI JOGダイヤルを回してピッチステップを設定します。
   選択範囲：“0.1” %（初期値）～ **“1.0”** %
3. 設定を終了したら、本体のPITCHつまみ（リモコンのPITCHボタン）を押して、ホーム画面に戻ります。

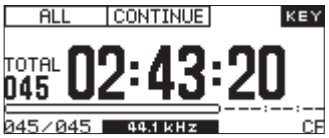
メモ

ピッチステップの設定は、電源をオフにしても保持されます。

キーコントロール再生

キーコントロール機能を使って、再生時のキー（音の高さ）を変えることができます。
以下の手順で、メニューモードからキーコントロール機能のオン／オフおよびキーレベル設定を行うことができます。

1. 本体のSHIFTボタンを押しながらPITCHつまみ（リモコンのKEYボタン）を押して、キーコントロール機能をオンにします。
   オンにすると、ホーム画面に“KEY”アイコンを表示します。



2. 本体のSHIFTボタンを押しながらPITCHつまみを回して（リモコンのKEY ー／ +ボタンを押して）、キーコントロールのレベルを設定します。
   設定操作中は、ホーム画面にキーコントロール値がポップアップ表示されます。

   キーレベルは、**“♭6”** ～ **“♭1”**、**“0”**（音程の変化無し）、**“♯1”** ～ **“♯6”** の中から選択できます。

注意

キーコントロール機能を使用している時に再生音が震えているように聞こえることがありますが、これは再生音を特殊処理しているために発生するもので、故障ではありません。

メモ

キーコントロールのレベル設定は、電源をオフにしても保持されます。

ヒント

キーコントロール機能とピッチコントロール機能の両方をオンにすると、キー（音程）はキーコントロール機能で決まり、スピードはピッチコントロール機能で決まります（つまり、ピッチコントロールでピッチを変えても、それによって音程が変わることはありません）。したがって、**“KEY LEVEL”** を **“0”** に設定してキーコントロール機能をオンにしておくと、ピッチコントロールを使って音程を変えずに再生スピードだけを変えることができます。

リピート再生

再生範囲の全トラックを繰り返し再生する、またはトラック内の任意の区間を繰り返し再生（A-Bリピート再生）することができます。

通常のリピート再生

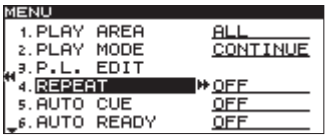
リピート再生機能をオンにすると、再生モードによって以下の動作を行います。

- **“CONTINUE”**（連続再生モード）：ディスク全体を繰り返し再生
- **“SINGLE”**（シングル再生モード）：現在のトラックを繰り返し再生
- **“PROGRAM”**（プログラム再生モード）：
  プログラム全体を繰り返し再生
- **“RANDOM”**（ランダム再生モード）：
  ディスク全体をランダムに繰り返し再生

リピート再生機能をオンにするには、以下の手順のいずれかを行います。

メニュー操作の場合

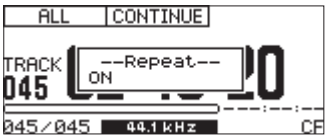
1. 本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）を押して、**“MENU”** 画面を表示します。
2. **“PLAY”** メニュー画面を表示します。
3. **“REPEAT”** 項目を選択（反転表示）します。



4. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。
5. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して、（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、設定値を **“ON”** に設定します。（初期値：**“OFF”**）
6. 本体のHOME/DISPLAYボタン（リモコンのHOME/DISPボタン）を押して、ホーム画面に戻ります。

リモコンの専用ボタン操作の場合

1. リモコンのREPEATボタンを押すと、**“--Repeat--”** と **“ON”** をポップアップ表示し、リピート再生のオンに設定します。



2. リモコンのFUNCボタンを押して、**“FUNCTION”** 画面を表示し、**“REPEAT”** 表示の反転表示を確認します。

リピート再生をオフにするには

“PLAY” メニューの **“REPEAT”** 項目を使って、またはリモコンのREPEATボタンを押して、設定をオフにします。
“FUNCTION” 画面の **“REPEAT”** 表示がもとに戻ります。

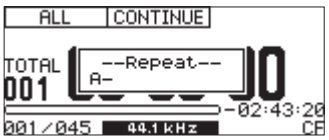
メモ

リピート再生の設定は、電源をオフにしても保持されます。

A-Bリピート再生

トラック内の任意の区間（A-B）を指定して、繰り返し再生することができます。以下の手順でA-Bリピート再生を行います。

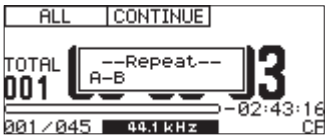
1. 再生待機中または再生中に、リピート再生区間の始点（A）にしたい位置で、本体のSHIFTボタンを押しながらFINDER [A-B] ボタン（リモコンのA-Bボタン）を押します。
   ホーム画面に **“--Repeat--”** と **“A-”** をポップアップ表示します。



メモ

リモコンのREPEATボタンを押すと、リピート再生の始点（A）が解除されます。

2. リピート再生区間の終点（B）にしたい位置で、再度本体のSHIFTボタンを押しながらFINDER [A-B] ボタン（リモコンのA-Bボタン）を押します。
   ホーム画面に **“--Repeat--”** と **“A-B”** をポップアップ表示します。



これで設定した区間（A-B）が確定し、A-Bリピート再生が始まります。

メモ

- 再生中にリモコンのREPEATボタンまたはA-Bボタンを押すと、**“Repeat”** と **“OFF”** をポップアップ表示し、A-Bリピート再生が解除され、終点（B）を指定した位置を超えても再生が続きます。
- 本体またはリモコンのSTOPボタンを押して停止状態にすると、指定した区間（A-B）は消去されます。
- トラックを跨いでのA-Bリピート再生はできません。

オートキュー機能

オートキュー機能をオンにすると、トラックを選択したときに、トラック冒頭の無音部分をスキップしてトラックの実際の「信号」が立ち上がる位置で再生待機状態になります。そのため再生を始めた直後に音が出ます。

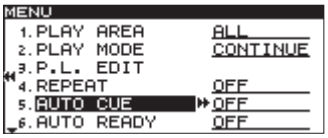
メモ

- フラッシュスタート機能で再生するときには、オートキュー機能は働きません。
- オートキュー機能がオンのとき、再生中にトラックを選択した場合は、トラックの音声が立ち上がる位置から再生します。再生待機中にトラックを選択した場合は、音声が立ち上がる位置で再生待機状態になります。
- オートキュー機能の設定は、電源をオフにしても保持されます。

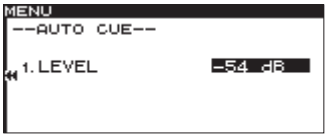
なお、オートキュー機能動作時におけるオーディオ信号検出のスレッショルドレベル（＝オートキューレベル）を設定することができます。すなわち、本機はオートキューレベル以上の信号「信号」、オートキューレベル以下の信号「無音」として扱います。

メニュー操作の場合

1. 停止中に本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）を押して、**“MENU”** 画面を表示します。
2. **“PLAY”** メニュー画面を表示します。
3. **“AUTO CUE”** 項目を選択（反転表示）します。



4. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。
5. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、設定値を **“ON”** に設定します。（初期値：**“OFF”**）
6. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押して、**“AUTO CUE”** 設定画面を表示します。



この画面で、オートキューレベルを設定します。

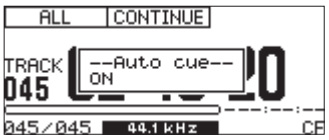
7. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、希望のオートキューレベルを設定します。

設定範囲：“-24dB” ～ “-72dB”
（6dBステップ、初期値：“-54dB”）

8. 設定が終了したら、本体のHOME/DISPLAYボタン（リモコンのHOME/DISPボタン）を押して、ホーム画面に戻ります。

リモコンの専用ボタン操作の場合

1. リモコンのA.CUEボタンを押すと、**“--Auto cue--”** と **“ON”** をポップアップ表示し、オートキュー機能のオンに設定します。



2. リモコンのFUNCボタンを押して、**“FUNCTION”** 画面を表示し、**“AUTO CUE”** 表示の反転表示を確認します。

オートレディ機能

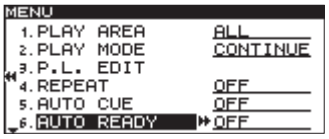
オートレディ機能をオンにすると、トラックの再生が終了した後、次のトラックの先頭で再生待機状態になります。

メモ

- オートキュー機能もオンになっている場合は、トラックの先頭ではなく、音の立ち上がり位置で再生待機状態になります。
- フラッシュスタート機能で再生するときには、オートレディ機能は働きません。
- オートレディ機能の設定は、電源をオフにしても保持されます。

メニュー操作の場合

1. 本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）を押して、**“MENU”** 画面を表示します。
2. **“PLAY”** メニュー画面を表示します。
3. **“AUTO READY”** 項目を選択（反転表示）します。



4. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。
5. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、設定値を **“ON”** に設定します。（初期値：**“OFF”**）
6. 設定が終了したら、本体のHOME/DISPLAYボタン（リモコンのHOME/DISPボタン）を押して、ホーム画面に戻ります。

リモコンの専用ボタン操作の場合

1. リモコンのA.READYボタンを押すと、**“--Auto ready--”** と **“ON”** をポップアップ表示し、オートキュー機能のオンに設定します。

2. リモコンのFUNCボタンを押して、**“FUNCTION”** 画面を表示し、**“AUTO READY”** 表示の反転表示を確認します。

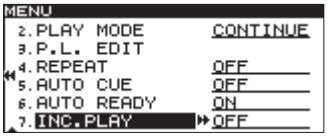
インクリメンタルプレー機能

インクリメンタルプレー機能をオンにすると、再生中に本体またはリモコンのPLAYボタンを押したときに次のトラックの先頭から再生を行い、再生中に本体またはリモコンのSTOPボタンを押したときに次のトラックの先頭で再生待機状態になります。

メモ

- インクリメンタルプレー機能オンのとき、再生待機中に本体またはリモコンのPLAYボタンを押すと、その位置から再生を開始します。再生待機中に本体またはリモコンのSTOPボタンを押すと停止します。なお、最終トラックを再生中に本体またはリモコンのPLAYボタンを押すと再生範囲の先頭のトラックから再生を行い、本体またはリモコンのSTOPボタンを押すと再生範囲の先頭のトラックで再生待機状態になります。
- インクリメンタルプレー機能の設定は、電源をオフにしても保持されます。

1. 本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）を押して、**“MENU”** 画面を表示します。
2. **“PLAY”** メニュー画面を表示します。
3. **“INC. PLAY”** 項目を選択（反転表示）します。



4. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。
5. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、設定値を **“ON”** に設定します。（初期値：**“OFF”**）
6. 設定が終了したら、本体のHOME/DISPLAYボタン（リモコンのHOME/DISPボタン）を押して、ホーム画面に戻ります。

モノラルで再生する

ステレオのオーディオファイルをモノラルで再生することができます。このとき、トラックのL ／ Rチャンネルの信号がミックスされて、L ／ R出力チャンネルから出力されます。
設定は、メニューを使って行います。

1. 本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）を押して、**“MENU”** 画面を表示します。
2. **“PLAY”** メニュー画面を表示します。
3. **“OTHERS”** 項目を選択（反転表示）します。
4. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押して、**“PLAY OTHERS”** メニュー画面を表示します。
5. **“MONO MIX”** 項目を選択（反転表示）します。

6. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。
7. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、設定値を **“ON”** に設定します。（初期値：**“OFF”**）
8. 設定が終了したら、本体のHOME/DISPLAYボタン（リモコンのHOME/DISPボタン）を押して、ホーム画面に戻ります。

メモ

モノラル再生の設定は、電源をオフにしても保持されます。

EOM機能（SS-CDR200 ／ SS-R200のみ）

EOM機能をオンにしておくと、トラックまたは再生範囲の残り時間が設定した時間以下になるとCONTROL I/O PARALLEL端子からEOMタリー信号を出力します。

EOMタリー出力のトリガーを設定する

メニューモードを使って、EOMタリー信号を出力するトリガーとなるトラックの残り時間または再生範囲の残り時間を設定します。

1. 本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）を押して、**“MENU”** 画面を表示します。
2. **“PLAY”** メニュー画面を表示します。
3. **“OTHERS”** 項目を選択（反転表示）します。
4. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押して、**“PLAY OTHERS”** メニュー画面を表示します。
5. トラックの残り時間をトリガーにするには **“EOM TRACK”** 項目、再生範囲の残り時間をトリガーにするには **“EOM MEDIA”** 項目を選択（反転表示）します。

6. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。
7. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、トリガーとなる残り時間を設定します。

“EOM TRACK”項目の選択肢：
“OFF”（初期値）、**“0s”** ～ **“99s”**（秒）

“EOM MEDIA”項目の選択肢：
“OFF”（初期値）、**“1s”** ～ **“99s”**（秒）

メモ

“EOM TRACK” 項目を **“0s”** に設定したときは、トラック終了時に約100msのパルスを出力します。

8. 設定が終了したら、本体のHOME/DISPLAYボタン（リモコンのHOME/DISPボタン）を押して、ホーム画面に戻ります。

メモ

EOM機能の設定は、電源をオフにしても保持されます。

実際の使用方法

1. EOMタリー信号を受信する機器を、CONTROL I/O PARALLEL端子に接続します。
2. 本機および受信機器の電源を入れます。
3. 本機の再生を始めます。

再生中のトラックまたは再生範囲の残り時間が設定された時間以下になると、CONTROL I/O PARALLEL端子からEOMタリー信号が出力されます。
トラックおよび再生範囲の残り時間が両方ともトリガーとして設定されている場合は、どちらかの条件を満たした時点でEOMタリー信号が出力されます。

レジューム再生する

レジューム再生機能をオンにすると、前回再生を停止した位置（レジュームポイント）から再生を開始することができます。
レジュームポイントは、以下の操作を行うと消去されます。

- カレントデバイスのメディアを取り出す
- 再生範囲を切り換える
- 再生モードを切り換える
- カレントデバイスのメディアの内容を変更する
  （録音、編集、消去など）

レジューム機能のオン／オフ設定は、メニューを使って行います。

1. 本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）を押して、**“MENU”** 画面を表示します。
2. **“PLAY”** メニュー画面を表示します。
3. **“OTHERS”** 項目を選択（反転表示）します。
4. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押して、**“PLAY OTHERS”** メニュー画面を表示します。
5. “RESUME” を選択（反転表示）します。

6. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。
7. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、設定値を **“ON”** に設定します。（初期値: **“OFF”**）
8 設定が終了したら、本体のHOME/DISPLAYボタン（リモコンのHOME/DISPボタン）を押して、ホーム画面に戻ります。

メモ

- 再生可能なトラックが存在しない場合（**“PROGRAM”**（プログラム再生モード）で、1トラックも登録されていない場合など）は、カウンター表示がすべてゼロ表示となります。
- レジュームポイントが存在しない（レジュームポイントとして登録されている時間が存在しない）場合は、再生範囲のトラックの先頭がレジュームポイントになります。
- レジューム再生機能の設定は、電源をオフにしても保持されます。

パワーオンプレーをする

市販のタイマーなどを使って外部から本機に電源を投入することにより、希望のタイミングで本機を再生することができます。

1. 本機の電源がタイマーの電源出力から供給されるように本機をタイマーに接続します。
2. 再生するカレントデバイスのメディアをセットし、再生範囲や再生モードなど、必要な設定を行います。
3. 本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）を押して、**“MENU”** 画面を表示します。
4. **“PLAY”** メニュー画面を表示します。
5. **“OTHERS”** 項目を選択（反転表示）します。
6. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押して、**“PLAY OTHERS”** メニュー画面を表示します。
7. **“POWER ON PLAY”** 項目を選択（反転表示）します。

8. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。
9. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、**“ON”** に設定します。（初期値：**“OFF”**）
10. 本体のHOME/DISPLAYボタン（リモコンのHOME/DISPボタン）を押して、ホーム画面に戻ります。
11. タイマーを希望の時刻に設定します。
  設定した時刻になると本機の電源がオンになり、自動的に再生を始めます。

メモ

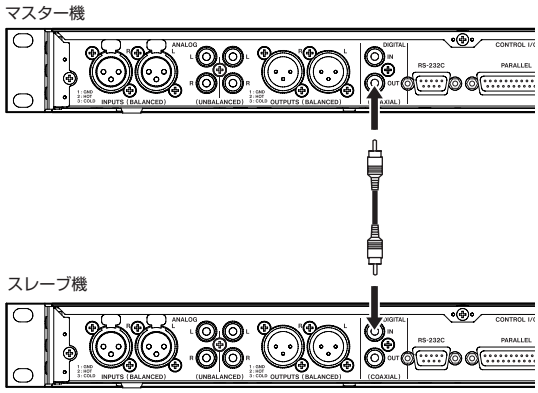
- パワーオンプレー中は、ホーム画面に **“POP”** アイコンが表示されます。
- パワーオンプレーの設定は、電源をオフにしても保持されます。

リンク再生機能

リンク機能を使うことによりマスター側での再生操作をスレーブ側でリンクすることができます。
スレーブ側を再生のバックアップとして使用できます。
リンクする操作は、再生／再生待機／停止／トラックスキップ／サーチです。ただし、操作に対する動作の同期を保証するものではありません。
動作のずれを小さくするためには、極力マスターとスレーブでは同じメーカーの同じ種類のメディアで内容を同じにして使用してください。また、再生設定（オートキュー機能やオートレディ機能など）の設定やフラッシュロードの状況なども合わせてください。
クロック同期はしませんので、長時間再生を続けていると再生時間が若干ずれる可能性があります。また、リンク機能を使用中はデジタル入出力は使用できません。

リンク再生の接続

マスター側のDIGITAL OUT端子とスレーブ機のDIGITAL IN端子を接続します。



リンク再生を設定する

1. 本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）を押して、**“MENU”** 画面を表示します。
2. **“PLAY”** メニュー画面を表示します。
3. **“OTHERS”** 項目を選択（反転表示）します。
4. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押して、**“PLAY OTHERS”** メニュー画面を表示します。
5. **“LINK”** を選択（反転表示）します。

6. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。
7. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、マスター機（**“MASTER”**）またはスレーブ機（**“SLAVE”**）の設定します。

   選択肢：“OFF”（初期値）、**“MASTER”**、**“SLAVE”**
8. 設定が終了したら、本体のHOME/DISPLAYボタン（リモコンのHOME/DISPボタン）を押して、ホーム画面に戻ります。

メモ

リンク再生の設定は、電源をオフにしても保持されます。

フラッシュスタート機能

フラッシュスタート機能を使って、あらかじめ登録しておいたトラックを瞬時に再生開始することができます。
最大20トラック分の先頭部をあらかじめメモリーに取り込み、本機のフロントパネルに接続したPS/2 ／ USBキーボード、リアパネルのパラレル端子に接続した外部機器からの操作（SS-CDR200 ／ SS-R200のみ）、または別売のダイレクトプレイリモートコントローラー（TASCAM RC-20）からの操作で、瞬時に再生を開始することができます。

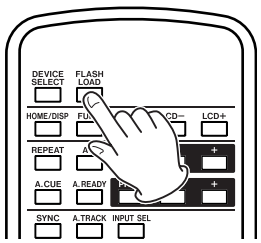
1. 再生範囲を設定します。（ → 26ページ「再生範囲」）
   フラッシュスタートしたいトラックを登録したプレイリスト、またはフォルダーを現在の再生範囲に設定します。トラック数は、20トラック以内にしてください。

2. 再生モードを **“CONTINUE”**（連続再生モード）または **“PROGRAM”**（プログラム再生モード）に設定します。（ → 27ページ「再生モード」）

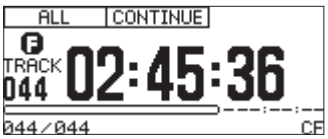
メモ

再生モードを **“RANDOM”**（ランダム再生モード）に設定するとフラッシュロードを行うことができません。

3. 停止中、リモコンの**FLASH LOAD**ボタンを押します。



本機が再生範囲内のトラック冒頭部のデータを次々と読み込みます。
読み込む順序は再生順です。すなわち、再生モードが **“CONTINUE”**（連続再生モード）の場合は先頭トラックから順次読み込み、**“PROGRAM”**（プログラム再生モード）の場合はプログラム順に読み込みます。
読み込み中、ホーム画面に **“F”** アイコンが点滅表示されます。
読み込みを完了すると、ホーム画面に **“F”** アイコンを表示します。



メモ

- 再生モードを **“RANDOM”**（ランダム再生モード）に設定しているときにリモコンの**FLASH LOAD**ボタンを押すと、警告メッセージ **“CAN'T SELECT”** がポップアップ表示され、データの読み込みを行いません。
- 再生モードを **“SINGLE”**（シングル再生モード）に設定しているときにリモコンの**FLASH LOAD**ボタンを押すと、**“CONTINUE”**（連続再生モード）設定時と同じように再生範囲内の先頭トラックから次々と読み込みます。
- 21トラック以上登録されている場合は、先頭から順に20トラックのデータが読み込まれます。

4. ホーム画面に **“FLASH”** を表示中、本機のフロントパネルに接続したPS/2 ／ USBキーボード、または本機のパラレル端子に接続した外部機器を使って（SS-CDR200 ／ SS-R200のみ）、フラッシュスタートを行います。
   PS/2 ／ USBキーボードからは、Ctrl＋ファンクションキー（F1 ～ F12）を使って、トラック1 ～ 12までのフラッシュスタートを行うことができます。（ → 74ページ「キーボード操作一覧」）
   外部パラレル端子を使う場合は、トラック1 ～ 20までのフラッシュスタートを行うことができます。（ → 76ページ「パラレル端子を使う」）（SS-CDR200 ／ SS-R200のみ）

注意

フラッシュスタートの対象トラックは、同じサンプリング周波数でなければなりません。トラック読み込み中にサンプリング周波数が異なるトラックを検出した場合は、ホーム画面に **“-- error --”** と **“FLASH LOAD”** が表示され読み込みがキャンセルされます。

ヒント

再生範囲を **“PLAYLIST”** に設定し、フラッシュスタートしたいトラックのみを登録したプレイリストをカレントプレイリストとして選択することにより、希望トラックのフラッシュスタート設定を効率的に行うことができます。（ → 26ページ「再生範囲」）、（ → 60ページ「プレイリストの編集（USBメモリー／SDカード／ CFカードのみ）」）

本機は、USBメモリー／ SDカード／ CFカード、またはCD-R ／ CD-RWディスク（SS-CDR200のみ）に以下の形式で録音することができます。

USBメモリー／ SDカード／ CFカード：

MP3形式またはWAV形式（Fs＝44.1k/48kHz）のオーディオファイル

CD-R ／ CD-RWディスク：

MP3形式（Fs＝44.1k/48kHz）またはオーディオCD形式のオーディオファイル

以下の説明では、録音可能なUSBメモリー／ SDカード／ CFカード、またはCD-R ／ CD-RWディスク（SS-CDR200のみ）が挿入され、必要な接続を終え、本機の電源がオンになっていることを前提にしています。

注意

カレントデバイスが **“CD”** の場合、未ファイナライズのCD-R ／ CD-RWディスクが挿入されていることが必要です。

メモ

- 本機で録音可能な最大トラック数は、USBメモリー／ SDカード／ CFカードでは999トラック（MP3トラックとWAVトラックの合計数）です。CD-R ／ CD-RWディスクの場合、MP3を記録したデータCDディスクの場合は999トラック、オーディオCDディスクの場合は99トラックです。
- 2GB以下のメディアをご使用の場合、ファイルシステムの制限によりルートフォルダーには999トラックまで録音する事ができません。サブフォルダーには最大999トラックまで録音する事ができます。
- プロテクトされているSDカードがセットされているとき、ホーム画面に **“🔒”** アイコンが表示され、録音できません。（ → 23ページ「SDカードのプロテクトスイッチについて」）
- CDとUSBメモリー／ SDカード／ CFカード間でのオーディオファイルのコピーや変換コピーも可能です。詳しくは「第10章 CDとUSBメモリー／ SDカード／ CFカード間のファイルコピー（SS-CDR200のみ）」（63ページ）をご覧ください。
- CD-R ／ CD-RWディスクにWAV形式で録音することはできません。ただし、USBメモリー／ SDカード／ CFカードからCD-R ／ CD-RWディスクにWAVファイルをコピーする、またはWAVファイルを記録したデータCDを再生することはできます。（ → 65ページ「データCDを作成する」）（SS-CDR200のみ）

不慮の電源遮断について

USBメモリー／ SDカード／ CFカードへの録音中、不慮の電源遮断が発生した場合は、録音中のトラックすべてが消失してしまわないための保護機能があります。25秒前までのデータが保護されます。

注意

- 保護機能を装備していますが、USBメモリー／ SDカード／ CFカードの特性上、システム領域への書き込みを行っている場合に電源が切れた、またはUSBメモリー／ SDカード／ CFカードが本体より抜かれた場合は、メモリー／カード内すべてのファイルが破壊、消失する場合があります。したがって、録音再生中の電源遮断は、可能な限り避けてください。
- 本機能は、録音中に外部タイマーなどで電源を切るなどといった使用を想定した機能ではありません。

入力ソースを選択する

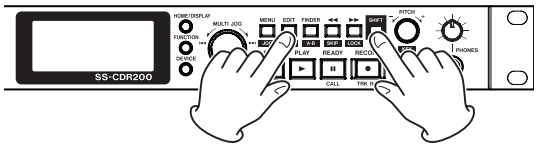
入力ソース（録音ソース）を、3種類の入力（アナログバランス、アナログアンバランス、デジタル）の中から選択します。
入力ソースを選択するには、以下の操作で行います。

メモ

- 録音中は、入力ソースを切り換えることができません。
- 入力ソース選択は、電源をオフにしても保持されます。

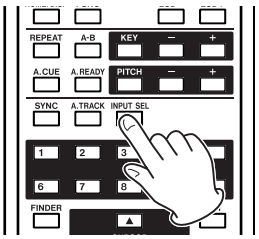
本体から操作で選択する

本体の**SHIFT**ボタンを押しながら**EDIT [INPUT]** ボタンを押すと、現在の入力が表示されます。表示中に押すと、入力ソースが切り換わります。



リモコンの専用ボタンで選択する

専用のリモコン（TASCAM RC-SS2）の**INPUT SEL**ボタンを押すと、現在の入力が表示されます。表示中に押すと、入力ソースが切り換わります。



入力ソースの表示

現在選ばれている入力ソースは、**SHIFT**ボタンを押しながら**EDIT [INPUT]** ボタンを押すと、現在の入力が表示されます。

“A.BAL.” を表示（SS-CDR200 ／ SS-R200のみ）

ANALOG INPUTS L ／ R（BALANCED）端子の入力信号を選択中。

“A.UNBAL.” を表示

ANALOG INPUTS L ／ R（UNBALANCED）端子の入力信号を選択中。

“D.COAX.” を表示

DIGITAL IN（COAXIAL）端子の入力信号を選択中。

メモ

入力ソースの設定値を **“D.COAX.”** に設定している場合は、以下のような状態のとき、録音待機状態から録音を開始することができません。

- 本機が入力ソースにデジタルロックしない（**“DIN UNLOCK”** を表示します）。
- 入力ソースがオーディオではない（**“DIN NotAudio”** を表示します）。

- **“REC”**メニューの**“REC FORMAT”**項目で設定したサンプリング周波数が入力ソースと異なる**“FS UNMATCH”**を表示します。ただし、サンプリングレートコンバーターを有効にした場合は、サンプリング周波数が異なっていても録音可能です。（→ 41ページ「サンプリングレートコンバーターを使う」）

録音ファイル形式を設定する

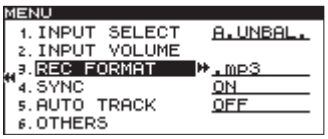
カレントデバイスが**“USB”**／**“SD”**／**“CF”**の場合は、MP3形式またはWAV形式で録音することができます。また、カレントデバイスが**“CD”**の場合は、MP3形式またはオーディオCD形式で録音することができます。（SS-CDR200のみ）
なお、USBメモリー／SDカード／CFカードにはMP3ファイルとWAVファイルを混在することができますが、CD-R／CD-RWディスクにはMP3ファイルとオーディオCD形式のファイルを混在することができません。したがって、CD-R／CD-RWディスクに最初に記録するファイルによって、そのディスクに録音できるファイル形式（MP3またはオーディオCD）が決まります。

メモ

- CD-R／CD-RWディスクにWAVファイルを録音することはできませんが、後述するUSBメモリー／SDカード／CFカードからCD-R／CD-RWディスクへのファイルコピー機能を使ってWAVファイルをコピーすることは可能です。（→ 63ページ「第10章 CDとUSBメモリー／SDカード／CFカード間のファイルコピー（SS-CDR200のみ）」）
- CD-R／CD-RWディスクへのMP3ファイルの録音は、ブランクCD挿入時のみ可能です。ディスクを取り出す、または電源を切ると、以後の追加録音はできません。（→ 42ページ「CD-R／CD-RWディスクのファイナライズ（SS-CDR200のみ）」）

ファイル形式の設定は、停止中または録音待機中にメニューを使って行います。

1. 本体のMENU [JOG]ボタン（リモコンのMENUボタン）を押して、**“MENU”**画面を表示します。
2. **“REC”**メニュー画面を表示します。
3. **“REC FORMAT”**項目を選択（反転表示）します。



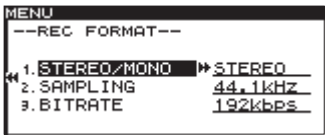
4. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK]ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押してカーソルが右側に移動し、値を選択（反転表示）状態にします。
5. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲／▼ボタンを押して）、録音ファイル形式を選択（反転表示）します。

   USBメモリー／SDカード／CFカードの場合は：
   “.mp3”（初期値）、**“.wav”**

   CD-R／CD-RWディスクの場合は（SS-CDR200のみ）：
   “.mp3”（初期値）、**“CDDA”**（オーディオCD形式）

   カレントデバイスが**“CD”**で、録音ファイル形式として**“CDDA”**を選択した場合は、以下の手順6.と7.の画面設定はありません。手順8.に進んでください。
   “USB”／**“SD”**／**“CF”**の場合および**“CD”**で**“.mp3”**を選択した場合、以下の手順に進みます。

6. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK]ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押して、**“REC FORMAT”**画面を表示します。



7. **“REC FORMAT”**画面の以下の項目を設定します。

   STEREO/MONO
   録音ファイルをステレオファイルにするかモノラルファイルにするかを選択します。
   選択肢：“STEREO”（初期値）、**“MONO”**

   SAMPLING
   サンプリング周波数を設定します。
   選択肢：“44.1kHz”（初期値）、**“48kHz”**

   BITRATE（録音ファイル形式が**“.mp3”**選択時のみ選択可能）
   ビットレートを設定します。
   選択肢：“64kbps”、**“128kbps”**、**“192kbps”**（初期値）、**“256kbps”**、**“320kbps”**

   選択肢のビットレートは、ステレオ時の値です。モノラル録音を設定した場合は、半分のビットレートになりますが、音質は同等です。

8. 設定が終了したら、本体のHOME/DISPLAYボタン（リモコンのHOME/DISPボタン）を押して、ホーム画面に戻ります。

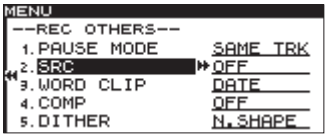
メモ

録音ファイル形式設定は、電源をオフにしても保持されます。

サンプリングレートコンバーターを使う

本機は、サンプリングレートコンバーターを内蔵していますので、デジタル入力ソースのサンプリング周波数と異なるサンプリング周波数で録音することも可能です。
メニューを使って、サンプリングレートコンバーター（SRC）のオン／オフを設定します。

1. 本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）を押して、**“MENU”** 画面を表示します。
2. **“REC”** メニュー画面を表示します。
3. **“OTHERS”** 項目を選択（反転表示）します。
4. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押して、**“REC OTHERS”** 画面を表示します。
5. **“SRC”** 項目を選択（反転表示）します。



6. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押してカーソルが右側に移動し、値を選択（反転表示）状態にします。
7. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタン押して）、**“ON”** に設定します。（初期値：**“OFF”**）
8. 設定が終了したら、本体のHOME/DISPLAYボタン（リモコンのHOME/DISPボタン）を押して、ホーム画面に戻ります。

メモ

- **“REC FORMAT”** 項目で設定したサンプリング周波数と異なるサンプリング周波数のデジタル信号をDIGITAL IN端子から受信しているとき、**“SRC”** がオフの状態で録音しようとすると、エラーメッセージ **“FS UNMATCH”** がポップアップ表示されます。
- サンプリングレートコンバーター（SRC）の設定は、電源をオフにしても保持されます。

入力信号をモニターする

本体またはリモコンのRECORDボタンを押して録音待機状態にすると、本体のRECORDボタンとREADYボタンが点灯し、入力信号が本機の各種出力端子（ヘッドホン、アナログバランス、アナログアンバランス、およびデジタル）から出力されます。また、ホーム画面上のメーターが入力レベルを表示します。
録音待機を解除するには、本体またはリモコンのSTOPボタンを押します。

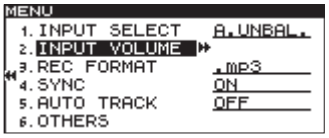
ヒント

録音を前提としないで単に入力信号をモニターしたい場合は、カレントデバイスにメディアをセットしない状態で、本体またはリモコンのRECORDボタンを押します。ホーム画面に **“MONITOR”** が表示され、本体のRECORDボタンが赤く点滅します。
入力信号のモニターを解除するには、本体またはリモコンのSTOPボタンを押します。

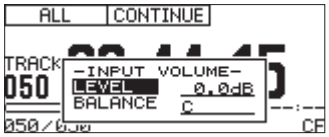
入力信号のレベルとバランスを調節する

入力信号のレベルおよびバランスを、メニューを使って調節することができます。
上記「入力信号をモニターする」の説明にしたがって、入力信号をモニターできる状態にしてから、以下の手順で行います。

1. 本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）を押して、**“MENU”** 画面を表示します。
2. **“REC”** メニュー画面を表示します。
3. **“INPUT VOLUME”** 項目を選択（反転表示）します。



4. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押して、**“INPUT VOLUME”** 設定項目をポップアップ表示します。



5. **“INPUT VOLUME”** 設定の以下の項目を設定します。

LEVEL

入力レベルを調節します。

選択肢：“-inf”、“-54dB” ～ **“0.0dB”**（初期値）～ **“+18dB”**

BALANCE

入力バランスを調節します。

選択肢：“L50” ～ **“C”**（センター、初期値）～ **“R50”**

注意

レベルメーターの **“OVER”** は、**“-0.2dBfs”** 以上で表示します。

メモ

ディスプレー上部には、ホーム画面のレベルメーターが表示されていますので、確認しながら入力レベルを調節することができます。メーター右端の **“OVER”** を表示しない範囲で、なるべくレベルを高めに調節してください。

6. 設定が終了したら、本体のHOME/DISPLAYボタン（リモコンのHOME/DISPボタン）を押して、ホーム画面に戻ります。

メモ

入力信号のレベルとバランスの設定は、電源をオフにしても保持されます。

録音の基本操作

上記の設定（入力ソースの選択、録音ファイル形式の設定、サンプリングレートコンバーターのオン／オフ、入力レベルの調整）を終えたら、録音を行います。

停止状態から録音待機状態にするには：
本体またはリモコンの**RECORD**ボタンを押して、録音待機状態にします（本体の**RECORD**ボタンおよび**READY**ボタンが点灯）。

録音待機状態から録音を開始するには：
本体またはリモコンの**PLAY**ボタンを押します。

録音を待機状態にするには：
本体またはリモコンの**READY**ボタンを押します。

録音を止めるには：
本体またはリモコンの**STOP**ボタンを押します。録音を止めると、録音情報の書き込みが行われ、オーディオファイルが作成されます。

メモ

- 作成されるオーディオファイルに自動的に付加されるオーディオファイル名は、**“REC OTHERS”**の設定値**“WORD CLIP”**項目を使って設定することができます。（→ 47ページ「録音ファイル名の形式を設定する（MP3ファイル／ WAVファイルのみ）」）
- 各トラックの最大ファイルサイズは、2GBです。
- 録音されたトラックは、カレントフォルダーに作成されます。（→ 50ページ「フォルダーの操作」）

注意

カレントデバイスに録音内容を記録する間、**“INFORMATION WRITING”**が表示されます。この間は、本機を動かしたり、電源を切ったり、カレントデバイスを取り出したりしないでください。録音内容が正しく記録できなくなります。

CD-R ／ CD-RWディスクのファイナライズ（SS-CDR200のみ）

CD-R ／ CD-RWディスクに録音を行った場合、本機以外のCDプレーヤー／ CDドライブを使ってファイルを再生するには、ファイナライズを行う必要があります。ファイル形式がMP3形式のときとオーディオCD形式のときで、本機の動作が異なります。

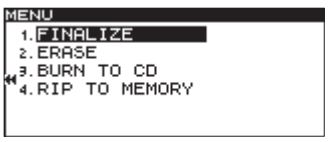
MP3形式での録音時：
CD-R ／ CD-RWディスクを取り出すときに本機が自動的にファイナライズを行います。したがって、MP3形式で録音したディスクをいったん本機から取り出すと、その後追記することができなくなります。なお、CD-R ／ CD-RWディスクを取り出さずに電源をオフにした場合、次回電源をオンにしたときに本機が自動的にディスクのファイナライズを行います。
ディスクを取り出さずに、挿入した状態でメニューを使ってファイナライズを行うこともできます。（→ 42ページ「ファイナライズする」）

オーディオCD形式で録音時：
オーディオCD形式による録音を行った場合、本機が自動的にファイナライズを行うことはありません。メニューを使ってファイナライズを行うまで、（ディスクに空き容量がある限り）何度でも追記することができます。ただし、ファイナライズを行う前の状態では、本機以外の機器で再生することができません。ファイナライズの方法は、次項をご覧ください。

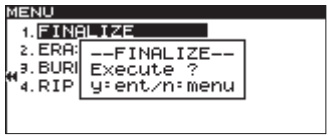
ファイナライズする

上記のように、本機を使ってオーディオCD形式で録音したCD-R ／ CD-RWディスクを他の機器で再生するには、ディスクを手動でファイナライズする必要があります。また、MP3形式で録音したディスクの場合、前述のようにディスク取り出し時に自動的にファイナライズされますが、ディスクを挿入した状態でも手動でファイナライズすることも可能です。
いずれの場合も、以下の手順でファイナライズを行います。

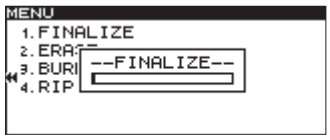
1. 本体の**DEVICE**ボタン（リモコンの**DEVICE SELECT**ボタン）を使って、**“DEVICE SELECT”**画面（デバイス切り換え画面）を表示し、**“CD”**を選択します。（→ 24ページ「デバイスを選択する」）
2. 本体の**MENU [JOG]** ボタン（リモコンの**MENU**ボタン）を押して、**“MENU”**画面を表示します。
3. **“CD”**メニュー画面を表示します。
4. **“FINALIZE”**項目を選択（反転表示）します。



5. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）押します。
確認のポップアップメッセージが表示されます。



6. 再度、本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）押します。
ファイナライズが始まります。



実行中は、**"-- FINALIZE --"** およびプログレスバーがポップアップ表示されます。
ファイナライズを終了すると、**“CD”** メニュー画面に戻ります。

メモ

ファイナライズ済みのCD-RWディスクをアンファイナライズすることができます。（ → 70ページ「CD-RWディスクをアンファイナライズする」）

シンク録音する

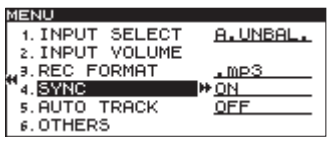
シンク録音機能をオンにすると、あらかじめ設定したレベル（シンクレベル）以上の信号が入力されたときに自動的に録音が開始されます。録音開始後、シンクレベル以下の信号が一定時間（ストップタイム）以上続くと、自動的に録音待機状態になります。

設定する

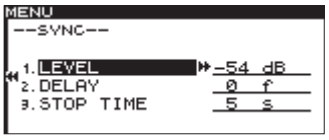
メニューを使って、シンク録音機能のオン／オフ設定および詳細設定を行います。ただし、オン／オフ設定のみは、リモコンのSYNCボタンを使って行うことができます。
シンク録音機能がオンのとき、**“FUNCTION”** 画面の **“SYNC REC”** 表示が反転表示します。

メニューを使う

1. 本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）を押して、**“MENU”** 画面を表示します。
2. **“REC”** メニュー画面を表示します。
3. **“SYNC”** 項目を選択（反転表示）します。



4. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押してカーソルが右側に移動し、値を選択（反転表示）状態にします。
5. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタン押して）、シンク録音機能を **“ON”** に設定します。（初期値: **“OFF”**）
6. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）押して、**“SYNC”** 設定画面を表示します。



7. **“SYNC”** 設定画面の以下の項目を設定します。

LEVEL
シンクレベルを設定します。
選択肢：“-72dB” ～ **“-24dB”**（初期値：**“-54dB”**）

DELAY
シンクレベルを超える信号を検出してから録音を開始するまでの時間（1フレームステップ）を設定します（1フレーム＝1/75秒）。
選択肢：“-75f” ～ **“+75f”**（フレーム、初期値：**“0f”**）
マイナス値に設定すると、検出時より前に溯ることができます。

STOP TIME
シンクレベル以下の信号がどれだけ続くと録音を止めて録音待機にするかを設定します。
選択肢：**“INF”**（∞）、**“5s”** ～ **“30s”**（初期値：**“5s”**）

メモ

“DELAY” の設定範囲を時間に換算すると、－1.00秒～＋1.00秒になります。

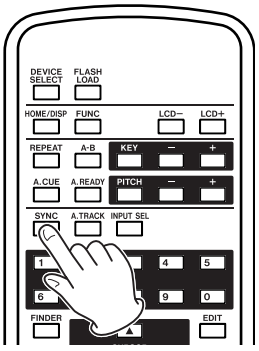
8. 設定が終了したら、本体のHOME/DISPLAYボタン（リモコンのHOME/DISPボタン）を押して、ホーム画面に戻ります。

メモ

シンク録音の設定は、電源をオフにしても保持されます。

リモコンの専用ボタンからのオン／オフ設定

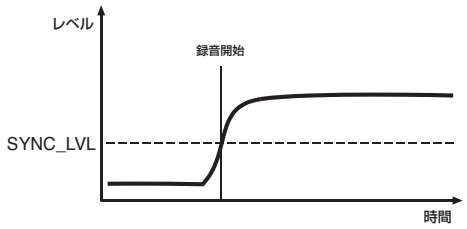
リモコンのSYNCボタンを押すと、ホーム画面に **“SYNC”** ポップアップウィンドウが表示され、オン／オフを設定することができます。



シンク録音の動作

シンク録音機能をオンにした状態で、本機を録音待機状態にすると、入力ソースのレベルに応じて自動的に録音の開始、停止が行われます。

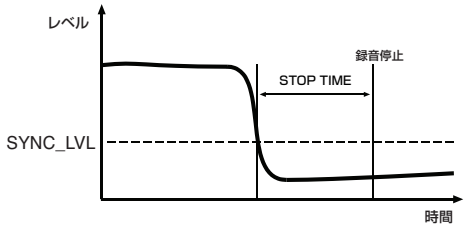
- シンクレベル以上の信号が入力されると、自動的に録音を開始します。ただし、録音待機後のシンクレベル以下の信号が1秒以上続かないと、入力を検知しても録音が開始されません。



メモ

上記の説明は、**“DELAY”**項目が**“0f”**（初期値）の場合です。**“DELAY”**項目を変更すると、「録音開始」ポイントを変更することができます。

- 録音中、**“STOP TIME”**項目で設定した時間以上シンクレベル以下の信号が続くと、自動的に録音待機状態になります。



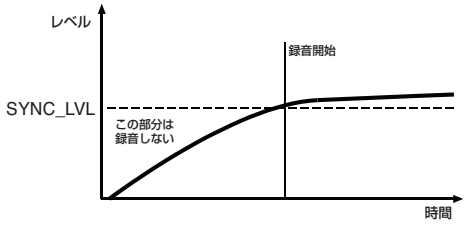
メモ

“STOP TIME”項目の設定値を**“INF”**に設定した場合は、シンクレベル以下の信号が続いても、自動的に録音待機状態にはなりません。

- シンク録音を解除するには、**“REC”**メニュー画面の**“SYNC”**項目、またはリモコンの**SYNC**ボタンを押して**“OFF”**にします。

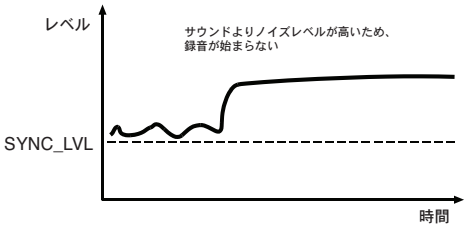
シンクレベルが高過ぎる場合

シンクレベルの設定が高過ぎると、小さい音から始まる曲の先頭が欠けてしまうなどの不具合が起きる可能性があります。



シンクレベルが低すぎる場合

録音待機中、すでにシンクレベルを超えるようなノイズレベルの大きいソースの場合は、シンク録音が始まりません。



オートトラック機能

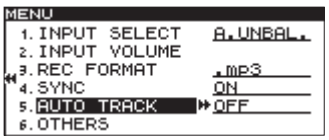
オートトラック録音とは、録音中、設定された条件を満たしたときにトラック番号を自動更新する機能です。トラック番号が更新されるごとに新しいオーディオファイルが作成されます。
メニューを使って、オートトラックモードの選択および詳細設定を行います。ただし、オートトラックモード設定のみは、リモコンのA.TRACKボタンを使って行うことができます。
オートトラック機能がオンのとき、**“FUNCTION”**画面の**“AUTO TRACK”**表示が反転表示します。
オートトラックの設定は、いつでも行うことができますので、録音を始めてから設定を変更することも可能です。

メモ

WAV形式で録音した場合は、録音したあとから編集機能を使ってトラックの分割や結合が可能です。（→ 57ページ「ファイルを分割する（DIVIDE）」）、（→ 58ページ「ファイルを結合する（COMBINE）」）

メニューを使う

1. 本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）を押して、**“MENU”**画面を表示します。
2. **“REC”**メニュー画面を表示します。
3. **“AUTO TRACK”**項目を選択（反転表示）します。



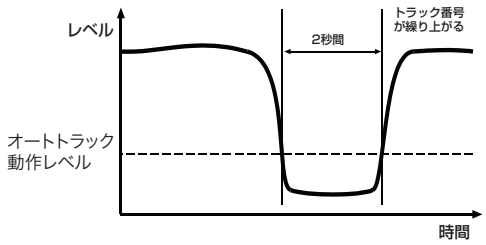
4. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押してカーソルが右側に移動し、値を選択（反転表示）状態にします。
5. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタン押して）、オートトラックモードを以下の中から選択します。

OFF（初期値）

トラックの自動更新を行いません。

LEVEL

オートトラック動作レベル（**“AUTO TRACK”**設定画面の**“LEVEL”**項目の設定値）以下の信号が2秒以上続いた後で、信号が動作レベルを超えたとき、トラック番号を更新します。



DD

DIGITAL IN端子経由でデジタルソース（CD、DAT、MD）を録音するときに、ソース側のトラックの区切りを検出するとトラック番号を更新します。ただし、アナログソース録音時、または上記以外のデジタルソース録音時は**“LEVEL”**モードになり、入力レベルに応じてトラックを更新します。

TIME

一定時間（**“AUTO TRACK”**設定画面の**“INTERVAL”**項目の設定値）ごとにトラック番号を更新します。

6. オートトラックモードの設定を**“OFF”**以外を選択した場合は、本体の►► **[LOCK]** ボタン（リモコンの▶ボタン）を押して、各モードの**“AUTO TRACK”**設定画面を表示します。

7. 各設定画面の以下の項目を設定します。

LEVEL（レベルモード）選択時

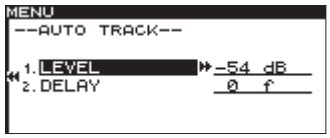
- **“LEVEL”**項目で、オートトラック動作レベルを設定します。

  選択肢：“−72dB” ～ **“−24dB”**
  （6dBステップ、初期値：**“−54dB”**）

- **“DELAY”**項目で、オートトラック動作レベルを超える信号を検出してからトラックを更新するまでの時間を1フレームステップで設定します（1フレーム＝1/75秒）。

  選択肢：“−75f” ～ **“+75”**（フレーム、初期値：**“0f”**）

  マイナス値に設定すると、検出時より前に溯ることができます。



メモ

設定範囲を時間に換算すると、−1.00秒～+1. 00秒になります。

DD（デジタルダイレクトモード）選択時

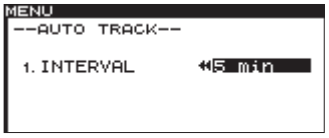
- DDモードにて検出されたポイントから、トラックを更新するまでの時間を1フレームステップで設定します（1フレーム＝1/75秒）。

  選択肢：“−75f” ～ **“+75f”**（初期値：**“0f”**）

TIME（タイムモード）選択時

- “INTERVAL”項目で、トラック更新の時間間隔を設定します。

  選択肢：“1 min” ～ **“10min”**、**“15min”**、**“30min”**、**“1 hour”**、**“2 hour”**、**“6 hour”**、**“8 hour”**、**“12hour”**、**“24hour”**（初期値：**“5 min”**）



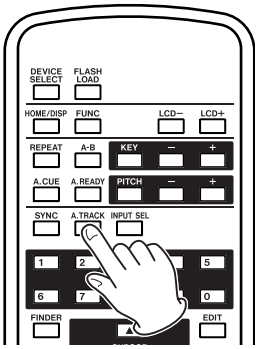
8. 設定が終了したら、本体のHOME/DISPLAYボタン（リモコンのHOME/DISPボタン）を押して、ホーム画面に戻ります。

メモ

オートトラック機能の設定は、電源をオフにしても保持されます。

リモコンの専用ボタンでオートトラックモードを変更する

リモコンのA.TRACKボタンを押すと、ホーム画面に“Auto Track”ポップアップウィンドウが表示され、オートトラックモードを変更することができます。
モードは**“OFF”** → **“LEVEL”** → **“DD”** → **“TIME”** → **“OFF”**の順に切り換わります。



トラック番号を手動で更新する

録音中に本体またはリモコンのRECORDボタンを押すと、トラック番号を更新することができます。ただし、4秒以下のトラックを作成することはできません。

メモ

WAV形式で録音した場合は、編集機能を使うと、録音後にトラックの分割や結合が可能です。(→ 57ページ「ファイルを分割する（DIVIDE)」)、(→ 58ページ「ファイルを結合する（COMBINE)」)

注意

MP3形式で録音する場合は、トラックの更新を短時間に多数行うと、USBメモリー／ SDカード／ CFカードによっては、エラーメッセージ **“OVER FLOW”** が表示され、録音を停止することがあります。
これを防ぐには、更新の間隔をあけて、ご使用ください。

ポーズモードを設定する

録音から録音待機にしたときに、トラックを更新するかしないかの設定ができます。

1. 本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）を押して、**“MENU”** 画面を表示します。
2. **“REC”** メニュー画面を表示します。
3. **“OTHERS”** 項目を選択（反転表示）します。
4. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押して、**“REC OTHERS”** 画面を表示します。
5. **“PAUSE MODE”** 項目を選択（反転表示）します。

6. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押してカーソルが右側に移動し、値を選択（反転表示）状態にします。
7. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタン押して)、ポーズモードを以下の中から選択します。

   SAME TRAK（初期値）
   「録音」→「録音待機」でトラック更新しない。

   NEW TRAK
   「録音」→「録音待機」でトラックを更新します。

注意

録音中または録音待機中に変更できません。

8. 設定が終了したら、本体のHOME/DISPLAYボタン（リモコンのHOME/DISPボタン）を押して、ホーム画面に戻ります。

メモ

ポーズモードの設定は、電源をオフにしても保持されます。

コンプレッサーを掛けて録音する

録音ソースに本機内蔵のコンプレッサーを掛けて録音することができます。
コンプレッサーとは，ピーク音を抑え，音の粒（一音ごとの強弱）を揃えることで聞き取りやすい音質にするエフェクターです。
メニューを使って、コンプレッサーのオン／オフを設定します。

1. 本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）を押して、**“MENU”** 画面を表示します。
2. **“REC”** メニュー画面を表示します。
3. **“OTHERS”** 項目を選択（反転表示）します。
4. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押して、**“REC OTHERS”** 画面を表示します。
5. **“COMP”** 項目を選択（反転表示）します。

6. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押してカーソルが右側に移動し、値を選択（反転表示）状態にします。
7. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタン押して)、コンプレッサーモードを以下の中から選択します。

   OFF（初期値）
   コンプレッサーを使わずに録音します。

   SOFT
   軽いコンプレッサーが掛かります。音楽の録音に適しています。

   HARD
   きついコンプレッサーが掛かります。録音音源の音量が小さい場合は、録音ボリュームのブーストもされますので、会議などの録音に適しています。

8. 設定が終了したら、本体のHOME/DISPLAYボタン（リモコンのHOME/DISPボタン）を押して、ホーム画面に戻ります。

メモ

コンプレッサーの設定は、電源をオフにしても保持されます。

録音ファイル名の形式を設定する（MP3ファイル／ WAVファイルのみ）

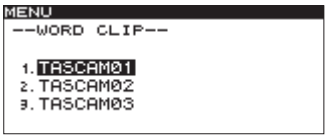
録音時に自動的に付加されるファイル名を設定することができます。メニューを使って設定します。

1. 本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）を押して、**“MENU”** 画面を表示します。
2. **“REC”** メニュー画面を表示します。
3. **“OTHERS”** 項目を選択（反転表示）します。
4. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押して、**“REC OTHERS”** 画面を表示します。
5. **“WORD CLIP”** 項目を選択（反転表示）します。

6. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押してカーソルが右側に移動し、値を選択（反転表示）状態にします。
7. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタン押して）、ファイル名の形式を以下の中から選択します。

   DATE（初期値）
   本機の内蔵時計の日時がファイル名になります。

   USER 01 ～ USER 03
   ユーザー登録した文字列（8文字）がファイル名になります。
8. ユーザー登録する希望のフォルダー（**“USER 01”** ～ **“USER 03”**）を選択（反転表示）した状態で、本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押します。
   “WORD CLIP” 画面（名前の編集画面）が表示されます。



9. ファイル名を編集します。フォルダー名の編集方法については、47ページ「文字の設定方法」を参照ください。
10. 編集が終了したら、本体のMULTI JOGダイヤルを（リモコンのENTERボタン）を押して、編集した文字列を確定します。
11. 設定が終了したら、本体のHOME/DISPLAYボタン（リモコンのHOME/DISPボタン）を押して、ホーム画面に戻ります。

メモ

録音ファイル名の形式の設定は、電源をオフにしても保持されます。

文字の設定方法

以下の操作で文字列を編集します。

編集位置（カーソル位置）を移動するには：
本体の◄◄ [SKIP] ／ ►► [LOCK] ボタン（リモコンの◀ ／ ▶ボタンを押します）を押します。

カーソル位置の文字を変更するには：
本体のMULTI JOGダイヤルを回します（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押します）。

1文字分の空白（スペース）を空けるには：
本体のSHIFTボタンを押しながら►► [LOCK] ボタン（リモコンのSEARCH ►►ボタン）を押します。

文字を削除するには：
本体のSHIFTボタンを押しながら◄◄ [SKIP] ボタン（リモコンのSEARCH ◄◄ボタン）を押します。

カーソル位置より後ろの文字をすべて削除するには：
本体のSHIFTボタンを押しながら◄◄ [SKIP] ボタン（リモコンのSEARCH ◄◄ボタン）を長押しします。

大文字／小文字を切り換えるには：
本体のEDIT [INPUT] ボタン（リモコンのEDITボタン）を押します。

編集をキャンセルするには：
本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）を押します。

注意

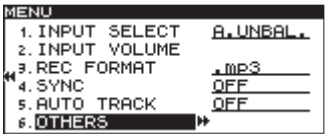
- USBメモリー／ SDカード／ CFカードをパソコンに直接セットして、パソコンからファイル名を編集することもできますが、パソコン上でファイル名の編集を行った場合は、本機のファイルの再生順がパソコンでの編集以前と変わる場合がありますのでご了承ください。
- アルファベット、数字、記号以外が入った名前を編集することはできません（**“RENAME”** 時に登録済みの名前が表示されません）。
- 以下の記号や句読点は、名前に使うことができません。

  ¥ ／ : ; , * ? " < > |

ディザーを掛けて録音する

16ビット WAV形式で録音するときは16ビットであるので、ダイナミックレンジは約96.3dBとなります。
欠落してしまう17ビット目以降の小さな音（量子化ノイズ）をどう処理して録音するかを設定することができます。

1. 本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）を押して、**“MENU”** 画面を表示します。
2. **“REC”** メニュー画面を表示します。
3. **“OTHERS”** 項目を選択（反転表示）します。
4. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押して、**“REC OTHERS”** 画面を表示します。
5. **“DITHER”** 項目を選択（反転表示）します。



6. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押してカーソルが右側に移動し、値を選択（反転表示）状態にします。
7. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタン押して）、ファイル名の形式を以下の中から選択します。

   OFF（初期値）
   ディザー処理を行いません。有効量子化ビット未満（17ビット目以降）はカットし、16ビットまでをそのまま録音します。

   DITHER
   有効量子化最小ビット（16ビット目）の半分の大きさのランダムノイズ（ホワイトノイズ）を加算し、16ビット目と17ビット目の境に「ゆらぎ」を発生させ、量子化ノイズを抑えます。

   N.SHAPE
   一次ノイズシェイピングです。量子化ノイズ自身をフィードバックして微分し、量子化ノイズを抑え、ダイナミックレンジの拡大を図ります。

8. 設定が終了したら、本体のHOME/DISPLAYボタン（リモコンのHOME/DISPボタン）を押して、ホーム画面に戻ります。

メモ

ディザーの設定は、電源をオフにしても保持されます。

録音時間について

各ファイル形式における、メディア容量別の録音時間を以下の表に示します。

ファイル形式（録音時の設定）			USBメモリー／ SDカード／ CFカード容量				CD-R ／ CD-RW ディスク容量
			1GB	2GB	4GB	8GB	700MB
WAV (STEREO)		44.1kHz	1時間36分	3時間12分	6時間24分	12時間48分	-----
		48kHz	1時間28分	2時間56分	5時間52分	11時間44分	-----
WAV (MONO)		44.1kHz	3時間12分	6時間24分	12時間48分	25時間36分	-----
		48kHz	2時間56分	5時間52分	11時間44分	23時間28分	-----
MP3 (STEREO)	64kbps	44.1kHz ／ 48kHz	35時間20分	70時間40分	141時間20分	282時間40分	24時間50分
	128kbps	44.1kHz ／ 48kHz	17時間40分	35時間20分	70時間40分	141時間20分	12時間25分
	192kbps	44.1kHz ／ 48kHz	11時間40分	23時間20分	46時間40分	93時間20分	8時間15分
	256kbps	44.1kHz ／ 48kHz	8時間50分	17時間40分	35時間20分	70時間40分	6時間10分
	320kbps	44.1kHz ／ 48kHz	7時間00分	14時間00分	28時間00分	56時間00分	4時間55分
MP3 (MONO)	64kbps	44.1kHz ／ 48kHz	70時間40分	141時間20分	282時間40分	565時間20分	49時間40分
	128kbps	44.1kHz ／ 48kHz	35時間20分	70時間40分	141時間20分	282時間40分	24時間50分
	192kbps	44.1kHz ／ 48kHz	23時間20分	46時間40分	93時間20分	186時間40分	16時間30分
	256kbps	44.1kHz ／ 48kHz	17時間40分	35時間20分	70時間40分	141時間20分	12時間25分
	320kbps	44.1kHz ／ 48kHz	14時間00分	28時間00分	56時間00分	112時間00分	9時間55分
CD-DA		44.1kHz	-----	-----	-----	-----	1時間20分

- 上記録音時間は目安です。ご使用のUSBメモリー／ SDカード／ CFカードにより異なる場合があります。
- 上記録音時間は連続録音時間ではなく、USBメモリー／ SDカード／ CFカードに可能な録音合計時間です。

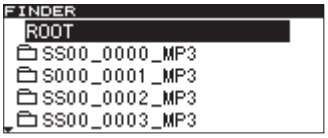
本機は、USBメモリー／ SDカード／ CFカード上のオーディオファイルをフォルダー構造で管理することができます。また、MP3ファイルやWAVファイルを記録したデータCDをフォルダー構造で管理することができます。（SS-CDR200のみ）
この画面から操作対象のフォルダーまたはファイルを選択し、ファイルまたはフォルダーの**“FINDER”**画面に入ることができます。
USBメモリー／ SDカード／ CFカードの場合、これらの画面からフォルダーの作成、フォルダーやファイルの名前編集と削除、ファイルのプレイリスト登録などを行うことができます。また、**“FINDER”**画面からの直接操作によって、ファイルのフォルダー間の移動やコピーを行うことができます。
MP3ファイルやWAVファイルを記録した未ファイナライズのデータCDの場合は、**“FINDER”**画面からフォルダーの作成とカレントフォルダーの変更のみができます。編集やプレイリスト登録はできません。
なお、オーディオCD形式のファイルを記録したCDの場合、オーディオCDの**“FINDER”**画面を表示します。（ → 55ページ「オーディオCDのFINDER画面を開く」）

ヒント

カードリーダーなどを使ってパソコンからUSBメモリー／ SDカード／ CFカードの内容を読み込むことにより、フォルダー構成の変更、フォルダー名／ファイル名の編集、フォルダー／ファイルの削除などをパソコンから行うことができます。パソコンでの編集を行った場合、本機のファイルの再生順がパソコンでの編集以前と変わる場合がありますのでご了承ください。

FINDER画面を開く

以下の操作は、USBメモリー／ SDカード／ CFカード、MP3ファイルやWAVファイルを記録したデータCDまたはブランクCDがセットされ、カレントデバイスに**“CD”**が選択されていることを前提としています。
再生範囲（→ 26ページ「再生範囲」）が**“ALL”**または**“FOLDER”**の場合は、停止中／再生待機中／再生中に本体のFINDER [A-B]ボタン（リモコンのFINDERボタン）を押すと、**“FINDER”**画面が表示されます。



- 再生範囲が**“ALL”**で停止中、ルートフォルダーの**“FINDER”**画面が表示されます。
- 再生範囲が**“FOLDER”**で停止中、カレントフォルダーの**“FINDER”**画面が表示されます。
- 再生待機中、（再生範囲に関係なく）カレントファイル（現在選択中のファイル）が属するフォルダーの**“FINDER”**画面が表示されます。このとき、カレントファイルが反転しています。

FINDER画面内のナビゲーション

“FINDER”画面には、パソコンにおけるファイルリスト表示のように、フォルダーや音楽ファイルがフォルダーごとに一覧で表示されます。
“FINDER”画面が表示されているとき、本体のMULTI JOGダイヤルおよび◄◄ [SKIP] ／ ►► [LOCK] ボタン（リモコンの▲ ／ ▼ ／ ◄ ／ ▶ボタン）を使って、操作対象のフォルダーやファイルを選択（反転表示）します。

- 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、ファイルやフォルダーの**“FINDER MENU”**をポップアップ表示します。（ → 50ページ「ファイルの操作」）（ → 50ページ「フォルダーの操作」）
- フォルダーを選択中（反転表示中）に本体の►► [LOCK] ボタン（リモコンの▶ボタン）を押すと、フォルダーの内容が表示されます。
- 本体のFINDER [A-B] ボタン（リモコンのFINDERボタン）を押すと、操作を一つ戻すことができます。
- ファイルやフォルダーを選択中（反転表示中）に本体の◄◄ [SKIP] ボタン（リモコンの◀ボタン）を押すと、上位の階層に戻ります。
- ファイルやフォルダーを選択中（反転表示中）に本体のHOME/DISPLAYボタン（リモコンのHOME/DISPボタン）を押すと、ホーム画面に戻ります。
- ファイルやフォルダーを選択中（反転表示中）に本体またはリモコンのPLAYボタンを押すと、ホーム画面に戻りそのファイルやフォルダーが再生されます。
  再生範囲が**“FOLDER”**の場合は、選択中のフォルダーがカレントフォルダーになります。
- ファイルやフォルダーを選択中（反転表示中）に本体のREADY [CALL] ボタン（リモコンREADYのボタン）を押すと、ホーム画面に戻りそのファイルやフォルダーの先頭で再生待機状態中となります。
  再生範囲が**“FOLDER”**の場合は、選択中のフォルダーがカレントフォルダーになります。
- ファイルやフォルダーを選択中（反転表示中）に本体のEDIT [INPUT] ボタン（リモコンのEDITボタン）を押すと、エディットメニューをポップアップ表示します。
- ファイルやフォルダーを選択中（反転表示中）に本体のSHIFTボタンを押すとスクロール表示されます。

FINDER画面内のアイコン表示

以下に**“FINDER”**画面内のアイコン表示を説明します。

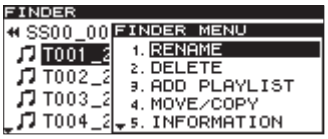
カレントフォルダー（ ）
現在選択中のフォルダーです。

フォルダー（ ）
現在選択していないフォルダーです。

オーディオファイル（ ）
音楽ファイルは、**“ ”**のあとにファイル名が表示されます。

ファイルの操作

“FINDER”画面内の希望のオーディオファイルを選択（反転表示）し、本体の**MULTI JOG**ダイヤル（リモコンの**ENTER**ボタン）を押すと、ファイルの**“FINDER MENU”**をポップアップ表示します。



本体の**MULTI JOG**ダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタン押して）、希望の項目を選択（反転表示）し、本体の**MULTI JOG**ダイヤル（リモコンの**ENTER**ボタン）を押すと、以下の動作を行います。

メモ

プロテクトされているSDカードがセットされているとき、**“RENAME”**項目、**“DELETE”**項目、**“ADD PLAYLIST”**項目、**“MOVE/COPY”**項目の操作はできません。（ → 23ページ「SDカードのプロテクトスイッチについて」）

RENAME

“RENAME”画面が表示され、選択（反転表示）したファイル名を編集します。（ → 51ページ「ファイル名を編集する（USBメモリー／ SDカード／ CFカード）」）

DELETE

選択（反転表示）したファイルを削除します。（ → 52ページ「フォルダーやファイルを削除する（USBメモリー／ SDカード／ CFカード）」）

ADD PLAYLIST

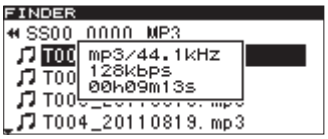
選択（反転表示）したファイルを希望のプレイリストに追加します。（ → 53ページ「ファイルをプレイリストに追加する（USBメモリー／ SDカード／ CFカード）」）

MOVE ／ COPY

選択（反転表示）したファイルの位置を、同一のフォルダー内で移動したり、別のフォルダーに移動またはコピーします。（ → 54ページ「ファイルの移動とコピー（USBメモリー／ SDカード／ CFカード）」）

INFORMATION

選択（反転表示）したファイルの情報（ファイル形式、サンプリング周波数など）がポップアップ表示されます。

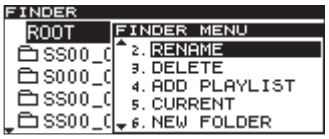


CANCEL

選択中（反転表示中）のファイルに関する操作をキャンセルし、ファイルの**“FINDER MENU”**を閉じて、**“FINDER”**画面に戻ります。

フォルダーの操作

“FINDER”画面内の希望のフォルダーを選択（反転表示）し、本体の**MULTI JOG**ダイヤル（リモコンの**ENTER**ボタン）を押すと、フォルダーの**“FINDER MENU”**をポップアップ表示します。



本体の**MULTI JOG**ダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタン押して）、希望の項目を選択（反転表示）し、本体の**MULTI JOG**ダイヤル（リモコンの**ENTER**ボタン）を押すと、以下の動作を行います。

メモ

- USBメモリー／ SDカード／ CFカードの場合は、**“FINDER MENU”**のすべての機能を実行することができます。
  MP3ファイルやWAVファイルを記録した未ファイナライズのデータCDの場合は、一部の機能を実行することができます。
- プロテクトされているSDカードがセットされているとき、**“RENAME”**項目、**“DELETE”**項目、**“ADD PLAYLIST”**項目、**“NEW FOLDER”**項目の操作はできません。（ → 23ページ「SDカードのプロテクトスイッチについて」）

SELECT

選択中（反転表示中）のフォルダーを開きます。

RENAME

“RENAME”画面が表示され、選択（反転表示）したフォルダー名を編集します。（ → 51ページ「フォルダー名を編集する（USBメモリー／ SDカード／ CFカード）」）

DELETE（USBメモリー／ SDカード／ CFカード）

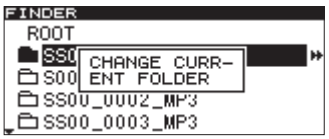
選択（反転表示）したフォルダーを削除します。（ → 52ページ「フォルダーやファイルを削除する（USBメモリー／ SDカード／ CFカード）」）

ADD PLAYLIST

選択（反転表示）したフォルダー全体を希望のプレイリストに追加します。（ → 52ページ「フォルダー全体をプレイリストに追加する（USBメモリー／ SDカード／ CFカード）」）

CURRENT

選択（反転表示）したフォルダーをカレントフォルダーにするポップアップメッセージが表示され、カレントフォルダーにすることができます。



メモ

録音によって作成されるオーディオファイルは、カレントフォルダーに記録されます。録音ファイルを収納するための新規フォルダーを作成した場合は、上記の手順で新規フォルダーをカレントフォルダーにすることができます。

NEW FOLDER

新しいフォルダーを作ります。（ → 53ページ「新しいフォルダーを作成する」）

MOVE ／ COPY

選択（反転表示）したフォルダーの位置を、同一のフォルダー内で移動する、別のフォルダーに移動またはコピーします。（ → 54ページ「ファイルの移動とコピー（USBメモリー／ SDカード／ CFカード）」）

INFORMATION

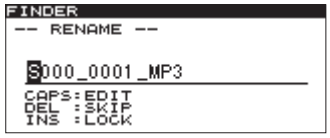
選択（反転表示）したフォルダーの情報（総ファイル数、トータル時間）がポップアップ表示されます。

CANCEL

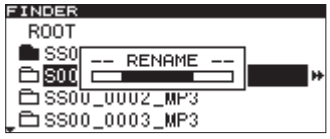
選択中（反転表示中）のフォルダーに関する操作をキャンセルし、フォルダーの **“FINDER MENU”** を閉じて、**“FINDER”** 画面に戻ります。

フォルダー名を編集する（USBメモリー／ SDカード／ CFカードのみ）

1. 名前を編集するフォルダーを選択（反転表示）し、本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタン押して）、**“RENAME”** 項目を選択（反転表示）します。
2. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、**“RENAME”** 画面（名前編集画面）を表示します。



3. フォルダー名を編集します。フォルダー名の編集方法については、47ページ「文字の設定方法」と同じです。
4. フォルダー名の編集が終了したら、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、名前を確定します。
   “-- RENAME --” およびプログレスバーがポップアップ表示され、フォルダー名が編集されます。



フォルダー名を編集後、**“FINDER”** 画面に戻ります。

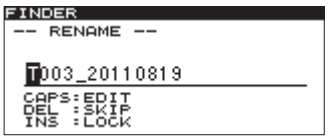
注意

- アルファベット、数字、記号以外が入った名前を編集することはできません（**“RENAME”** 時に登録済みの名前が表示されません）。
- 以下の記号や句読点は、名前に使うことができません。

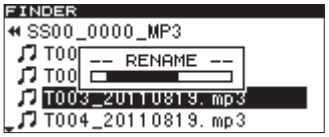
  ¥ ／ : ; , * ? " < > |

ファイル名を編集する（USBメモリー／ SDカード／ CFカードのみ）

1. 名前を編集するファイルを選択（反転表示）し、本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタン押して）、**“RENAME”** 項目を選択（反転表示）します。
2. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、**“RENAME”** 画面（名前編集画面）を表示します。



3. ファイル名を編集します。ファイル名の編集方法については、47ページ「文字の設定方法」と同じです。
4. ファイル名の編集が終了したら、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、名前を確定します。
   “-- RENAME --” およびプログレスバーがポップアップ表示され、ファイル名が編集されます。



ファイル名を編集後、**“FINDER”** 画面に戻ります。

注意

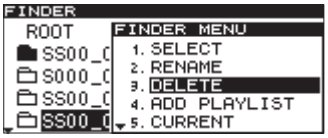
- USBメモリー／ SDカード／ CFカードをパソコンに直接セットして、パソコンからファイル名を編集することもできますが、パソコン上でファイル名の編集を行った場合は、本機のファイルの再生順がパソコンでの編集以前と変わる場合がありますのでご了承ください。
- アルファベット、数字、記号以外が入った名前を編集することはできません（**“RENAME”** 時に登録済みの名前が表示されません）。
- 以下の記号や句読点は、名前に使うことができません。

  ¥ ／ : ; , * ? " < > |

フォルダーやファイルを削除する（USBメモリー／ SDカード／ CFカードのみ）

フォルダーやファイルをUSBメモリー／ SDカード／ CFカードから削除することができます。
フォルダーを削除すると、その中に含まれるファイルも削除されます。
ファイルの削除は、再生モードが**“CONTINUE”**（連続再生モード）に設定されているときのみ可能です。

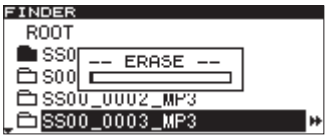
1. 削除したいフォルダーやファイルを選択（反転表示）し、本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタン押して）、**“DELETE”**項目を選択（反転表示）します。



2. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押します。
確認のポップアップメッセージが表示されます。

削除を中止するには、本体のFINDER [A-B] ボタン（リモコンのFINDERボタン）を押します。

3. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押すと、USBメモリー／ SDカード／ CFカードから削除（DELETE）を行います。
取り消し中は、**“-- ERASE --”**およびプログレスバーがポップアップ表示されます。



削除が終了すると、**“FINDER”**画面に戻ります。

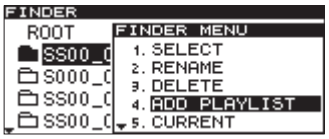
メモ

フォルダーやファイルを削除した直後であれば、削除を取り消すことができます。（ → 59ページ「エディットメニューの操作を取り消す（UNDO）」）

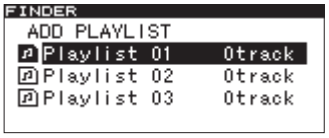
フォルダー全体をプレイリストに追加する（USBメモリー／ SDカード／ CFカードのみ）

フォルダー内のファイルをすべて、希望のプレイリストに追加することができます。ただし、サブフォルダー内のファイルは追加されません。

1. プレイリストに追加する希望のフォルダーを選択（反転表示）し、本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタン押して）、**“ADD PLAYLIST”**項目を選択（反転表示）します。

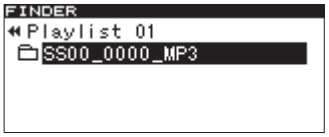


2. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、**“ADD PLAYLIST”**画面（プレイリスト追加画面）を表示します。



3. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタン押して）、登録先にするプレイリストを選択（反転表示）します。

4. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押します。
選択（反転表示）したプレイリストが表示されます。



5. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタン押して）、追加するフォルダーのプレイリスト内の位置を選択します。挿入するフォルダーを反転表示し、その位置にフォルダー内のファイルが挿入されます。

6. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押すと、**“-- ADD PLAYLIST --”**がポップアップ表示され、フォルダーがプレイリストに追加されます。

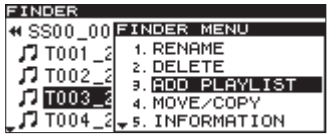
メモ

- プレイリストに登録可能なトラック数は、最大99トラックです。
- 99トラック以上の登録を行おうとした場合は、警告メッセージ**“P.LIST FULL”**をポップアップ表示し、トラックの登録を行いません。
- プレイリストに同じトラックを複数回登録することは、できません。

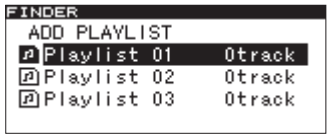
ファイルをプレイリストに追加する（USBメモリー／ SDカード／ CFカードのみ）

ファイルを希望のプレイリストに追加することができます。

1. プレイリストに追加する希望のファイルを選択（反転表示）し、本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタン押して）、**“ADD PLAYLIST”** 項目を選択（反転表示）します。

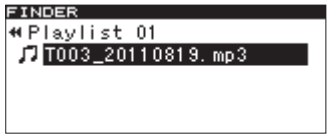


2. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、**“ADD PLAYLIST”** 画面（プレイリスト追加画面）を表示します。



3. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタン押して）、登録先にするプレイリストを選択（反転表示）します。

4. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押します。
選択（反転表示）したプレイリストが表示されます。



5. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタン押して）、追加するファイルのプレイリスト内の位置を選択します。追加するファイルが選択（反転表示）され、その位置にファイルが追加されます。

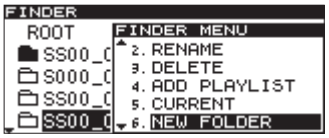
6. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押すと、**“-- ADD PLAYLIST --”** がポップアップ表示され、ファイルがプレイリストに追加されます。

メモ

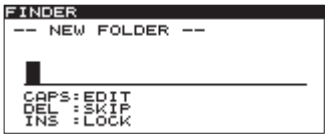
- プレイリストに登録可能なトラック数は、最大99トラックです。
- 99トラック以上の登録を行おうとした場合は、警告メッセージ **“P.LIST FULL”** をポップアップ表示し、トラックの登録を行いません。
- プレイリストに同じトラックを複数回登録することは、できません。

新しいフォルダーを作成する（USBメモリー／ SDカード／ CFカードのみ）

1. 新規にフォルダーを作成する希望のフォルダーを選択（反転表示）し、本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタン押して）、**“NEW FOLDER”** 項目を選択（反転表示）します。

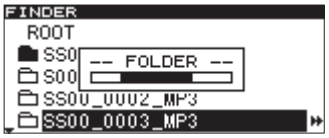


2. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、**“NEW FOLDER”** 画面を表示します。



3. フォルダー名を入力します。フォルダー名の入力方法については、47ページ「文字の設定方法」と同じです。

4. フォルダー名の入力が終了したら、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、名前を確定します。
“-- FOLDER --” およびプログレスバーがポップアップ表示され、新規フォルダーが作成されます。



作成後、**“FINDER”** 画面に戻ります。

メモ

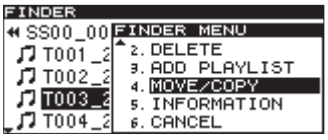
- 一つのUSBメモリー／ SDカード／ CFカード上に作成できる最大フォルダー数は、255です。
- 2GB以下のメディアをご使用の場合、ファイルシステムの制限によりルートフォルダーには255個までフォルダーを作成する事ができません。サブフォルダーには合わせて最大255個までフォルダーを作成する事ができます。

ファイルの移動とコピー（USBメモリー／ SDカード／ CFカードのみ）

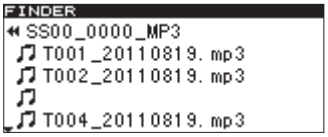
USBメモリー／ SDカード／ CFカード内のファイルの位置をフォルダー内で移動する、別のフォルダーに移動またはコピーすることができます。これらの操作は、**“FINDER”** 画面で行います。
以下の説明は、操作対象フォルダーの **“FINDER”** 画面が表示されていることを前提にしています。

同一フォルダー内のファイル移動

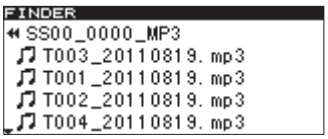
1. 移動するファイルを選択（反転表示）し、本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタン押して）、**“MOVE/COPY”** を選択（反転表示）します。



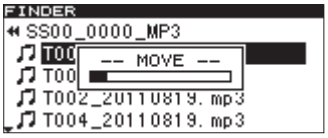
2. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）押すと、**“FINDER”** 画面の移動対象ファイルが点滅します。



3. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタン押して）、移動対象ファイルを希望の位置に移動します。



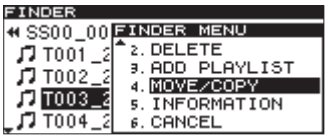
4. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、移動する位置を確定します。
“-- MOVE --” およびプログレスバーがポップアップ表示され、移動が確定します。



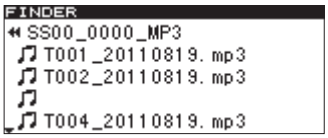
ファイルを移動後、**“FINDER”** 画面に戻ります。

フォルダー間のファイル移動／コピー

1. 移動またはコピーするファイルを選択（反転表示）し、本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタン押して）、**“MOVE/COPY”** を選択（反転表示）します。

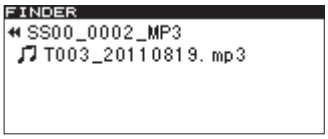


2. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）押すと、**“FINDER”** 画面の移動またはコピー対象ファイルが点滅します。

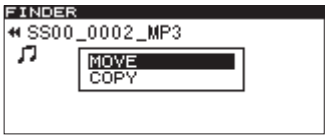


点滅しているファイルを、フォルダー名が表示されているところまで移動すると、点滅しているファイル名が消えて、フォルダー名が選択（反転表示）になります。

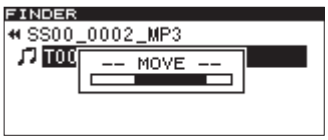
3. 本体のMULTI JOGダイヤルと および◄◄ [SKIP] ／ ►► [LOCK] ボタン（リモコンの▲ ／ ▼ ／ ◄ ／ ►ボタン）を使って、**“FINDER”** 画面内の移動先のフォルダーを開きます。
カーソルをファイル名が表示されているところまで移動すると、移動対象ファイルの点滅表示が現れます。



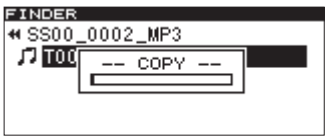
4. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタン押して）、点滅している移動対象ファイルを移動先にしたい位置に移動します。
本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、以下のメニュー項目がポップアップ表示されます。



5. ファイルを以前の場所から単に移動する場合は **“MOVE”** 項目を、ファイルをコピーする場合は **“COPY”** 項目を選択（反転表示）し、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押します。
選択したメニュー項目（**“-- MOVE --”** または **“-- COPY --”**）およびプログレスバーがポップアップ表示され、ファイルが移動またはコピーされます。



[**“MOVE”** 項目を選択時の表示]



[**“COPY”** 項目を選択時の表示]

メモ

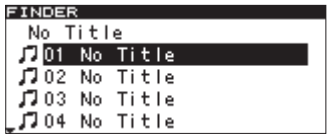
“COPY” の場合は、移動元にファイルが残ります。
“MOVE” の場合は、移動元にファイルが残りません。

第7章　オーディオCDのFINDER画面を使う（SS-CDR200のみ）

オーディオCD形式のファイルを記録したCDの場合、オーディオCDの**“FINDER”**画面を使って、再生するトラックを選択することができます。また、オーディオCD形式のファイルが記録されている未ファイナライズのCD-R ／ CD-RWディスクの場合、CD -TEXTの編集を行うことができます。
以下の説明では、オーディオCDが挿入され、カレントデバイスに**“CD”**が選択されていることを前提にしています。

オーディオCDのFINDER画面を開く

停止中／再生待機中／再生中に、本体の**FINDER [A-B]** ボタン（リモコンの**FINDER**ボタン）を押すと、オーディオCDの**“FINDER”**画面が表示されます。
この画面には、トラック番号順にトラックがリスト表示されます。
停止中に呼び出すと、トラック1が反転します。
再生待機中／再生中に呼び出すと、現在のトラックが反転します。



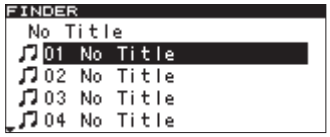
FINDER画面を終了してホーム画面に戻るには：

本体の**HOME/DISP**ボタン（リモコンの**HOME/DISP**ボタン）を押します。

再生するトラックを選ぶ

オーディオCDの**“FINDER”**画面から、以下の手順で再生するトラックを選ぶことができます。

1. **“FINDER”**画面を開き、再生したいトラックを反転させます。

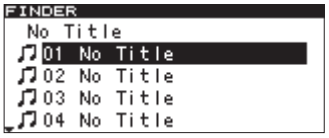


2. 本体の**PLAY**ボタン（リモコンの**PLAY**ボタン）を押します。
停止中に上記操作を行うと、反転トラックの再生が始まります。
再生待機中に上記操作を行うと、反転トラックの先頭で再生待機状態になります。

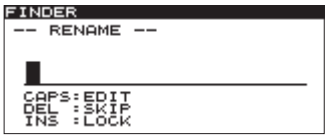
CD-TEXTを編集する（CD-R ／ CD-RWディスクのみ）

オーディオCD形式のファイルが記録されている未ファイナライズのCD-R ／ CD-RWディスクが挿入されている場合、以下の手順でCD-TEXTを編集することができます。

1. **“FINDER”**画面を開き、希望のトラックを反転させます。



2. **MULTI JOG**ダイヤル（リモコンの**ENTER**ボタン）を押します。
反転トラックのCD-TEXT編集画面が表示されます。

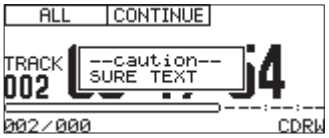


3. 名前を編集します。名前の入力方法については、47ページ「文字の設定方法」と同じです。

4. CD-TEXTの編集が終了したら、本体の**MULTI JOG**ダイヤル（リモコンの**ENTER**ボタン）を押して、編集を確定します。
CD-TEXTを編集後、**“FINDER”**画面に戻ります。

注意

- **EJECT**ボタンを押すと、以下の警告メッセージがポップアップ表示されます。



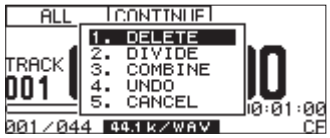
CD-TEXTの編集のを有効にするには、ファイナライズを行ってください。（ → 42ページ「CD-R ／ CD-RWディスクのファイナライズ（SS-CDR200のみ）」）

- アルファベット、数字、記号以外が入った名前を編集することはできません（**“RENAME”**時に登録済みの名前が表示されません）。
- 以下の記号や句読点は、名前に使うことができません。

  ¥ ／ : ; , * ? " < > |

エディットメニューの操作

本体のEDIT [INPUT] ボタン（リモコンのEDITボタン）を押すと、エディットメニューをポップアップ表示します。



本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタン押して）、希望の項目を選択（反転表示）し、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押すと、以下の動作を行います。

メモ

プロテクトされているSDカードがセットされているとき、以下の操作はできません。（ → 23ページ「SDカードのプロテクトスイッチについて」）

DELETE

選択したファイルを削除します。（ → 56ページ「ファイルを削除する（DELETE）」）

DIVIDE

選択したファイルを分割します。（ → 57ページ「ファイルを分割する（DIVIDE）」）

COMBINE

選択したファイルを結合します。（ → 58ページ「ファイルを結合する（COMBINE）」）

UNDO

エディットメニューの操作を取り消します。（ → 59ページ「エディットメニューの操作を取り消す（UNDO）」）

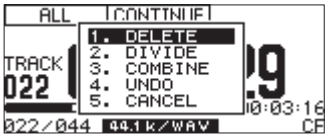
CANCEL

エディットメニューに関する操作をキャンセルし、エディットメニューを閉じてホーム画面に戻り、本体のREADY [CALL] ボタンを点灯します。

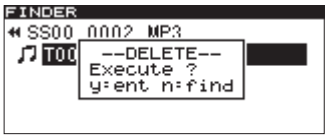
ファイルを削除する（DELETE）

ホーム画面に表示中のファイルをUSBメモリー／ SDカード／ CFカードから削除することができます。
再生モードが“CONTINUE”（連続再生モード）に設定されているときのみ可能です。

1. 本体のPLAYボタン、◄◄ [SKIP] ／ ►► [LOCK] ボタン（リモコンのPLAYボタン、SEARCH ◄◄ ／ ►►ボタン）タイムサーチ機能、スキップバック／フォワード機能などを使って、削除したファイル上にロケートします。
2. 本体のEDIT [INPUT] ボタン（リモコンのEDITボタン）を押して、エディットメニューをポップアップ表示します。
3. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、“DELETE”項目を選択（反転表示）します。

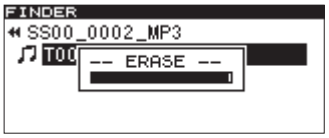


4. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押します。
確認のポップアップメッセージが表示されます。



削除を取り消すには、本体のEDIT [INPUT] ボタン（リモコンのEDITボタン）を押します。

5. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押すと、USBメモリー／ SDカード／ CFカードから削除（DELETE）を行います。
取り消し中は、“-- ERASE --”およびプログレスバーがポップアップ表示されます。



削除が終了すると、“FINDER”画面に戻ります。

メモ

ファイルを削除した直後であれば、削除を取り消すことができます。（ → 59ページ「エディットメニューの操作を取り消す（UNDO）」）

ファイルを分割する（DIVIDE）

録音したWAVファイルを任意の位置で、二つのファイルに分割することができます。
再生モードが“**CONTINUE**”（連続再生モード）に設定されているときのみ可能です。

注意

MP3ファイルを分割することは、できません。

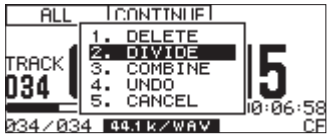
メモ

分割した後で、分割操作を取り消す（UNDOする）ことができます。（ → 59ページ「エディットメニューの操作を取り消す（UNDO）」）

1. 本体のPLAYボタン、◄◄ [SKIP] ／ ►► [LOCK] ボタン（リモコンのPLAYボタン、SEARCH ◄◄ ／ ►►ボタン）、タイムサーチ機能、スキップバック／フォワード機能などを使って、WAVファイル上の分割したい位置付近にロケートします。
後から微調整を行いますので、おおよその位置でかまいません。

2. 再生中／再生待機中に本体のEDIT [INPUT] ボタン（リモコンのEDITボタン）を押して、エディットメニューをポップアップ表示します。

3. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、“**DIVIDE**”項目を選択（反転表示）します。



4. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押すと、ホーム画面が表示されます。
このとき、スクラブ再生モードになり、ホーム画面TRACKモード表示のトラック経過時間にフレームの値が表示され、本体のPLAYボタンとREADY [CALL] ボタンが点滅します。

フレーム表示

5. スクラブ再生機能を使って、分割ポイントを正確に設定します。本体のMULTI JOGダイヤルを回すと（リモコンのSKIP I◄◄ ／ ►►I ボタン押して）スクラブ再生を行い、分割ポイントが移動します。

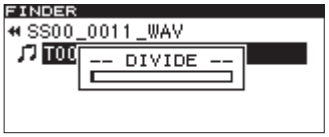
6. 分割ポイントを決めたら、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押します。
確認のポップアップメッセージが表示されます。

分割ポイントを変更する場合は、本体のEDIT [INPUT] ボタン（リモコンのEDITボタン）を押してください。スクラブ再生モードに戻りますので、手順5.からやり直します。
分割を実行する場合は、次の手順7.に進みます。

メモ

プレイリストに登録されているファイルの場合は、警告メッセージ“**P.LIST ENTRY**”がポップアップ表示されます。
編集対象のファイルがプレイリストに登録されていた場合は、そのプレイリストは再生できなくなります。“**PLAYLIST EDIT**”画面または“**USER PLAYLIST**”画面でプレイリストから削除してください。

7. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押すと、分割（DIVIDE）を行います。
分割中は、“**-- DIVIDE --**”およびプログレスバーがポップアップ表示されます。



分割が終了すると、“**FINDER**”画面が表示されます。

ファイルを結合する（COMBINE）

録音した二つのWAVファイルを結合して一つのファイルにすることができます。
再生モードが“**CONTINUE**”（連続再生モード）に設定されているときのみ可能です。

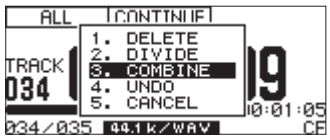
注意

- MP3ファイルを結合することは、できません。
- サンプリング周波数、チャンネル数の異なる二つのWAVファイルを結合することはできません。

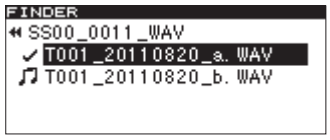
メモ

結合した後で、結合操作を取り消す（UNDOする）ことができます。（ → 59ページ「エディットメニューの操作を取り消す（UNDO）」）

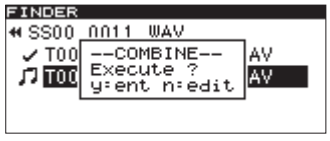
1. 本体の**PLAY**ボタン、◄◄ **[SKIP]** ／ ►► **[LOCK]** ボタン（リモコンの**PLAY**ボタン、**SEARCH** ◄◄ ／ ►►ボタン）タイムサーチ機能、スキップバック／フォワード機能などを使って、結合したいファイルのいずれか一方のファイル上にロケートします。
2. 本体の**EDIT [INPUT]** ボタン（リモコンの**EDIT**ボタン）を押して、エディットメニューをポップアップ表示します。
3. 本体の**MULTI JOG**ダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、“**COMBINE**”項目を選択（反転表示）します。



4. 本体の**MULTI JOG**ダイヤル（リモコンの**ENTER**ボタン）を押すと、選択（反転表示）していたファイルにチェックマーク（“✔”）が付きます。



5. 本体の**MULTI JOG**ダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、チェックマーク（“✔”）が付いているファイルと結合したいファイルを選択（反転表示）します。
6. 本体の**MULTI JOG**ダイヤル（リモコンの**ENTER**ボタン）を押します。
確認のポップアップメッセージが表示され、本体の**PLAY**ボタンと**READY [CALL]** ボタンが点滅し、結合ポイントの前後4秒間をリピート再生します。

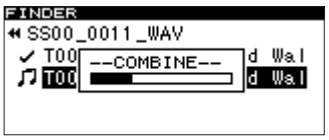


結合を中止する場合は、本体の**EDIT [INPUT]** ボタン（リモコンの**EDIT**ボタン）を押します。
“**FINDER**”画面に戻りますので、手順**4.**からやり直します。

メモ

プレイリストに登録されているファイルの場合は、警告メッセージ“**P.LIST ENTRY**”がポップアップ表示されます。
編集対象のファイルがプレイリストに登録されていた場合は、そのプレイリストは再生できなくなります。“**PLAYLIST EDIT**”画面または“**USER PLAYLIST**”画面でプレイリストから削除してください。

7. 結合操作を確定するには、本体の**MULTI JOG**ダイヤル（リモコンの**ENTER**ボタン）を押すと、結合（COMBINE）を行います。
結合中は、“**-- COMBINE --**”およびプログレスバーがポップアップ表示されます。



結合が終了すると、“**FINDER**”画面が表示されます。

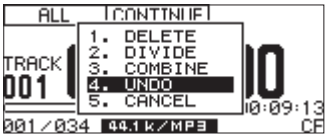
エディットメニューの操作を取り消す（UNDO）

エディットメニュー操作のうち、ファイル分割、ファイル結合、ファイル削除、およびフォルダー削除については、操作を実行した直後に、操作を取り消すことができます。
再生モードが**“CONTINUE”**（連続再生モード）に設定されているときのみ可能です。

メモ

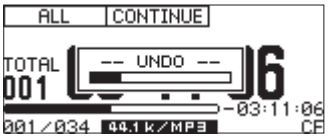
取り消し操作を行うときは、エディットメニューを開く前の**“FINDER”**画面で、どのフォルダー／ファイルが選択されていてもかまいません。

1. 本体の**EDIT [INPUT]** ボタン（リモコンの**EDIT**ボタン）を押して、エディットメニューをポップアップ表示します。
2. 本体の**MULTI JOG**ダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、**“UNDO”**項目を選択（反転表示）します。



3. 本体の**MULTI JOG**ダイヤル（リモコンの**ENTER**ボタン）を押します。
確認のポップアップメッセージが表示されます。

4. 本体の**MULTI JOG**ダイヤル（リモコンの**ENTER**ボタン）を押すと、取り消し（UNDO）を行います。
取り消し中は、**“-- UNDO --”**およびプログレスバーがポップアップ表示されます。



取り消し（UNDO）が終了すると、**“FINDER”**画面が表示されます。このとき、UNDOされたフォルダー／ファイルが選択（反転表示）しています。

メモ

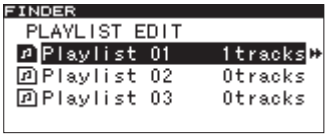
- 取り消し（UNDO）を中止する場合は、本体の**EDIT [INPUT]** ボタン（リモコンの**EDIT**ボタン）を押します。
- UNDO可能なファイル操作が存在しない場合は、警告メッセージ**“CAN'T UNDO”**がポップアップ表示されます。

第9章　プレイリストの編集(USBメモリー／ SDカード／ CFカードのみ)

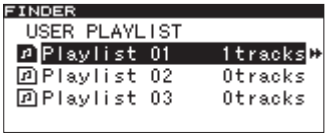
概要

USBメモリー／ SDカード／ CFカードをはじめて本機にセットすると、本機が三つの空のプレイリスト（01 ～ 03）をカレントデバイスのメディア上に自動作成します。これらのプレイリストにメディア内のオーディオファイルを登録しておくと、再生範囲をプレイリストに設定したとき、カレントプレイリスト内のファイルを再生対象にすることができます。

プレイリストに関する作業を行うには、**“PLAY”**メニューの**“P.L. EDIT”**項目から**“PLAYLIST EDIT”**画面を表示する、または再生範囲（ → 26ページ「再生範囲」）を**“PLAY LIST”**のときのみ表示する**“USER PLAYLIST”**画面で行います。

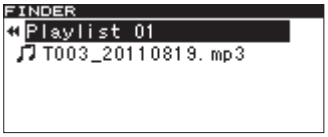


[PLAYLIST EDIT画面]

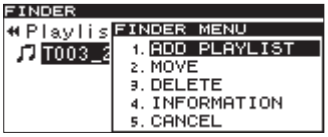


[USER PLAYLIST画面]

この画面から**“USER PLAYLIST”**画面から**“Playlist XX”**画面（**“XX”**はリスト番号、プレイリストに含まれるファイルを表示）に進み、操作対象ファイルを選んでからプレイリストの**“FINDER MENU”**に進むと、プレイリストへのファイル追加、プレイリストからのファイル削除、およびプレイリスト内のファイル移動を行うことができます。



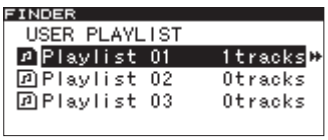
[Playlist 01画面]



[プレイリストのFINDER MENU]

USER PLAYLIST画面を開く

再生範囲（ → 26ページ「再生範囲」）が**“PLAY LIST”**の場合のみ、停止中／再生待機中／再生中に本体の**FINDER [A-B]**ボタン（リモコンの**FINDER**ボタン）を押すと、**“USER PLAYLIST”**画面が表示されます。



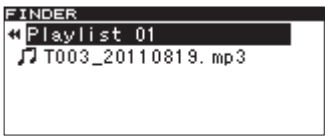
プレイリスト画面内のナビゲーション

“PLAYLIST EDIT”画面または**“USER PLAYLIST”**画面には、三つのプレイリスト（**“PLAYLIST 01”** ～ **“PLAYLIST 03”**）が表示されます。

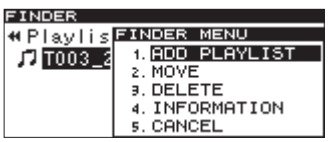
右側には、それぞれのプレイリストに登録されているファイル（トラック）数が表示されます。

ディスプレーに**“PLAYLIST EDIT”**画面または**“USER PLAYLIST”**画面が表示されているとき、本体の**MULTI JOG**ダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、操作対象のプレイリストを選択（反転表示）します。この状態で、以下の操作が可能です。

- **プレイリストの頭から再生を開始する：**
  “USER PLAYLIST”画面を表示中に、本体またはリモコンの**PLAY**ボタンを押します。
  再生開始と同時にディスプレーの表示がホーム画面に戻ります。また、選択したプレイリストがカレントプレイリストに設定されます。
- **プレイリストの頭で再生待機状態にする：**
  “USER PLAYLIST”画面を表示中に、本体の**READY [CALL]**ボタン（リモコンの**READY**ボタン）を押します。
  再生待機状態にすると同時にディスプレーの表示がホーム画面に戻ります。また、選択したプレイリストがカレントプレイリストに設定されます。
- **プレイリスト画面を開く：**
  “PLAYLIST EDIT”画面または**“USER PLAYLIST”**画面を表示中に、本体の**MULTI JOG**ダイヤルまたは►► **[LOCK]**ボタン（リモコンの**ENTER**ボタンまたは▶ボタン）を押します。
  “Playlist XX”画面（**“XX”**はリスト番号）には、プレイリスト内のファイルがリスト表示します。

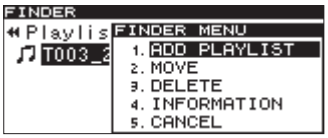


- **プレイリストのFINDER MENUを表示する：**
  “Playlist XX”画面（**“XX”**はリスト番号）を表示中に、本体の**MULTI JOG**ダイヤル（リモコンの**ENTER**ボタン）を押します。プレイリストの**“FINDER MENU”**をポップアップ表示します。
  “FINDER MENU”ポップアップ表示の各項目の詳細は、次の「プレイリストのFINDER MENUの操作」（61ページ）をご覧ください。



プレイリストのFINDER MENUの操作

プレイリストの“**FINDER MENU**”では、プレイリストからのファイル削除、プレイリストへのファイル追加などを行うことができます。以下の説明は、操作対象プレイリストの“**Playlist XX**”画面（“**XX**”はリスト番号）が表示されていることを前提にしています。
プレイリストの“**FINDER MENU**”をポップアップ表示するには、“**PLAYLIST EDIT**”画面または“**USER PLAYLIST**”画面で希望のプレイリストを選択（反転表示）して、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押します。（ → 60ページ「プレイリスト画面内のナビゲーション」）



本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタン押して）、希望の項目を選択（反転表示）し、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押すと、以下の動作を行います。

メモ

プロテクトされているSDカードがセットされているとき、“**ADD PLAYLIST**”項目、“**MOVE**”項目、“**DELETE**”項目の操作はできません。（ → 23ページ「SDカードのプロテクトスイッチについて」）

ADD PLAYLIST

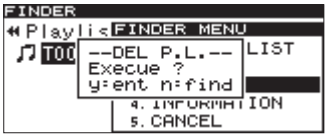
選択したプレイリストにファイルを追加します。（ → 61ページ「プレイリストにファイルを追加する」）

MOVE

選択（反転表示）したファイルの位置を、同一のプレイリスト内で移動します。（ → 54ページ「ファイルの移動とコピー（USBメモリー／ SDカード／ CFカード）」）

DELETE

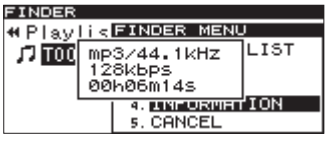
プレイリストからファイルを削除する確認のポップアップメッセージが表示されます。



本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押すとファイルが削除され、本体のFINDER [A-B] ボタン（リモコンのFINDERボタン）を押すと削除が中止されます。

INFORMATION

プレイリストに含まれるトラックの数とプレイリストのトータル再生時間がポップアップ表示されます。



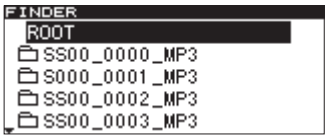
CANCEL

選択中（反転表示中）のファイルに関する操作をキャンセルし、プレイリストの“**FINDER MENU**”を閉じて、**Playlist XX**”画面（“**XX**”はリスト番号）に戻ります。

プレイリストにファイルを追加する

以下の手順でプレイリストにファイルを追加することができます。なお、フォルダーに含まれるファイルを一括して追加することもできます。

1. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、“**ADD PLAYLIST**”項目を選択（反転表示）します。
2. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、“**FINDER**”画面を表示します。

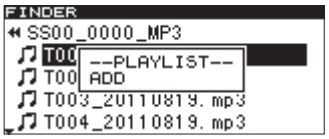


3. 追加したいファイルまたはフォルダーを選択（反転表示）します。
“**FINDER**”画面内のナビゲーションについては、「FINDER画面内のナビゲーション」（49ページ）をご覧ください。
フォルダーを選択すると、フォルダー内のファイルすべてが追加されます。

メモ

サブフォルダー内のファイルは、追加されません。

4. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押します。
“**-- PLAYLIST --**”と“**ADD**”をポップアップ表示し、ファイル（またはフォルダー内のすべてのファイル）が、プレイリストに追加されます。



メモ

- プレイリストに登録可能なトラック数は、最大99トラックです。
- 99トラック以上の登録を行おうとした場合は、警告メッセージ“**P.LIST FULL**”をポップアップ表示し、トラックの登録を行いません。
- プレイリストに同じトラックを複数回登録することは、できません。

プレイリストのファイルを削除する

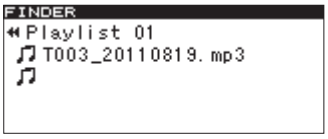
以下の手順でプレイリスト上のファイルを一つずつ、またはすべてのファイルを一度に削除することができます。ただし、プレイリスト上からファイルを削除しても、ファイルがカレントデバイスのメディアから削除されることはありません。

1. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、プレイリスト中のファイルもしくはプレイリストを選択（反転表示）します（プレイリストを選択した場合は、プレイリスト中の全ファイルが削除されます）。
2. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、**“FINDER MENU”**をポップアップ表示します。
3. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、**“DELETE”**項目を選択（反転表示）します。
4. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押します。
   確認のポップアップメッセージが表示されます。
5. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押します。
   削除を取り消すには、本体のFINDER [A-B] ボタン（リモコンのFINDERボタン）を押します。

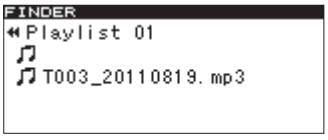
ファイルを移動する

ファイルの位置をプレイリスト内で移動することができます。

1. 移動したいファイルを選択（反転表示）します。
2. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、**“FINDER MENU”**をポップアップ表示します。
3. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、**“MOVE”**項目を選択（反転表示）します。
   “FINDER”画面の移動対象ファイルが点滅します。



4. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、移動対象ファイルを希望の位置に移動します。



5. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、移動する位置を確定します。
   “-- PLAYLIST --”およびプログレスバーがポップアップ表示され、移動が確定すると**“Playlist XX”**画面に戻ります。

USBメモリー／ SDカード／ CFカードに記録されているファイルを、ブランクCDにコピー（または変換コピー）することができます。また、CDに記録されているファイルをUSBメモリー／ SDカード／ CFカードにコピー（または変換コピー）することができます。
これらのコピーは、**“CD”** メニュー画面を使って行いますのでカレントデバイスを **“CD”** に設定します。また、以下に述べる操作を行う前に、あらかじめ適切なCDおよびUSBメモリー／ SDカード／ CFカードを本機にセットしておきます。

メモ

ライトプロテクトされているSDカードには、コピーできません。
（ → 23ページ「SDカードのプロテクトスイッチについて」）

USBメモリー／ SDカード／ CFカードのファイルをブランクCDにコピー／変換コピーする

USBメモリー／ SDカード／ CFカード上のMP3ファイルまたはWAVファイルをブランクCDにコピー／変換コピーする場合は、そのままのファイル形式でデータCDとして記録するか、オーディオCD形式で記録するかを選択します。
オーディオCDを選択した場合は、USBメモリー／ SDカード／ CFカード上のMP3ファイルまたはWAVファイルを、オーディオCD形式に変換してブランクCDに記録することができます。
すでにトラックが記録されていてファイナライズされていないCD-R ／ CD-RWディスクを使う場合、ディスクの書き込み形式（オーディオCDまたはデータCD）がすでに決定していますので、その形式にしたがって記録を行います。

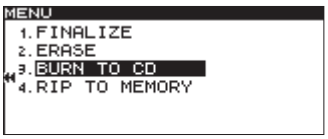
注意

本機は、CD-R ／ CD-RWディスクにWAVファイルを録音することはできませんが、USBメモリー／ SDカード／ CFカード上のWAVファイルをCD-R ／ CD-RWディスクにコピーすることができます。
CD-R ／ CD-RWディスクにコピーされたWAVファイルは、本機で再生することができます。

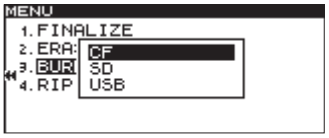
オーディオCDを作成する

USBメモリー／ SDカード／ CFカード上のMP3ファイルまたはWAVファイルをオーディオCD形式に変換してCD-R ／ CD-RWディスクに書き込む手順を説明します。
以下の手順は、カレントデバイスが **“CD”** に設定され、コピー元のファイルを含むUSBメモリー／ SDカード／ CFカードおよびコピー先のCD-R ／ CD-RWディスクが本機に挿入されていることを前提にしています。

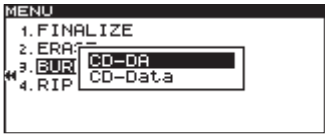
1. 本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）を押して、**“MENU”** 画面を表示します。
2. **“CD”** メニュー画面を表示します。
3. **‘BURN TO CD”** 項目を選択（反転表示）します。



4. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、デバイスを選択するポップアップウィンドウを表示します。



5. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、コピー元のファイルのあるデバイス項目を選択（反転表示）します。
6. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、CD-R ／ CD-RWディスクの書き込み形式を選択するポップアップウィンドウを表示します。



メモ

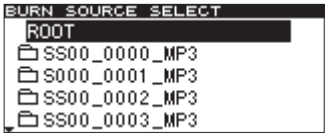
- 選択したデバイスのメディアの読み込みが完了していない場合は、**“MEDIA READ”** およびプログレスバーがポップアップ表示されます。
- 選択したデバイスのメディアがセットされていない場合は、**“MEDIA READ”** 後に **“ERROR”** とメディア名（**“CF READ”** など）がポップアップ表示されます。

7. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、**“CD-DA”** を選択（反転表示）します。

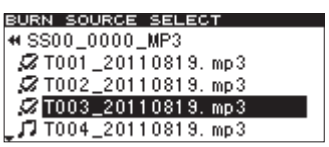
メモ

CD-R ／ CD-RWディスクにすでにオーディオ形式のファイルが書き込まれている場合は、上記のポップアップウィンドウは表示されず、自動的に **“CD-DA”** が選択されます。

8. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、選択したデバイスのメディアの **“BURN SOURCE SELECT”** 画面が表示します。



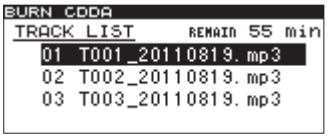
9. CD-R ／ CD-RWディスクに書き込むファイルを **“BURN SOURCE SELECT”** 画面内から選択します。
フォルダーを選択することはできません。
複数のファイルを選択するには、希望のファイルを選択（反転表示）した状態で本体のFUNCTIONボタン（リモコンのFUNCボタン）を押す、という操作を繰り返します。
選択したファイルには、チェックマーク（**“✔”**）が付きます。なお、同一フォルダー内にあるファイルのみ、複数選択が可能です。
選択したファイルを選択解除するには、再び本体のFUNCTIONボタン（リモコンのFUNCボタン）を押します。



メモ

- 同一フォルダー内のファイルのみ複数選択可能ですので、本体のFUNCTIONボタン（リモコンのFUNCボタン）を使って一つ目のファイルを選択すると、以後は別のフォルダーに移動することができなくなります。
- 以下の手順10.にて“**ADD TRACK**”を実行する場合、すでに選択済みのファイルを選択しようとすると、警告メッセージ“**Already has been entered**”がポップアップ表示されます。
- コピー元ファイルが4秒未満のファイルを選択しようとすると、メッセージ“**Cannot burn under 4s**”がポップアップ表示されます。
- ファイルを一つだけ選択する場合は、本体のFUNCTIONボタン（リモコンのFUNCボタン）を押す必要がありません。選択（反転表示）した状態で次の手順10.に進んでください。

10. CD-R ／ CD-RWディスクに書き込むファイルをすべて選択したら、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、選択を確定します。
“**TRACK LIST**”画面が表示されます。



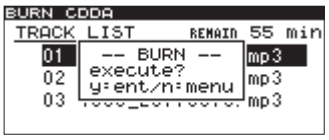
書き込んだ後のCD-R ／ CD-RWディスクの残り時間（“**REMAIN XXmin**”）が画面右上に表示されます。
時間をオーバーすると“**OVER**”が表示され、選択しているファイルをCD-R ／ CD-RWディスクに書き込むことができません。この場合、“**OVER**”が表示されなくなるように、ソースになるファイルを削除する必要があります。
すでに記録済みのファイルがある場合は、そのファイルもリストに表示されます。
既存トラックには、音符マーク（“♫”）が付きます。追加するファイルには、音符マークが付きません。

メモ

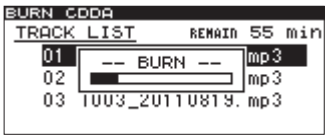
必要に応じて、トラック順の変更や、ファイルの削除を行います。変更の手順については、下記の「トラックリスト内のファイルを移動する」、「トラックリスト内のファイルを削除する」をご覧ください。

11. 書き込みを実行するには、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、ポップアップウィンドウを表示します。

12. さらにトラックを追加したい場合は、“**ADD TRACK**”項目を選択（反転表示）し、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押します（手順9.に戻ります）。
トラックの選択を終了する場合は、“**BURN EXECUTE**”項目を選択（反転表示）し、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押します。
確認のポップアップメッセージが表示されます。



13. 再度、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押します。
CD-R ／ CD-RWディスクへの書き込みを開始します。
実行中は、“**-- BURN --**”およびプログレスバーがポップアップ表示されます。



書き込みが終了すると、“**CD**”メニュー画面に戻ります。

トラックリスト内のファイルを移動する

“**TRACK LIST**”画面を表示中に、以下の手順でトラック順を変更することができます。すでにCD-R ／ CD-RWディスクに書き込み済みのトラック順は変更できません。

1. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、トラック順を変更したいトラックを選択（反転表示）します。
2. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、ポップアップウィンドウを表示します。
3. “**MOVE TRACK**”項目を選択（反転表示）し、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押します。
選択（反転表示）していた移動対象ファイルが点滅します。
4. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、移動対象ファイルを希望の位置に移動します。
5. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、移動を確定します。
6. **必要に応じて、**上記手順1. ～ 5.を繰り返します。

トラックリスト内のファイルを削除する

“**TRACK LIST**”画面を表示中に、以下の手順でファイルを削除することができます。すでにCD-R ／ CD-RWディスクに書き込み済みのファイルは、削除できません。

1. 本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）押して、選択したデバイスのメディアの“**FINDER**”画面が表示します。
2. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、削除したいファイルを選択（反転表示）します。
3. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、削除したいファイルのチェックマーク（“✔”）を消します。
4. 必要に応じて、上記手順2. ～ 3.を繰り返します。

データCDを作成する

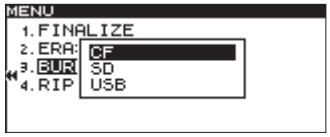
USBメモリー／ SDカード／ CFカード上のMP3ファイルまたはWAVファイルをそのままの形式でデータCDにコピーする手順を説明します。
以下の手順は、カレントデバイスが **“CD”** に設定され、コピー元のファイルを含むUSBメモリー／ SDカード／ CFカードおよびコピー先のCD-R ／ CD-RWディスクが本機に挿入されていることを前提にしています。

注意

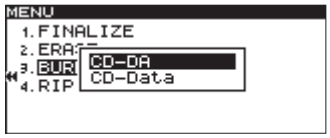
本機は、USBメモリー／ SDカード／ CFカード上のWAVファイルをCD-R ／ CD-RWディスクにコピーすることができますが、CD-R ／ CD-RWディスクにWAVファイルの録音はできません。

1. 本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）を押して、**“MENU”** 画面を表示します。
2. **“CD”** メニュー画面を表示します。
3. **“BURN TO CD”** 項目を選択（反転表示）し、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押します。

4. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、デバイスを選択するポップアップウィンドウを表示します。



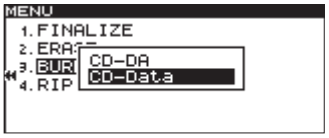
5. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、コピー元のファイルがあるデバイス項目を選択（反転表示）します。
6. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、CD-R ／ CD-RWディスクの書き込み形式を選択するポップアップウィンドウを表示します。



メモ

- 選択したデバイスのメディアの読み込みが完了していない場合は、**“MEDIA READ”** およびプログレスバーがポップアップ表示されます。
- 選択したデバイスのメディアがセットされていない場合は、**“MEDIA READ”** 後に **“ERROR”** とメディア名（**“CF READ”** など）がポップアップ表示されます。

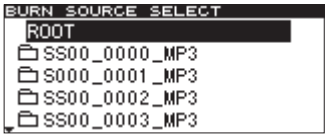
7. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、**“CD-Data”** を選択（反転表示）します。



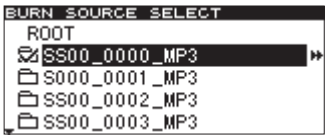
メモ

CD-R ／ CD-RWディスクにすでにMP3ファイルまたはWAVファイルが書き込まれている場合には、上記のポップアップウィンドウは表示されず、自動的に **“CD-Data”** が選択されます。

8. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、選択したデバイスのメディアの **“FINDER”** 画面が表示します。



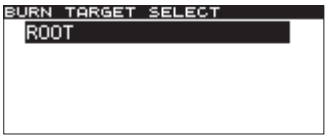
9. CD-R ／ CD-RWディスクにコピーするフォルダーまたはファイルを **“FINDER”** 画面内から選択します。フォルダーを選択すると、フォルダー内のファイルがすべてコピーされます。
複数のフォルダーやファイルを選択する場合は、希望のフォルダーまたはファイルを選択した状態で本体のFUNCTIONボタン（リモコンのFUNCボタン）を押す、という操作を繰り返します。選択したフォルダーやファイルには、チェックマーク（**“✔”**）が付きます。なお、同一フォルダー内にあるフォルダーやファイルのみ、複数選択が可能です。
選択したフォルダーやファイルを選択解除するには、再び本体のFUNCTIONボタン（リモコンのFUNCボタン）を押します。



メモ

- 同一フォルダー内のフォルダー／ファイルのみ選択可能ですので、本体のFUNCTIONボタン（リモコンのFUNCボタン）を使って一つ目のフォルダー／ファイルを選択すると、以後は別のフォルダーに移動することができなくなります。
- フォルダーまたはファイルを一つだけ選択する場合には、本体のFUNCTIONボタン（リモコンのFUNCボタン）を押す必要がありません。選択（反転表示）した状態で次の手順10.に進んでください。

10. CD-R ／ CD-RWディスクにコピーするファイルをすべて選択したら、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、選択を確定します。
“BURN TARGET SELECT”画面（ターゲット選択画面）が表示されます。

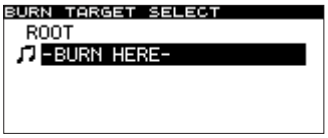


ディスクの空き容量やトラック数制限を超えるようなコピー元選択を行った場合には、**“BURN TARGET SELECT”**画面に進むことができません。このような場合、選択したフォルダーやファイルの削除を行って、制限を超えないようにしてください。

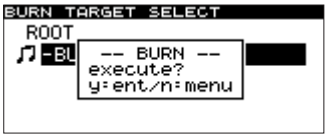
メモ

- コピー元ファイルのトータル容量がコピー先ディスクの空き容量を超えている場合は、手順10.のあとに**“CAPACITY OVER”**がポップアップ表示されます。
- コピー元ファイルをコピーするとディスクのトラック数制限を超える場合は、手順10.のあとに**“TRACK OVER”**がポップアップ表示されます。

11. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、書き込み先（ターゲット）を選択（反転表示）します。
すでにフォルダー構造を持っているディスクの場合は、**“FINDER”**画面内を移動してフォルダーまたはファイルを選択します。
選択したフォルダーまたはファイルの後ろに、フォルダーやファイルが書き込まれます。

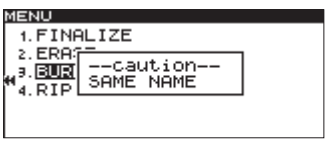


12. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、選択を確定します。
確認のポップアップメッセージが表示されます。



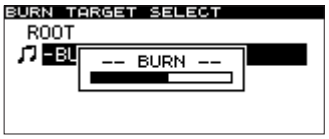
メモ

名前の重複がある場合は、以下の警告メッセージがポップアップメッセージ表示されます。



その後メッセージが消えて、**“CD”**メニュー画面に戻ります。

13. 再度、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押します。
CD-R ／ CD-RWディスクへの書き込みを開始します。
実行中は、**“-- BURN --”**およびプログレスバーがポップアップ表示されます。



書き込みが終了すると、**“CD”**メニュー画面に戻ります。

メモ

EJECTボタンを押してCD-R ／ CD-RWディスクを取り出すとき、自動的にファイナライズを行ってからディスクを排出されます。（ → 42ページ「CD-R ／ CD-RWディスクのファイナライズ（SS-CDR200のみ）」）

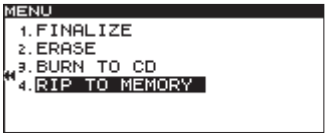
CDのファイルをUSBメモリー／ SDカード／ CFカードにコピー／変換コピーする

CD上のファイルをUSBメモリー／ SDカード／ CFカードにコピー／変換コピーすることができます。オーディオCDからのコピーでは、各トラックファイルが指定されたファイル形式（MP3ファイルまたはWAVファイル）に変換されて書き込まれます。
MP3ファイルやWAVファイルを記録したCD-R ／ CD-RWディスクからのコピーでは、そのままの形式で書き込まれます。

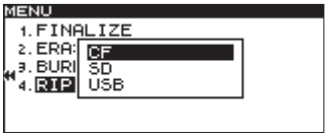
オーディオCDのトラックを変換コピーする

CD上のオーディオCD形式のファイルを、MP3形式またはWAV形式のファイルに変換して選択したデバイスのメディア（USBメモリー／ SDカード／ CFカード）に書き込む手順を説明します。
以下の手順は、カレントデバイスが **“CD”** に設定され、コピー元のファイルを含むCDおよびコピー先の選択したデバイスのメディアが本機にセットされていることを前提にしています。

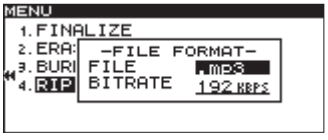
1. 本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）を押して、**“MENU”** 画面を表示します。
2. **“CD”** メニュー画面を表示します。
3. **“RIP TO MEMORY”** 項目を選択（反転表示）し、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押します。



4. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、デバイスを選択するポップアップウィンドウを表示します。



5. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、コピー先のデバイス項目を選択（反転表示）します。
6. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、CD-R ／ CD-RWディスクの書き込み形式を選択するポップアップウィンドウを表示します。



メモ

- 選択したデバイスのメディアの読み込みが完了していない場合は、**“MEDIA READ”** およびプログレスバーがポップアップ表示されます。
- 選択したデバイスのメディアがセットされていない場合は、**“MEDIA READ”** 後に **“ERROR”** とメディア名（**“CF READ”** など）がポップアップ表示されます。

7. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、選択したデバイスのメディアに記録するファイル形式を選択（反転表示）します。

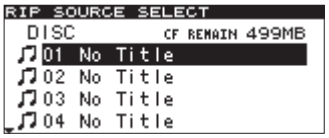
FILE
ファイル形式を設定します。
選択肢：**“.mp3”**（初期値）、**“.wav”**

BITRATE
MP3形式のビットレートを設定します。
選択肢：**“64kbps”**、**“128kbps”**、**“192kbps”**（初期値）、**“256kbps”**、**“320kbps”**

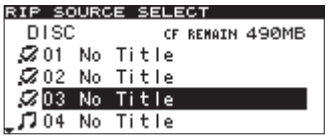
メモ

選択したデバイスのメディアに記録するファイルのサンプリング周波数は、44.1kHz固定です。

8. すべての設定が終了したら、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、**“RIP SOURCE SELECT”** 画面（ソース選択画面）を表示します。



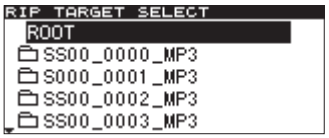
9. コピーするトラック（ソース）を選択（反転表示）します。
ソースにするトラックを選択（反転表示）し、本体のFUNCTIONボタン（リモコンのFUNCボタン）を押して、チェックマーク（**“✔”**）を付けます。複数のトラックを選択する場合、この操作を繰り返します。
選択したファイルを選択解除するには、再び本体のFUNCTIONボタン（リモコンのFUNCボタン）を押します。
画面右上部に、書き込み後の選択したデバイスのメディアの残量が表示されます。ソース選択作業中にソース容量がメディアの残り容量を超える、またはソーストラック数がメディアのファイル数制限を超えると、**“OVER”** が表示され、次の手順10.を受け付けません。選択解除などを行って、“OVER” が表示されなくなるようにしてください。



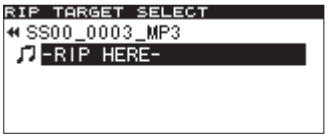
メモ

トラックを一つだけ選択（反転表示）する場合は、本体のFUNCTIONボタン（リモコンのFUNCボタン）を押す必要がありません。反転した状態で次の手順10.に進んでください。

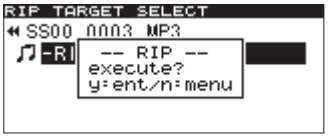
10. コピーするすべての希望トラックを選択したら、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、選択を確定します。
書き込み先（ターゲット）選択を行うための **“RIP TARGET SELECT”** 画面が表示されます。



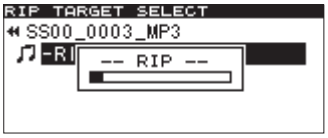
11. 書き込み先（ターゲット）を“**RIP TARGET SELECT**”画面内からソースを選択（反転表示）します。
選択したフォルダーまたはファイルの後ろに、フォルダーやファイルが書き込まれます。



12. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、コピー先を確定します。
確認のポップアップメッセージが表示されます。



13. 再度、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押します。
選択したデバイスのメディアに書き込みを開始します。
実行中は、“**-- RIP --**”およびプログレスバーがポップアップ表示されます。

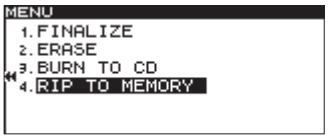


書き込みが終了すると、“**CD**”メニュー画面に戻ります。

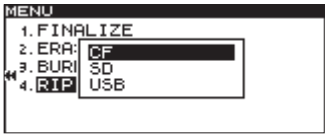
データCDのファイルをコピーする

データCD上のMP3ファイルまたはWAVファイルを、そのままの形式で選択したデバイスのメディア（USBメモリー／ SDカード／ CFカード）にコピーする手順を説明します。
以下の手順は、カレントデバイスが“**CD**”に設定され、コピー元のファイルを含むCD-R ／ CD-RWディスクおよびコピー先の選択したデバイスのメディアが本機にセットされていることを前提にしています。

1. 本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）を押して、“**MENU**”画面を表示します。
2. “**CD**”メニュー画面を表示します。
3. “**RIP TO MEMORY**”項目を選択（反転表示）し、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押します。



4. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、デバイスを選択するポップアップウィンドウを表示します。

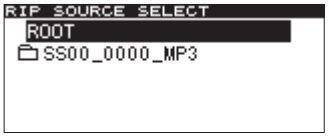


5. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、コピー先のデバイス項目を選択（反転表示）します。

メモ

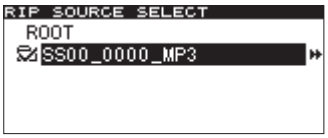
- 選択したデバイスのメディアの読み込みが完了していない場合は、“**MEDIA READ**”およびプログレスバーがポップアップ表示されます。
- 選択したデバイスのメディアがセットされていない場合は、“**MEDIA READ**”後に“**ERROR**”とメディア名（“**CF READ**”など）がポップアップ表示されます。

6. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、“**RIP SOURCE SELECT**”画面を表示します。



7. コピーするファイルまたはフォルダーを“**RIP SOURCE SELECT**”画面内から選択（反転表示）します。フォルダーを選択すると、フォルダー内のファイルがすべてソースになります。
複数のフォルダーやファイルを選択する場合は、希望のフォルダーまたはファイルを選択した状態で本体のFUNCTIONボタン（リモコンのFUNCボタン）を押す、という操作を繰り返します。
選択したフォルダーやファイルには、チェックマーク（“✔”）が付きます。なお、同一フォルダー内にあるフォルダーやファ

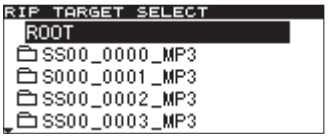
イルのみ、複数選択が可能です。
選択したフォルダーやファイルを選択解除するには、再び本体のFUNCTIONボタン（リモコンのFUNCボタン）を押します。



メモ

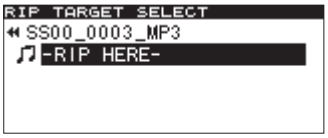
- 同一フォルダー内のフォルダー／ファイルのみ複数選択可能ですので、本体のFUNCTIONボタン（リモコンのFUNCボタン）を使って一つ目のフォルダーやファイルを選択すると、以後は別のフォルダーに移動することができなくなります。
- フォルダーまたはファイルを一つだけ選択する場合は、本体のFUNCTIONボタン（リモコンのFUNCボタン）を押す必要がありません。反転した状態で次の手順8.に進んでください。

8. コピーするファイルをすべて選択したら、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、選択を確定します。
書き込み先（ターゲット）選択を行うための**“RIP TARGET SELECT”**画面が表示されます。

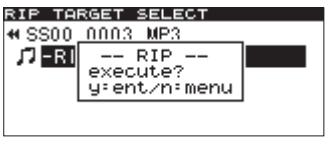


ソース容量が選択したデバイスのメディアの残り容量を超える、またはファイル数がメディアのファイル数制限を超えると、それぞれ**“CAPACITY OVER”**、**“TRACK OVER”**のメッセージがポップアップ表示され、ソース選択を確定することができません。この場合、STOPボタンを押してポップアップ表示を消し、ソースファイルの総容量あるいは数を減らしてから、再度、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押してください。

9. 書き込み先（ターゲット）を**“RIP TARGET SELECT”**画面内から選択します。
選択（反転表示）したフォルダーまたはファイルの後ろに、フォルダーやファイルが書き込まれます。

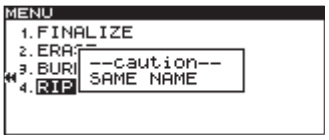


10. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、コピー先を確定します。
確認のポップアップメッセージが表示されます。



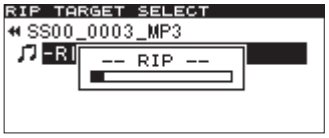
メモ

コピー先にすでにあるファイルと名前が重複している場合は、警告メッセージがポップアップ表示されます。



その後メッセージが消えて、**“CD”**メニュー画面に戻ります。

11. 再度、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押します。
選択したデバイスのメディアに書き込みを開始します。
実行中は、**“-- RIP --”**およびプログレスバーがポップアップ表示されます。



書き込みが終了すると、**“CD”**メニュー画面に戻ります。

第11章　CD-RWの管理（SS-CDR200のみ）

CDメニューを使って、CD-RWディスクのアンファイナライズ、トラック消去、ディスク消去、ディスクのリフレッシュ（全面消去）を行うことができます。本章では、これらのCD-RWディスク管理機能について説明します。
以下の操作説明は、カレントデバイスが **“CD”** に設定され、CD-RWディスクが挿入されていることを前提としています。

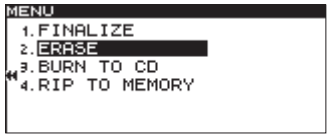
メモ

CDメニューを使って、この他にCD-R ／ CD-RWディスクのファイナライズ、CDとUSBメモリー／ SDカード／ CFカード間のファイルコピーを行うことができます。
ファイナライズについては、「第4章 録音」の中で説明します。
（ → 42ページ「CD-R ／ CD-RWディスクのファイナライズ（SS-CDR200のみ）」）
また、CDとUSBメモリー／ SDカード／ CFカード間のファイルコピーについては、「第10章 CDとUSBメモリー／ SDカード／ CFカード間のファイルコピー（SS-CDR200のみ）」（63ページ）をご覧ください。

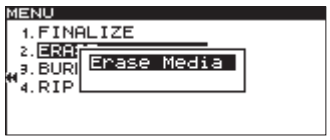
CD-RWディスクをアンファイナライズする

ファイナライズ済みのCD-RWディスクが挿入されている場合には、**“ERASE”** 項目を使ってアンファイナライズを行うことができます。

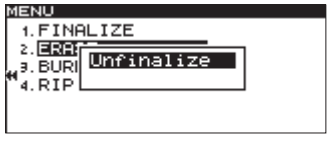
1. 本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）を押して、**“MENU”** 画面を表示します。
2. **“CD”** メニュー画面を表示します。
3. **“ERASE”** 項目を選択（反転表示）します。



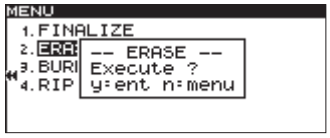
4. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、消去項目選択のためのポップアップウィンドウを表示します。



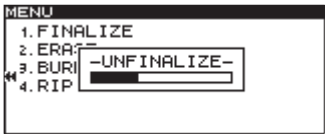
5. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、**“Unfinalize”** 項目を選択（反転表示）します。



6. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押します。
確認のポップアップメッセージが表示されます。



7. 再度、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、アンファイナライズを開始します。
実行中は、**“- UNFINALIZE -”** およびプログレスバーがポップアップ表示されます。

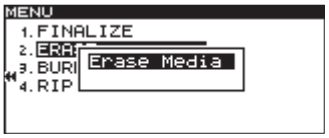


アンファイナライズを終了すると、**“CD”** メニュー画面に戻ります。

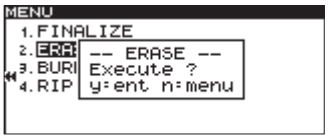
CD-RWディスクを消去する

書き込み済みのCD-RWディスク全体を消去することができます。

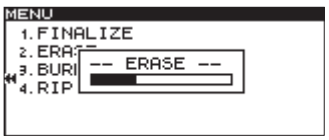
1. 本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）を押して、**“MENU”** 画面を表示します。
2. **“CD”** メニュー画面を表示します。
3. **“ERASE”** 項目を選択（反転表示）します。
4. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、消去項目選択のためのポップアップウィンドウを表示します。
5. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）**“Erase Media”** 項目を選択（反転表示）します。



6. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押します。
確認のポップアップメッセージが表示されます。



7. 再度、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、トラック消去を開始します。
実行中は、**“-- ERASE --”** およびプログレスバーがポップアップ表示されます。



トラック消去を終了すると、**“CD”** メニュー画面に戻ります。

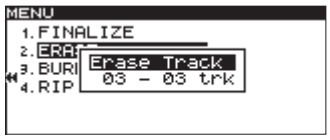
メモ

ファイナライズ済みのCD-RWディスクに対してディスク消去を実行する場合は、ディスクをアンファイナライズしてから、指定のトラックの消去を行います。

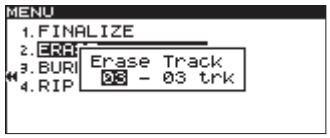
トラックを消去する

オーディオCD形式のファイルを記録したCD-RWディスクの場合、トラックを消去することができます。指定のトラック番号以降（最終トラックまで）が消去されます。

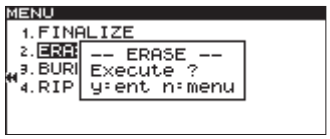
1. 本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）を押して、**“MENU”**画面を表示します。
2. **“CD”**メニュー画面を表示します。
3. **“ERASE”**項目を選択（反転表示）します。
4. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、消去項目選択のためのポップアップウィンドウを表示します。
5. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、**“Erase Track”**項目を選択（反転表示）します。



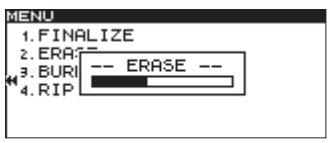
6. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押します。
   消去するトラック範囲の始まりのトラックを選択（反転表示）状態にします。



7. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、消去するトラック範囲の始まりのトラックを選択（反転表示）します。上の表示例では、トラック**“03”**が選ばれています。
   トラック範囲の最終トラック（上図の**“03”**部）は、ディスクの最終トラックに固定され変更できません。
8. 選択が終了したら、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押します。
   確認のポップアップメッセージが表示されます。



9. 再度、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、トラック消去を開始します。
   実行中は、**“-- ERASE --”**およびプログレスバーがポップアップ表示されます。



トラック消去を終了すると、**“CD”**メニュー画面に戻ります。

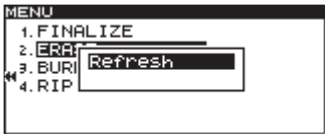
メモ

- ファイナライズ済みのCD-RWディスクに対してトラック消去を実行する場合は、CD-RWディスクをアンファイナライズしてから、指定のトラックの消去を行います。
- オーディオCD形式のファイルを記録したディスクでのみ実行可能です。

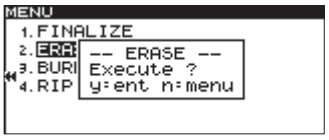
ディスクをリフレッシュ（全面消去）する

CD-RWディスクをリフレッシュ（全面消去）することができます。停電などが原因でファイナライズの途中で強制終了したCD-RWディスクや、パソコンで使用したCD-RWディスクは、本機で認識できないことがあります。このような場合は、以下の手順でCD-RWディスクをリフレッシュすると、認識できるようになることがあります。

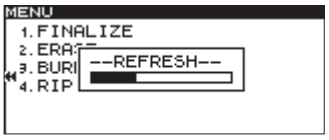
1. 本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）を押して、**“MENU”**画面を表示します。
2. **“CD”**メニュー画面を表示します。
3. **“ERASE”**項目を選択（反転表示）します。
4. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、消去項目選択のためのポップアップウィンドウを表示します。
5. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）**“Refresh”**項目を選択（反転表示）します。



6. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押します。
   確認のポップアップメッセージが表示されます。



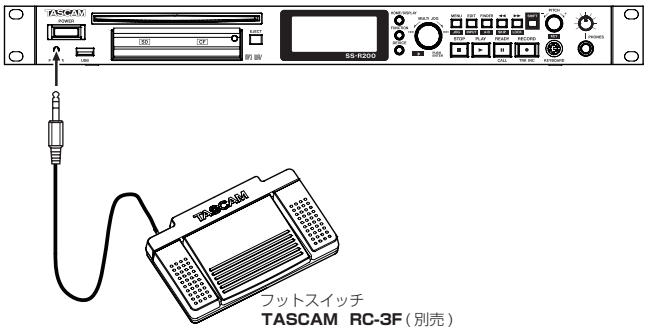
7. 再度、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押して、CD-RWディスクのリフレッシュ（全面消去）を開始します。
   実行中は、**“-- REFRESH --”**およびプログレスバーがポップアップ表示されます。



CD-RWディスクのリフレッシュ（全面消去）を終了すると、**“CD”**メニュー画面に戻ります。

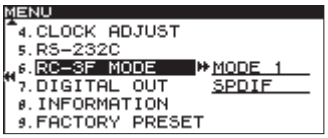
フットスイッチによるコントロール

フロントパネルのREMOTE端子に接続した別売の専用フットスイッチ（TASCAM RC-3F）を使って、本機を操作することができます。



フットスイッチを設定する

1. 本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）を押して、**“MENU”** 画面を表示します。
2. **“UTILITY”** メニュー画面を表示します。
3. **“RC-3F MODE”** 項目を選択（反転表示）します。



4. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。
5. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、三つのペダルの割り当てモードを選択（反転表示）します。

   選択肢：“MODE 1”（初期値）、**“MODE 2”**、**“MODE 3”**
6. 設定が終了したら、本体のHOME/DISPLAYボタン（リモコンのHOME/DISPボタン）を押して、ホーム画面に戻ります。

メモ

フットスイッチの設定は、電源をオフにしても保持されます。

フットスイッチを使う

フットスイッチの各ペダルを踏むと、**“RC-3F MODE”** 項目で割り当てられた動作を行います。

各モードの詳細

各MODEの詳細は、下記の通りです。

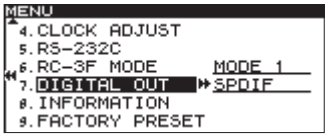
MODE	フットスイッチ		
	L（押す）	C（押す）	R（押す）
	L（長押し）	C（離す）	R（長押し）
1	I◄◄	PLAY	►►I
	◄◄	READY/STOP	►►
2	I◄◄	PLAY/PAUSE	►►I
	◄◄	---	►►
3	PITCH（−）	PLAY/PAUSE	PITCH（+）
	---	---	---

MODE1：会議などの議事録起こしに最適なモードです。
MODE2：トランスポート用簡易リモコンのモードです。
MODE3：ピッチコントロール用のモードです。

デジタル出力設定

本機では、デジタル出力のフォーマットを **“SPDIF”** にするか、**“AES/EBU”** にするかを選ぶことができます。
以下のメニュー操作を行って設定します。

1. 本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）を押して、**“MENU”** 画面を表示します。
2. **“UTILITY”** メニュー画面を表示します。
3. **“DIGITAL OUT”** 項目を選択（反転表示）します。



4. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。
5. 本体のMULTI JOGダイヤルを回して（リモコンの▲ ／ ▼ボタンを押して）、デジタル出力のフォーマットを選択（反転表示）します。

   選択肢：“SPDIF”（初期値）、**“AES/EBU”**
6. 設定が終了したら、本体のHOME/DISPLAYボタン（リモコンのHOME/DISPボタン）を押して、ホーム画面に戻ります。

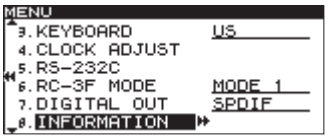
メモ

デジタル出力の設定は、電源をオフにしても保持されます。

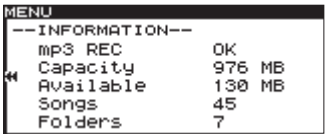
メディアの情報を見る

カレントデバイスのメディア情報を見ることができます。
以下のメニュー操作を行います。

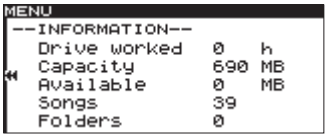
1. 本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）を押して、**“MENU”** 画面を表示します。
2. **“UTILITY”** メニュー画面を表示します。
3. **“INFORMATION”** 項目を選択（反転表示）します。



4. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押します。
   カレントデバイスのメディア情報が表示され、全体容量、空き容量などの使用状況を確認することができます。



[USB ／ SD ／ CFデバイス選択時の表示例]



[CDデバイス選択時の表示]

5. 確認が終了したら、本体のHOME/DISPLAYボタン（リモコンのHOME/DISPボタン）を押して、ホーム画面に戻ります。

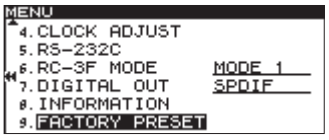
出荷時の設定に戻す

本機のバックアップメモリーに保存されている各設定情報を工場出荷時の状態に戻すことができます。
以下のメニュー操作を行います。

メモ

カレントデバイスにメディアがセットされている場合は、設定を戻すことができません。カレントデバイスを変更する、またはカレントデバイスのメディアを取り外してから、再度操作を行ってください。

1. 本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）を押して、**“MENU”** 画面を表示します。
2. **“UTILITY”** メニュー画面を表示します。
3. **“FACTORY PRESET”** 項目を選択（反転表示）します。



4. 本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押します。
   確認のポップアップメッセージが表示されます。

5. 再度、本体のMULTI JOGダイヤル（リモコンのENTERボタン）を押します。
   各設定情報が工場出荷時の設定に戻り、メッセージ **“COMPLETE”** がポップアップ表示されて消えます。
6. 設定が終了したら、本体のHOME/DISPLAYボタン（リモコンのHOME/DISPボタン）を押して、ホーム画面に戻ります。

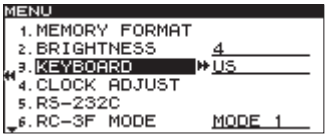
第13章　コンピューターキーボードを使った操作

IBM PC互換機用、PS/2インタフェースのキーボードやパソコン用USBキーボードを、本機フロントパネルKEYBOARD端子またはUSB端子に接続することにより、キーボードを使って本機を操作することができます。
各種コントロールが可能ですが、特に名前の入力を効率的に行うことができます。

キーボードタイプの設定

接続するキーボードに合わせて、キーボードタイプを選択します。

1. 本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）を押して、**“MENU”**画面を表示します。
2. **“UTILITY”**メニュー画面を表示します。
3. **“KEYBOARD”**項目を選択（反転表示）します。



4. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押してカーソルが右側に移動し、設定項目を選択（反転表示）状態にします。
5. 接続するキーボードタイプに合わせて、**“US”**（英語対応キーボード）または**“JPN”**（日本語対応キーボード）に設定します。

   選択肢：“US”（初期値）、**“JPN”**

6. 設定が終了したら、本体のHOME/DISPLAYボタン（リモコンのHOME/DISPボタン）を押して、ホーム画面に戻ります。

メモ

キーボードタイプの設定は、電源をオフにしても保持されます。

キーボードを使って名前を入力する

パソコンの文字入力と同じ感覚で、フォルダー名、トラック名を編集／入力することができます。
名前を編集する画面（**“RENAME”**画面）を表示するには、**“FINDER”**画面からファイルまたはフォルダーの**“FINDER MENU”**を表示し**“RENAME”**項目を選択します。

入力する文字種を選択するには：

パソコンでの操作と同じように、ShiftキーとCaps Lockキーを使って入力する文字の種類を選択できます。

入力するには：

数字キー、文字キー、記号キーで直接入力します。

カーソルを移動するには：

↑／↓／←／→ キーを使います。

文字を削除するには：

Deleteキー：カーソル位置の文字を削除します。
Back Spaceキー：カーソル手前の文字を削除します。

文字を挿入するには：

希望の位置でInsertキーを押します。

文字を修正するには：

カーソルを合わせて上書きします。

注意

- 以下の記号や句読点は、名前に使うことができません。

  ¥ ／ : ; , * ? " < > |

- カタカナ入力は、できません。

キーボード操作一覧

名前の入力だけでなく、トランスポートコントロール、編集など、各種動作をキーボードからコントロールすることができます。以下に、キーボードのキーの機能をまとめます。

トランスポートの操作

キーボードのキー	動作
←	◄◄ボタンと同じ
→	►► ボタンと同じ
スペースバー	PLAYボタンと同じ
スペースバー	READYボタンと同じ
Ctrl + S	STOPボタンと同じ
Ctrl + R	RECORDボタンと同じ
Ctrl + F	►►Iボタンと同じ
Ctrl + B	I◄◄ボタンと同じ
↑	►►Iボタンと同じ
↓	I◄◄ボタンと同じ

MENU画面、FUNCTION画面などの操作

キーボードのキー	動作
Esc	編集／タイトル編集をキャンセルしてホーム画面に戻ります
F1	**“FUNCTION”**画面を表示します
F2	**“MENU”**画面を表示します
F3	**“EDIT”**画面を表示します
F4	**“FINDER”**画面を表示します
F5	リピートのオン／オフ設定
F6	A-Bリピートのオン／オフ設定
F7	ピッチコントロール機能のオン／オフ設定
F8	キーコントロール機能のオン／オフ設定
F9	オートキュー機能のオン／オフ設定
F10	オートレディ機能のオン／オフ設定
F11	インクリメンタルプレー機能のオン／オフ設定
F12	リモコンのFLASH LOADボタンと同じ
Shift + F5	ファイル形式の設定
Shift + F6	サンプリング周波数の設定
Shift + F7	ビットレートの設定
Shift + F8	オートトラック機能の設定
Shift + F9	シンク録音機能の設定
Shift + F10	サンプリングレートコンバーターの設定
Shift + F11	コンプレッサーの設定

キーボードのキー	動作
Ctrl + F1	フラッシュロード完了後、トラック1をフラッシュスタート再生
Ctrl + F2	フラッシュロード完了後、トラック2をフラッシュスタート再生
Ctrl + F3	フラッシュロード完了後、トラック3をフラッシュスタート再生
Ctrl + F4	フラッシュロード完了後、トラック4をフラッシュスタート再生
Ctrl + F5	フラッシュロード完了後、トラック5をフラッシュスタート再生
Ctrl + F6	フラッシュロード完了後、トラック6をフラッシュスタート再生
Ctrl + F7	フラッシュロード完了後、トラック7をフラッシュスタート再生
Ctrl + F8	フラッシュロード完了後、トラック8をフラッシュスタート再生
Ctrl + F9	フラッシュロード完了後、トラック9をフラッシュスタート再生
Ctrl + F10	フラッシュロード完了後、トラック10をフラッシュスタート再生
Ctrl + F11	フラッシュロード完了後、トラック11をフラッシュスタート再生
Ctrl + F12	フラッシュロード完了後、トラック12をフラッシュスタート再生
Ctrl + E *	本体の**EJECT**ボタンと同じ
Ctrl + I	入力ソースの選択
Ctrl + J	ジョグ再生モードへのオン設定
Ctrl + K	スキップタイムの設定
Ctrl + L	パネルロック機能のオン／オフ設定
Ctrl + C	コール機能のオン設定
Tab	本体の**DEVICE**ボタン、リモコンの**DEVICE SELECT**ボタンと同じ
Caps Lock	「英大文字」を選択／解除
Back Space	カーソル手前の文字を削除
Enter	本体の**MULTI JOG**ダイヤル、リモコンの**ENTER**ボタンを押すと同じ
Insert	カーソル位置に文字を挿入
Home	本体の**HOME/DISPLAY**ボタン、リモコンの**HOME/DISP**ボタンと同じ
Delete	カーソル位置の文字を削除
↑	本体の**MULTI JOG**ダイヤルを左へ回す、リモコンの▲ボタンを押すと同じ
↓	本体の**MULTI JOG**ダイヤルを右へ回す、リモコンの▼ボタンを押すと同じ
←	本体の◀◀ボタン、リモコンの◀ボタンを押すと同じ
→	本体の▶▶ボタン、リモコンの▶ボタンを押すと同じ
Shift + ↑	ディスプレーのコントラスト調節
Shift + ↓	ディスプレーのコントラスト調節
Ctrl + ↑	ピッチコントロール機能のピッチレベル調節
Ctrl + ↓	ピッチコントロール機能のピッチレベル調節
Ctrl + ←	キーコントロール機能のキーレベル調節
Ctrl + →	キーコントロール機能のキーレベル調節
数字キー	数字の入力

＊ Ctrl + E キーは、SS-CDR200のみ

メモ

キーボードを使って編集を行う場合は、**“FINDER”**画面表示中に、行いたい編集キーを押してください。

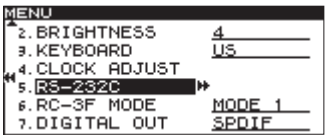
例：DELETEを行う場合：

F4 キーを押して、**“FINDER”**画面を表示します。
削除したいファイルまたは、フォルダーを↑／↓／←／→ キーで反転表示にします。
F3 キーを押して、**“EDIT”**画面を表示します。
↑／↓ キーで **“DELETE”** 項目反転表示にします。
Enterキーを押すとディスプレーに **“EXECUTE?”** が表示されますので、Enterキーを押してください。

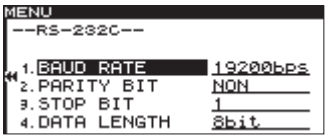
RS-232C端子を使う

本機のCONTROL I/O RS-232C端子（D-sub 9ピン、RS-232C準拠）を使って、外部（パソコンなど）から本機をシリアルコントロール制御することができます。
通信に関する設定は、メニューから行います。

1. 本体のMENU [JOG] ボタン（リモコンのMENUボタン）を押して、**“MENU”**画面を表示します。
2. **“UTILITY”**メニュー画面を表示します。
3. **“RS-232C”**項目を選択（反転表示）します。



4. 本体のMULTI JOGダイヤルまたは►► [LOCK] ボタン（リモコンのENTERボタンまたは▶ボタン）を押して、**“RS-232C”**設定画面を表示します。



5. **“RS-232C”**設定画面の各項目の設定を行います。

BAUD RATE

通信速度（ボーレート）を設定します。

選択肢：**“4800 bps”**、**“9600 bps”**、**“19200 bps”**（初期値）、**“38400 bps”**

PARITY BIT

パリティビットの有無を設定します。

選択肢：**“NON”**（無し、初期値）、**“EVEN”**（偶数）、**“ODD”**（奇数）

STOP BIT

ストップビットを設定します。

選択肢：**“1”**（初期値）、**“2”**

DATA LENGTH

データ長を設定します。

選択肢：**“7”**、**“8”**（初期値）

6. 各項目の設定が終了したら、本体のHOME/DISPLAYボタン（リモコンのHOME/DISPボタン）を押して、ホーム画面に戻ります。

メモ

- RS-232Cの設定は、電源をオフにしても保持されます。
- 本機のRS-232C コマンドプロトコルについては、弊社のタスカム カスタマーサポートまでお問い合わせください。

パラレル端子を使う

本機のCONTROL I/O PARALLEL端子を使って、TASCAM RC-SS20などの外部のコントローラーから本機をパラレル制御することができます。ピンアサインは、次の通りです。

ピン番号	機能	IN / OUT
1	GND	-
2	PLAY / Flash 1	IN
3	STOP / Flash 2	IN
4	RECORD / Flash 3	IN
5	►►I（Next）/ Flash 4	IN
6	I◄◄（Previous）/ Flash 5	IN
7	Flash Load	IN
8	Fader Start	IN
9	Flash Tally	OUT
10	Ready Tally	OUT
11	Record Tally	OUT
12	Stop Tally	OUT
13	Play Tally	OUT
14	Remote Select**	IN
15	Ready / Flash 6	IN
16	Call / Flash 7	IN
17	Auto Cue / Flash 8	IN
18	Auto Ready / Flash 9	IN
19	Pitch / Flash 10	IN
20	Flash Page***	IN
21	EOM Tally	OUT
22	Device Select Tally 1****	OUT
23	---	-
24	Device Select Tally 2****	OUT
25	+5V*	-

In：外部コマンド受信アクティブロー
（グランド30ms 以上で動作）
Out；オープンドレインによるトランスポートステータス
表示用信号（耐圧50V 、最大電流50mA ）

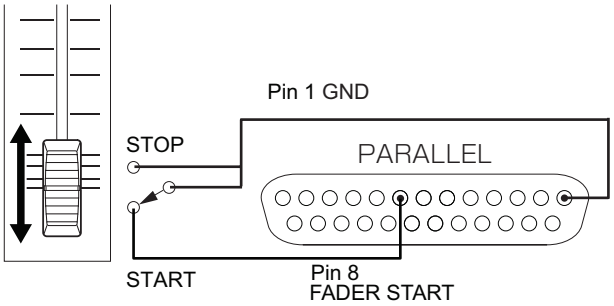
＊ 最大供給電流100mA

＊＊ピン14（Remote Select）
ハイのとき、上の表で「／」で区切られた二つの機能が表記されている入力ピン（ピン2 ～ 6および15 ～ 19）は、前者の機能が有効になり、通常のパラレルコントローラーとして使用することができます。
ローのとき、上記の入力ピンは、フラッシュスタートキーとして機能します。

＊＊＊ピン20（Flash Page）
ピン14（Remote Select）がローのとき、ピン20のハイ／ロー状態によって、割り当てトラックが、以下のようになります。

#14	#20	フラッシュスタートトラック
ロー	ハイ	1～10
ロー	ロー	11～20

以下は、フェーダースタート／ストップによって、本機の再生をコントロールする場合の接続例です。



＊＊＊ピン22 ／ピン24（Device Select Tallt 1 ／ 2）
ピン22とピン24のハイ／ローの状態によって、デバイスの割り当てが、以下のようになります。

#22	#24	デバイスの割り当て
ロー	ロー	USB
ハイ	ハイ	SD
ハイ	ロー	CF
ロー	ハイ	CD

第15章　メッセージ一覧

エラーメッセージ

以下のエラーメッセージがディスプレーにポップアップ表示されたときは、本体の**MULTI JOG**ダイヤル（リモコンの**ENTER**ボタン）を押して、メッセージ表示を閉じてから原因を解消してください。それでも改善しない場合は、最寄りの弊社サービス部にご相談ください。

	1行目	2行目	内容
1	- error -	DECODE	MP3ファイルまたはWAVファイルの再生に失敗しました。
2	- error -	REC STAND BY	録音開始準備に失敗しました。
3	- error -	CAPACITY	メディアの記録領域が不足しているため、録音を停止しました。
4	- error -	RECORD	録音中にエラーが発生しました。
5	- error -	INFO WRITING	情報の書き込み中にエラーが発生しました。
6	- error -	OVER FLOW	MP3ファイルまたはWAVファイルの録音中に、録音バッファーが不足しました。
7	- error -	Not Match DMA	メディアがシステムの要求する仕様を満たさないため、録音ができません。
8	- error -	FLASH LOAD	フラッシュスタートデータの読み込み中にエラーが発生しました。
9	- error -	DIN UNLOCK	デジタル入力がロックしていません。
10	- error -	DIN NotAudio	入力されているデジタル情報がオーディオ以外になっています。
11	- error -	FS UNMATCH	選択されたサンプリング周波数と異なるデジタル信号が入力されています。
12	- error -	EJECT	ディスクの排出に失敗しました。（SS-CDR200のみ表示）
13	- error -	MIX DISC	MP3形式またはWAV形式のファイルと、オーディオCD形式のファイルが混在したディスクです。（SS-CDR200のみ表示）
14	- error -	MEMORY READ	選択したデバイスのメディアがセットされていないため、BURN ／ RIPが実行できません。（SS-CDR200のみ表示）
15	- error -	TRACK	ディスクに書き込まれたファイルが再生不可能なファイル形式のため、再生できません。（SS-CDR200のみ表示）

警告メッセージ

操作を受け付けない場合は、以下のような警告メッセージをディスプレーにポップアップ表示します。警告メッセージは、約2秒間表示された後、自動的に消えます。

	1行目	2行目	内容
1	- caution -	CAN'T UNDO	取り消し可能な編集が存在しないため、UNDOできません。
2	- caution -	MEDIA FULL	メディアの記録領域が不足しているため、録音ができません。
3	- caution -	TRACK FULL	最大記録トラック数に達しているため、録音ができません。
4	- caution -	NoCallPoint	コールポイントが存在しません。
5	- caution -	CAN'T REC	システムの制限により録音ができません。
6	- caution -	WriteProtect	書き込みが禁止されたメディアです。
7	- caution -	NOT EXECUTE	編集の実行に失敗しました。
8	- caution -	CAN'T EDIT	システムの制限により編集ができません。
9	- caution -	CAN'T SELECT	システムの制限により選択／実行ができません。
10	- caution -	TRK PROTECT	保護されたトラックのため、編集ができません。
11	- caution -	NAME FULL	名前が最大文字数に達しています。
12	- caution -	PROGRAM FULL	プログラム内のトラック数が最大数に達しているため、登録できません。
13	- caution -	PGM EMPTY	プログラムが未登録ですので、再生できません。
14	- caution -	NoSearchTime	指定されたサーチタイム(サーチトラック)が存在しないため、サーチできませんでした。
15	- caution -	UnmatchMedia	メディアがシステムの要求する仕様を満たさないため、録音ができません。
16	- caution -	Dif Playlist	指定されたプレイリストとメディア情報に相違があります。
17	- caution -	P.LIST FULL	プレイリストへの登録数が規定数を超えるため、登録できませんでした。
18	- caution -	P.LIST EMPTY	プレイリストが未登録ですので、再生できません。
19	- caution -	P.LIST ENTRY	プレイリストに登録されたトラックを編集しようとしています。
20	- caution -	SURE TEXT	CD-TEXTの登録がされているがTOC書き込みを行わずにディスクを取り出そうとしています。（SS-CDR200のみ表示）
21	- caution -	SAME NAME	名前が重複しています。（SS-CDR200のみ表示）

	1行目	2行目	内容
22	Unapproved	FAT format	本機以外でフォーマットされたメディアです。以下の問題があります。 • 録音をすると書き込みが間に合わずエラーになる可能性があります。 • **“MEDIA READING”** に時間がかかります。 本機でフォーマットしたメディアを使用することを推奨します。

動作メッセージ

必要に応じてディスプレーの時間表示部に、以下のメッセージが表示されます。

	1行目	内容
1	POWER ON	システムが起動初期化中です。
2	DEVICE ERROR	デバイスが認識できません。サービスへお問い合わせください。
3	NO MEDIA	カレントデバイスのメディアが挿入されていません。
4	MONITOR	インプットモニター中です。
5	MEDIA READING	メディア読み込み中です。
6	MEDIA ERROR	メディアの読み込みに失敗しました。
7	UNKNOWN	FAT以外でファイル形式されたメディアです。本機で使用する場合は、フォーマットを行ってください。
8	INITIALIZING MEDIA	本機で使用するための情報を作成中です。
9	RECORD STAND BY	録音開始準備中です。
10	INFORMATION WRITING	録音情報の書き込み中です。
11	FLASH LOADING	フラッシュスタート情報の読み込み中です。
12	Fs CHANGING	現在のトラックのサンプリング周波数に一致するよう、システムのサンプリング周波数を変更しています。

第16章　トラブルシューティング

本機の動作がおかしいときは、修理を依頼する前にもう一度、下記の点検を行ってください。
それでも改善しないときは、お買い上げ店またはティアック修理センターにご連絡ください。

● **電源が入らない。**

↓

- 電源プラグなどがしっかりと差し込まれているか確認してください。

● **メディアを認識しない。**

↓

- USBメモリー／ SDカード／ CFカードがしっかりと挿入されているか確認してください。
- 再生や録音を一度停止してください。

● **本体で操作できない。**

↓

- パネルロック機能がオンになっていませんか？

● **再生できない。**

↓

- WAVファイルの場合は、本機が対応しているサンプリング周波数（44.1kHzまたは48kHz）と量子化数（16 ／ 24ビット）であるかどうかを確認してください。MP3ファイルの場合は、本機が対応しているビットレートであるかどうかを確認してください。

● **音が出ない。**

↓

- モニターシステムとの接続をもう一度確認してください。また、アンプの音量を確認してください。

● **録音できない。**

↓

- 接続をもう一度確認してください。
- 録音レベルを調節してください。
- メディアの容量が不足している場合は、不要なデータを削除して空き容量を増やすかメディアを変更してください。
- フォルダー内の全エントリー数（ファイル、フォルダーなどの総数）が多い場合は、録音するフォルダーを変更してください。

● **設定を変えたのに記憶されていない。**

↓

- 本機では、設定を変更するたびにバックアップを行っています。電源を切るタイミングによっては、バックアップを失敗してしまう場合がありますので、設定の変更直後に電源を切らないでください。

● **雑音がする。**

↓

- 接続ケーブルが接触不良になっていないか、確認してください。

● **名前の編集時、“Name Full”が表示される。**

↓

- ファイル名やフォルダー名などの文字数はシステムの制約上、255文字（半角）までです。なお、**“FINDER”**画面内のフルパスで255文字ですので、たとえばサブフォルダー内のファイルやフォルダーの場合は、上位フォルダーの文字数分と仕切り文字に使われる￥マークを含めて255文字までとなります。

定格

記録メディア

USBメモリー（512MB～64GB）
SDカード（512MB～2GB）
SDHCカード（4GB～32GB）
CFカード（512MB～64GB、Type I のみ）
CD-R、CD-R-DA、CD-RW、CD-RW-DA
（12cm、8cm、CD-RWはHigh Speed に対応、SS-CDR200のみ）

録音再生ファイル形式

MP3：44.1k/48kHz、64k/128k/192k/256k/320kbps
WAV：44.1k/48kHz、16/24ビット（24ビット：再生のみ）
CD-DA：44.1kHz、16ビット

チャンネル数

2チャンネル（ステレオ）
1チャンネル（モノラル）

入出力定格

アナログオーディオ入出力定格

ANALOG INPUTS（BALANCED）端子（SS-CDR200 ／ SS-R200のみ）

コネクター	：XLR-3-31（1：GND、2：HOT、3：COLD）
入力インピーダンス	：22kΩ
規定入力レベル	：+4dBu（1.23Vrms）
最大入力レベル	：+20dBu（7.75Vrms *）
最小入力レベル	：−6dBu（0.39Vrms）以上（規定レベルに調整可能な最小入力レベル）

ANALOG INPUTS（UNBALANCED）端子

コネクター	：RCAピンジャック
入力インピーダンス	：22kΩ
規定入力レベル	：−10dBV（0.316Vrms）
最大入力レベル	：+6dBV（2.0Vrms）
最小入力レベル	：−20dBV（0.1Vrms）以上（規定レベルに調整可能な最小入力レベル）

ANALOG OUTPUTS（BALANCED）端子（SS-CDR200 ／ SS-R200のみ）

コネクター	：XLR-3-32（1：GND、2：HOT、3：COLD）
出力インピーダンス	：100Ω
規定出力レベル	：+4dBu（1.23Vrms）
最大出力レベル	：+20dBu（7.75Vrms *）

ANALOG OUTPUTS（UNBALANCED）端子

コネクター	：RCAピンジャック
出力インピーダンス	：200Ω
規定出力レベル	：−10dBV（0.316Vrms）
最大出力レベル	：+6dBV（2.0Vrms）

＊ バランス最大入出力レベルを変更したいときは、タスカム カスタマーサポートへお問い合わせください。

デジタルオーディオ入出力定格

DIGITAL IN端子

コネクター　：RCA ピンジャック
フォーマット　：IEC60958-3（S/PDIF）またはAES3-2003/IEC60958-4（AES/EBU）自動判別（AES3-2003/IEC60958-4（AES/EBU）はデータフォーマットのみ、物理フォーマットはIEC60958-3（S/PDIF）準拠）
入力可能サンプリング周波数：32kHz ～ 48kHz

DIGITAL OUT端子

コネクター　：RCA ピンジャック
フォーマット　：IEC60958-3（S/PDIF）、またはAES3-2003/IEC60958-4（AES/EBU）切り換え（AES3-2003/IEC60958-4（AES/EBU）はデータフォーマットのみ、物理フォーマットはIEC60958-3（S/PDIF）準拠）

コントロール入出力定格

REMOTE端子（RC-3F、RC-20用）

コネクター：2.5mm TRSジャック

USB端子

コネクター：USB Aタイプ 4ピン
プロトコル：USB2.0 HIGH SPEED（480Mbps）

KEYBOARD 端子

コネクター：ミニDINコネクター（PS/2）

REMOTE IN（RC-SS2）端子

コネクター：3.5mm TRSジャック

RS-232C端子（SS-CDR200 ／ SS-R200のみ）

コネクター：D-sub 9ピン

CONTROL I/O PARALLEL端子（SS-CDR200 ／ SS-R200のみ）

コネクター：D-sub 25ピン
最大入力電圧：+5.5V
ハイレベル最小入力電圧：+3.75V
ローレベル最大入力電圧：+1.25V
出力形式：オープンドレイン（耐圧50V、最大50mA）
ローレベル最大出力電圧：0.5V
+5V電源 最大供給電流：100mA

オーディオ性能

周波数特性

20Hz-20kHz：±0.5dB（録音時、JEITA）

歪率

0.005%以下（録音時、JEITA）

S/N比

95dB以上（録音時、JEITA）

ダイナミックレンジ

95dB（録音時、JEITA）

チャンネル間クロストーク

95dB（録音時、JEITA）

注）JEITA：JEITA CP-2150基準

バックアップメモリー

本機は、電源をオフにしても、以下の設定をバックアップします。

- ピッチコントロール機能のオン／オフ設定
- ピッチステップの設定
- キーコントロール機能のオン／オフ設定
- 各メニュー設定
  （再生範囲の設定、再生モードの設定、リピート再生機能の設定、オートキュー機能の設定、オートレディ機能の設定、インクリメンタルプレー機能の設定、モノラル再生の設定、EOM機能の設定、レジューム再生の設定、パワーオンプレーの設定、リンク再生の設定、入力ソースの設定、入力ボリュームの設定、録音ファイル形式の設定、シンク録音の設定、オートトラックインクリメントの設定、ポーズモードの設定、サンプリングレートコンバーターの設定、録音ファイル名の設定、コンプレッサーの設定、ディザーの設定、ディスプレーとインジケーターの輝度設定、キーボードタイプの設定、RS-232Cの設定、フットスイッチの設定、デジタル出力の設定）

一般

電源

AC100-240V、50-60Hz

消費電力

SS-CDR200

100V：20W、110V-240V：23W

SS-R200 ／ SS-R100

100V：16W、110V-240V：20W

外形寸法

482.6 x 44.5 x 301mm（幅 x 高さ x 奥行き）

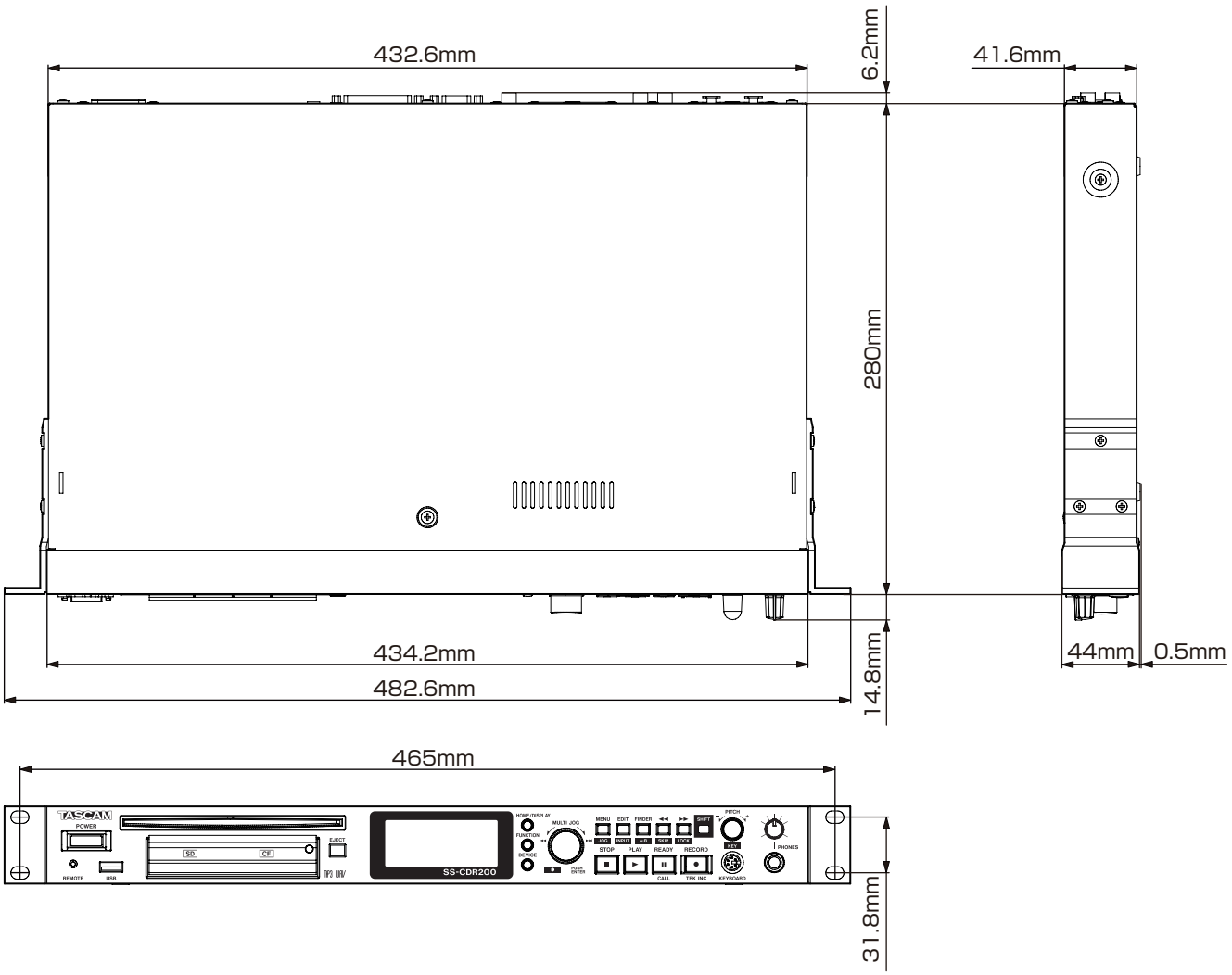
質量

SS-CDR200	3.7kg
SS-R100 ／ R200	3.4kg

動作温度

5～35℃

寸法図



＊ 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。

＊ 製品の改善により、仕様および外観が予告なく変更することがあります。

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポートまでご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く10:00～12:00 ／ 13:00～17:00です。

タスカム カスタマーサポート 〒206-8530　東京都多摩市落合 1-47

0120-152-854

携帯電話・PHS・IP電話などからはフリーダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-356-9137 ／ FAX：042-356-9185

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～17:00です。

ティアック修理センター 〒358-0026　埼玉県入間市小谷田 858

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

市内通話料でOK ナビダイヤル

0570-000-501

ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。
PHS・IP電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。
新電電各社をご利用の場合は、「0570」がナビダイヤルとして正しく認識されず、「現在、この電話番号は使われておりません」などのメッセージが流れることがあります。
このような場合は、ご契約の新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：04-2901-1033 ／ FAX：04-2901-1036

■ 住所や電話番号は, 予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

ティアック株式会社
〒206-8530 東京都多摩市落合 1-47
http://tascam.jp/

Printed in China